

2



\*0005610000\*

0005610-000

312.9-Ta369k

国家地理学概論

高尾常盤・著

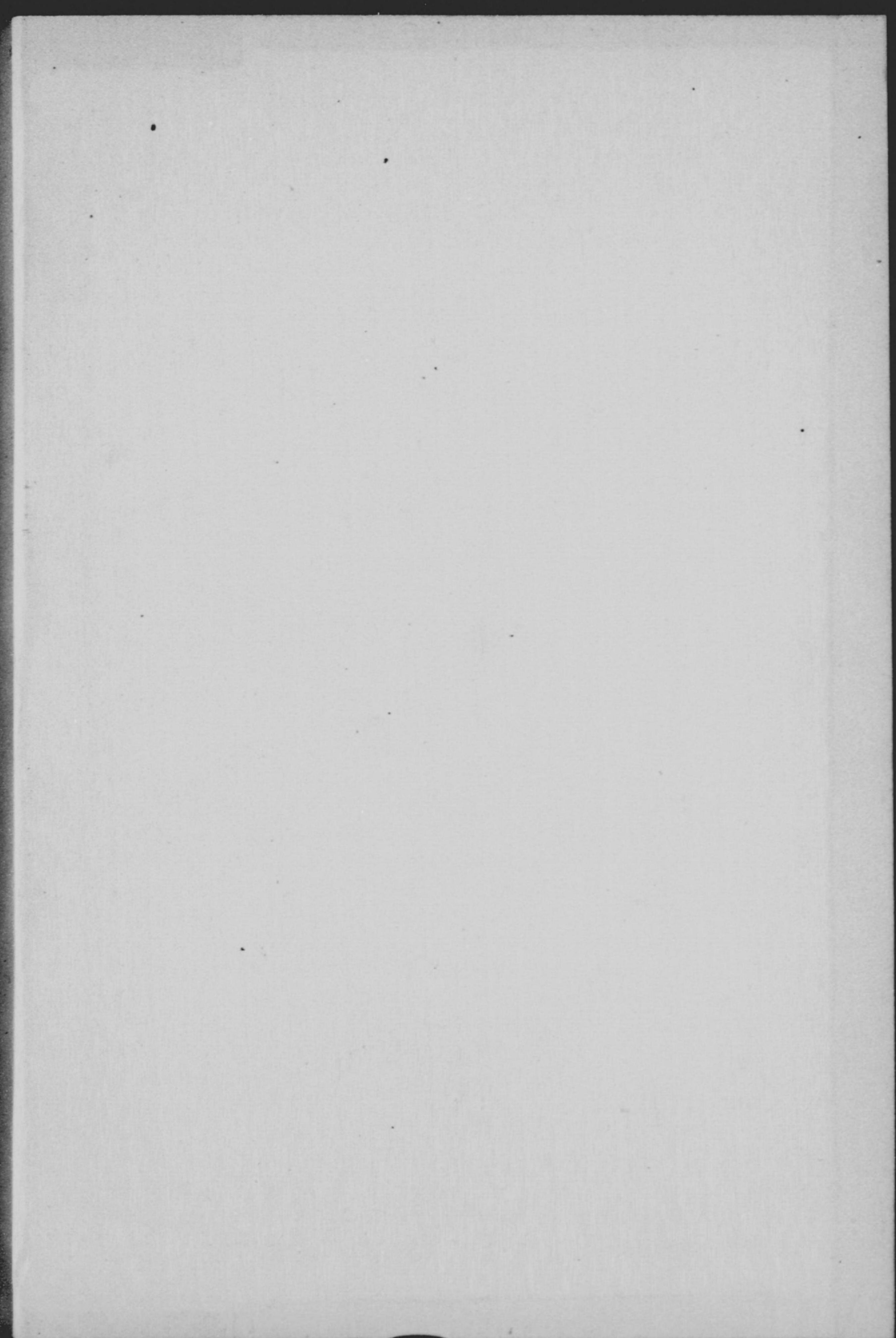
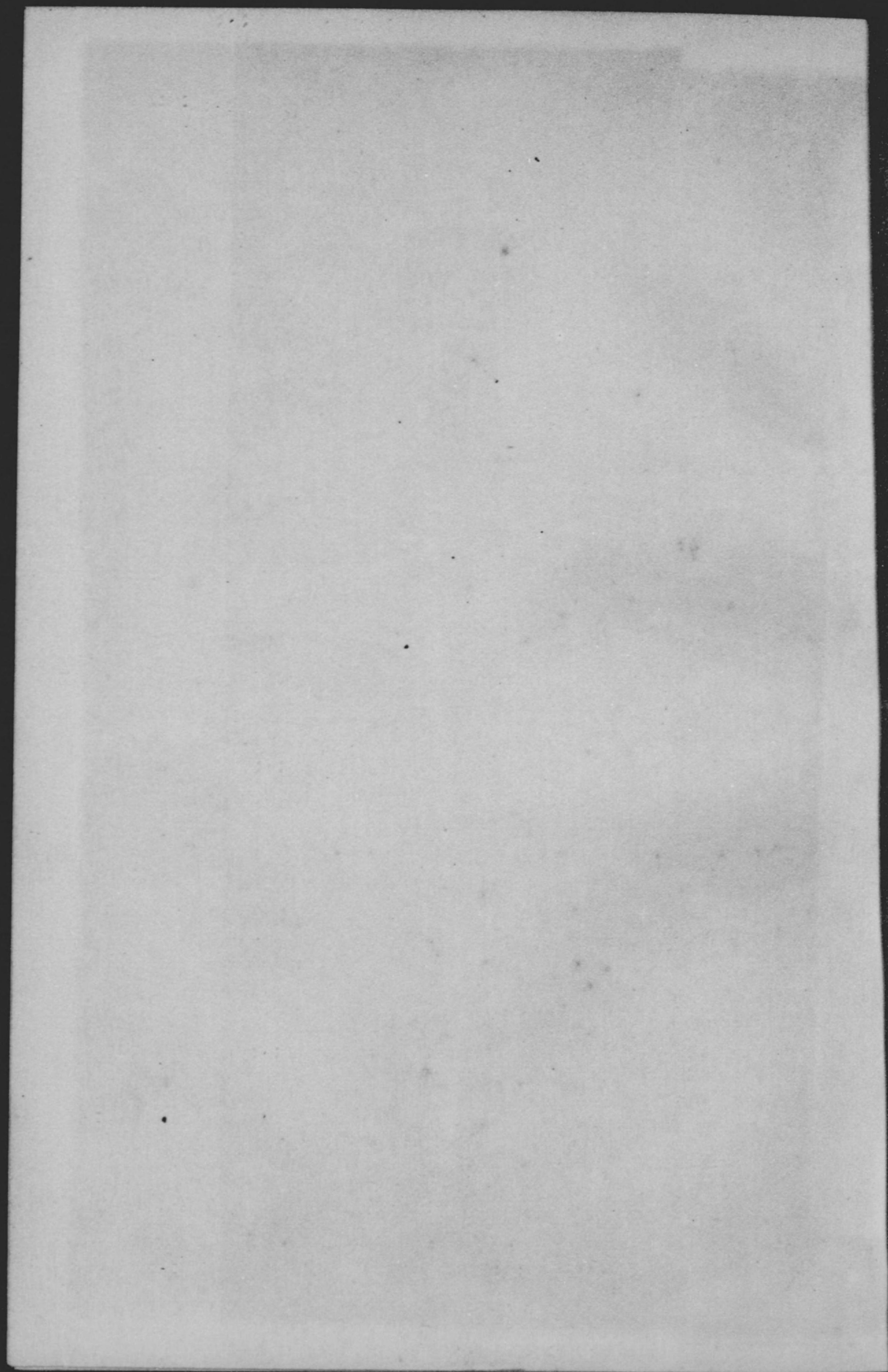
目黒書店

1931

ABC

この著作物は、著作権者不明のため、著作権法  
第67条の規定に基づき、平成12年3月23日  
付けで文化庁長官の裁定を受け使用するものです。







國家政治學概論  
第一編 總論  
第一章 政治學之概論



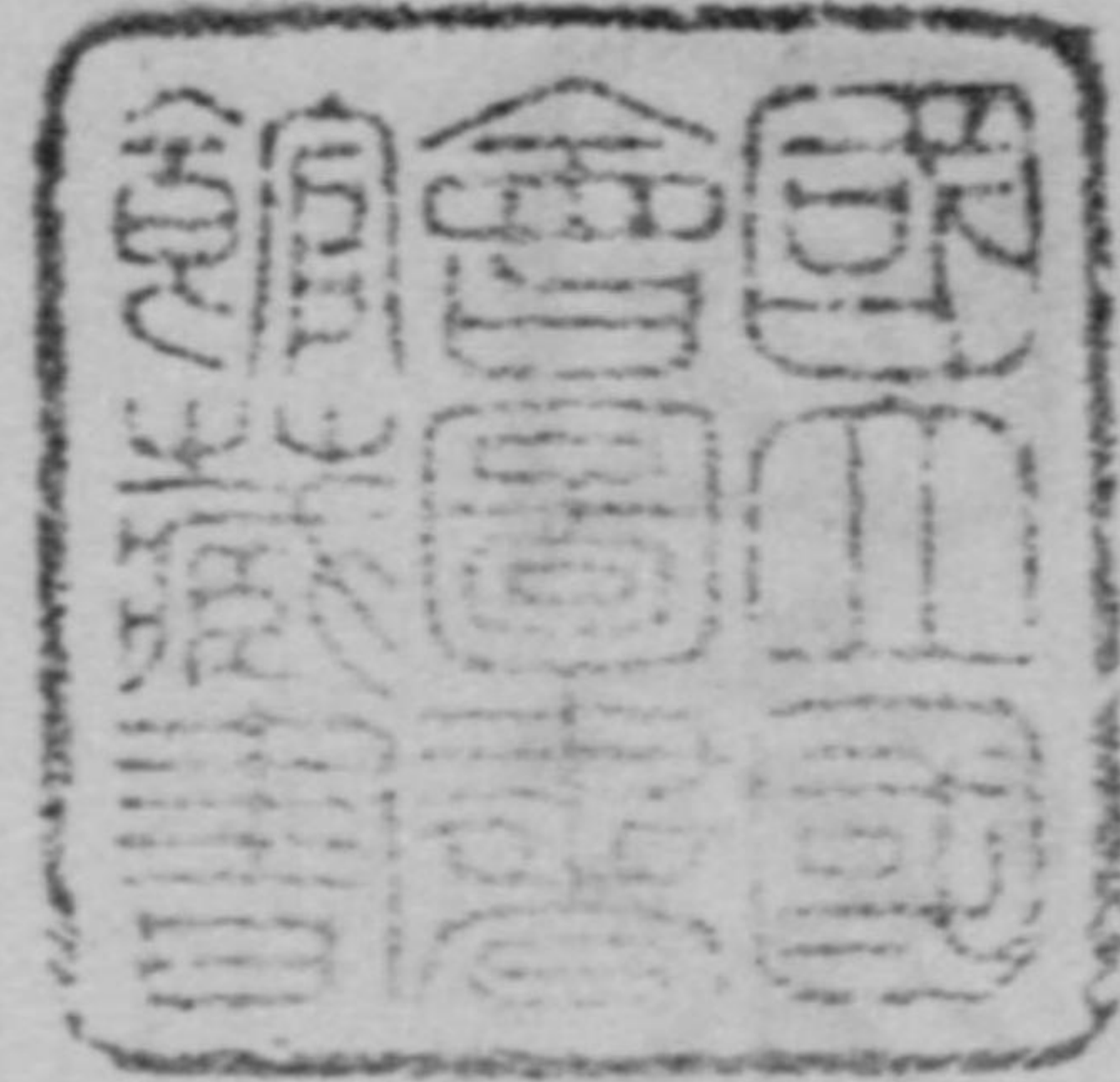
高尾常磐著

國家地理學概論

東京 目黒書店發兌



312.9  
Ta 369e



218996

小序

近世に於ける國家地理學の始祖ラッツェル氏逝きて茲に二十有七年、この間ドイツに於ける斯學の研究は實に著しく、殊に最近の發達は驚くべきものあり、今や將にその高潮に達せんとして居る。是れ一に世界大戰後に於けるドイツの國情が然らば、めたるに外ならない。翻つて我が國を見るに、内外の事情は更に斯學隆興の必要を痛感せしむるものがある。而して近時本邦の地理學界は各分科に亘つて長足の進歩を爲し來つたに拘らず、國家地理學に關する著書に至つては眞に寥々たり、是れ余が敢て本書を上



梓せんとする所以である。されど固より淺學菲才なる、本書の叙事の如きも或は蕪雜を免れざるものあらん、此の如きは大方諸賢の高教を仰ぎ他日の改訂を期したいと思ふ。本書の刊行が幸に目下の我が學界に聊にても貢獻するところあらば、是れ余の望外の幸とする所である。

昭和六年仲春

廣陵の寓居にて

著者識

# 國家地理學概論 目次

緒言.....一

第一章 國家の條件.....七

第一節 總說.....七

第二節 大さ.....一六

第三節 形體.....三二

第四節 境界.....三九

第五節 位置.....五八

第六節 地貌.....七三

第七節 海岸.....九四

第八節 氣候.....一〇八

第九節 河湖.....一二三

目次



第十節 天 産……………三九

第十一節 民 族……………一六七

第十二節 文 化……………一九四

第十三節 結 言……………二六

第二章 世界の強國……………二九

第一節 世界の國家と強國……………二九

第二節 英國覇權の發達……………三〇

第三節 英國覇權の實相……………三〇

第四節 英國覇權の危機……………三六

第五節 米合衆國の發展……………三八〇

第六節 日本の地位と將來……………二九九

目次終

挿圖目次

第一圖 アメリカ合衆國領土の増加……………三三

第二圖 トルコ國領土の減少……………三三

第三圖 五大強國及びドイツの人口増加……………三七

第四圖 世界大戰前後に於けるルーマニヤの境界……………三五

第五圖 イタリヤの北西境界……………五一

第六圖 一九一二年に於けるセルビヤ……………六二

第七圖 一九一四年以前のロシアの海岸……………六二

第八圖 世界の地貌……………七三

第九圖 支那の地貌……………八七

第十圖 フランスの地貌……………八八

第十一圖 世界の氣候……………一〇八

第十二圖 氣候的精力の分布……………一一三

第十三圖 世界に於ける米の分布……………一二〇

第十四圖 世界に於ける小麥の分布……………一二〇

第十五圖 世界に於ける大麥の分布……………一二一

第十六圖 世界に於ける燕麥の分布……………一二二



第十七圖 世界に於ける玉蜀黍の分布……………一四四

第十八圖 世界に於ける馬鈴薯の分布……………一四四

第十九圖 世界に於ける甘蔗及び甜菜の分布……………一四五

第二十圖 世界に於ける煙草の分布……………一四七

第二十一圖 世界に於ける棉花の分布……………一四九

第二十二圖 世界に於ける牛の分布……………一五一

第二十三圖 世界に於ける豚の分布……………一五一

第二十四圖 世界に於ける羊の分布……………一五三

第二十五圖 世界に於ける漁場の分布……………一五四

第二十六圖 世界に於ける炭田の分布……………一五六

第二十七圖 世界に於ける油田の分布……………一五七

第二十八圖 世界に於ける鐵鑛の分布……………一五九

第二十九圖 イギリスに於ける石炭及び鐵鑛の分布……………一六四

第三十圖 世界に於ける種族の分布……………一六九

第三十一圖 舊埃洪國に於ける民族分布……………一八九

第三十二圖 人類の經濟的階級……………一九五

第三十三圖 歐洲諸國に於ける文盲者の數……………二一三

第三十四圖 イギリス領土の發展(1811)……………二二二

第三十五圖 イギリスの寄泊地とその汽船航路……………二五五

第三十六圖 イギリスの海底電線とその無線電信局……………二五七

第三十七圖 米合衆國に於ける黒人の分布……………二九七

挿圖目次終



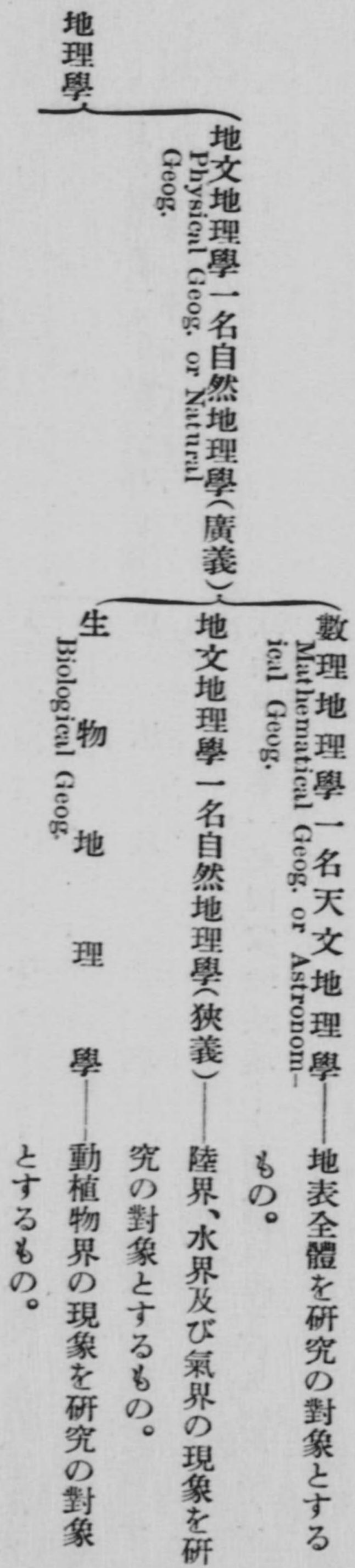


# 國家地理學概論

高尾常磐著

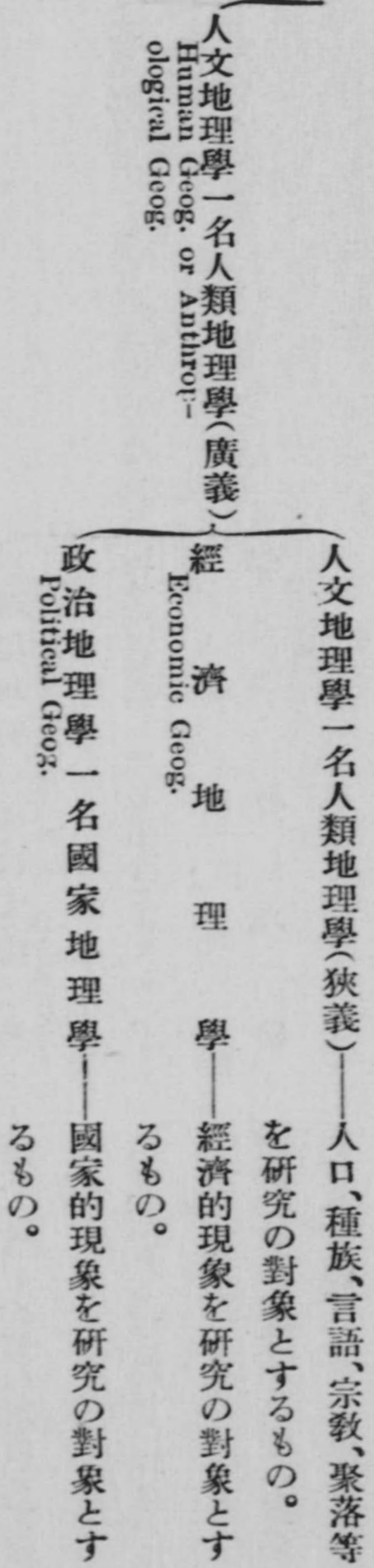
## 緒言

國家地理學とは、國家的現象を地表景觀を構成する一大要素と見て、其の空間的即ち場所的差異を叙述説明する學である。其の地理學に於ける位置を表示すれば凡そ次の様である。



緒言





國家地理學は之を其の起源に溯る時は極めて遠くして「史學の父」と呼ばれるギリシヤのヘロドツス(Herodotus)は、また斯學の祖とも言ひ得るのである。けれども國家地理學が一つの科學たる地位を得るに至つたのは漸く第十九世紀の末葉であり、其の基礎はかのラッツェル(F. Ratzel, 一八四四——一九〇四年)氏によつて築かれたものといふべきであらう。最近にあつてはシェーネ(F. Schöner)・ズーパン(A. Supan)・ドーヴァ(K. Dove)・ヂックス(A. Dix)・クットネル(A. Hettner)・ハウスホーフ<sup>ニ</sup>(K. Haushofer)・ヤーゲー(W. Vogel)・マウ(O. Maull)・キエレン(R. Kjellen)・ヘンニグ(R. Hennig)・シムメル(H. Simmer)・ Bowman(I. Bowman)などの諸氏も亦斯學の發達に大なる貢獻をなした。

斯の如くして、國家地理學は最近甚大の發達をなしたけれども、科學としての地位を得て以來日尙淺きが故に、未だ系統の確立を見ない。本書に於ける系統は余の卑見に過ぎないのである。



## 主なる一般参考書目

- I. Bowman, The New World. Fourth Edition. New York 1928.  
K. Dove, Allgemeine politische Geographie. Leipzig u. Berlin 1920.  
A. Dix, Politische Geographie. 2. Aufl. Breslau 1925.  
J. Fairgrieve, Geography and World Power. London 1915.  
H. B. George, The Relation of Geography and History. Fifth Edition. Oxford 1924.  
L. Gallouédec et F. Maurette, Les Principales Puissances et la Vie Économique du Monde. Paris 1929.  
R. Hennig, Geopolitik. Leipzig u. Berlin 1928.  
R. Kjellen, Die Grossmächte vor und nach dem Weltkrieg. 22. Aufl. Leipzig u. Berlin 1930.  
O. Maull, Politische Geographie. Berlin 1925.  
F. Ratzel, Politische Geographie. 3. Aufl. München u. Berlin 1923.  
F. Ratzel, Anthropogeographie. 2 Bde. 2. u. 3. Aufl. Stuttgart 1909, 1912.  
R. Reinhard, Weltwirtschaftliche und Politische Erdkunde. 6. Aufl. Breslau 1929.  
E. Schöne, Politische Geographie. Leipzig 1911.

- H. Simmer, Grundzüge der Geopolitik. München u. Berlin 1928.  
A. Surpan, Leitlinien der allgemeinen politischen Geographie. 2. Aufl. Berlin u. Leipzig 1922.  
W. Vogel, Politische Geographie. Leipzig u. Berlin 1922.  
H. Wagner, Lehrbuch der Geographie, I. Bd. 10. Aufl. Hannover 1920—1923.  
J. Witschke, Der Kampf um den Erdball. München u. Berlin 1922.

- 
- Schmidt-Haack, Geopolitischer Typen-Atlas. Gotha 1920.  
O. Hilberner's Geographisch-Statistische Tabellen. Frankfurt a. M. 1929.  
Prof. Hickmann's Geographisch-Statistischer Universal-Atlas, Wien 1929.  
The Statesman's Year-book. London 1930.  
The World Almanac and Book of Facts. New York 1930.  
Whitaker's Almanack. London 1930.  
Zeitschrift für Geopolitik. Berlin.  
内閣統計局列國々勢要覽  
内閣統計局日本帝國統計年鑑



離地而無人、離人而無事、  
故欲論人事、先觀於地理、

吉田松陰

## 第一章 國家の條件

### 第一節 總說

國家地理學の研究の對象たる國家 (State) には唯一の國家より成るものと、又二個以上の國家より成るものがある。前者に於ては之を單一國家といひ、後者に於ては之を複合國家といふ。イタリヤ・フランス・日本などは前者に屬する。

複合國家には又合衆國家及び實合國家の二種がある。合衆國家 (United States) は一名聯合國家 (Federal States) ともいひ、二個以上の國家が各々國家たる地位を保持しつつ、尙各自の上に更に組織した國家をいひ、而して合衆國家を組織する各國家は内政に關しては通常廣汎な權利を有するけれども、國際間に於て獨立の人格を認められるものは常に第三の中央國家のみである。合衆國家の例はアメリカ合衆國・ロシア社會主義ソヴェト共和國聯邦ドイツ共和國などである。こゝに注意すべきは合衆國家に似て眞正の複合國家に屬しないものゝあることである。



それは國家聯合(Confederation of States)と稱せられるもので、二個以上の國家が各自國家たる地位を維持しながら唯或種の外政について共同に之を處理する爲に組織した一種の組合である。此の國家聯合なるものは合衆國家の如く國際間に於てそれ自身獨立の人格を有せず、國際間に於て權利の主體となるものは國家聯合を組織するところの各國家それ自身であつて、此の點に於て合衆國家と大に異つて居る。國家聯合の例は一八一五年より一八六六年に至る北ドイツ同盟・一八一五年より一八四八年に至るスウイス同盟現在の國際聯盟などである。實合國家(States of Real Union)とは二個以上の國家が條約の締結に基いて一人の君主を共に戴く爲に組織した國家をいひ、而して實合國家を組織する國家は内政上に於ては各自獨立であるに關らず外政に於てはすべて共同である。實合國家は合衆國家の如く眞正の意味に於て第三の中央國家を形成しはしないが、然し國際間に於て權利の主體たるものは實合國家それ自身で、従つて之を組織する所の一國が第三國と交戦するときは他の國家も當然交戦者の地位に立つべきものである。一八一五年より一八三二年までのロシア・ポーランド・一八一四年より一九〇五年

までのスウェーデン・ノルウェー・一八六七年より一九一八年までのオーストリア・ハンガリーなどは此の種の國家である。また實合國家に似て眞正の複合國家に屬しないものがある。それは人合國家(States of Personal Union)と呼ばれるもので、二個以上の國家が君主を共同に戴く點に於ては實合國家と同じであるけれども、君主の共同であることが實合國家にあつては條約の締結に基くのであるが、人合國家にあつては偶然の理由に因るものである。且つ實合國家に於ては之を組織する國家の間に外政上深甚の關係を有するけれども、人合國家に於ては結合せる國家の間に内政上は勿論外政上にも何等の關係を有しないから、結合せる一國が第三國と交戦しても、他國は全然局外者の地位に立つことが出来る。一八一五年より一八九〇年までのオランダ・ルクセンブルグ・一八八五年より一九〇八年までのベルギー・コンゴ自由國・一九一八年以後のデンマーク・アイスランドなどは此の人合的關係にあるものである。

また國家には植民地を有するものと之を有しないものとの別があり、前者を植民國家といひ、後者を單獨國家といふ。イギリス・アメリカ合衆國・日本などは前者



の例で、ブラジル・アルゼンチン・スウェーデンなどは後者の例である。

植民地 (Colony) の意義は時代によつて大に異つてゐるけれども、植民地は本國が如何なる形式に於て之を保有するかの見地より見るとき、凡そ純植民地と準植民地との二種に大別することが出来よう。純植民地とはドイツの植民政策の大家ケブネル (O. Köhner) 氏の「狹義の植民地」(Kolonie im engeren Sinne) の謂にして、一國が固有の領地以外に於て新たに獲得して其の主權を絶對的に行使する土地をいひ、セイロン・マダガスカル・臺灣などの如きものである。準植民地とは一國が本來の領地以外に於て某國に代つて其の主權を行使し、或は自國の主權を行使する土地をいふ。純植民地と準植民地との異なる主要な點は、前者にあつては土地の主權が主權を行使する國家に在るけれども、後者にあつては土地の主權が主權を行使する國家その者に存せざる點である。而して準植民地には又保護國、租借地及び委任統治地などの種類がある。保護國の意義は人によつて少からず異つて居るけれども、今こゝでいふ保護國はケブネル氏の「植民的保護國」(Koloniales Protektorat) の意味にて、外政方面に關する主權行使は勿論、内政に關しても主權行使の一部或は

其の殆ど全部を他國に委任して其の保護を受くる國で、ブータン・チュニス・ニジェリヤなどは其の例である。租借地 (Leased Territory) とは威海衛・廣州灣・パナマ運河地帯などの如く、一國が他國の領地の一部を條約に基き或期間又は無期限に亘つて借り受けたるもので、租借期內は租賃國の該土地に對する主權行使は全然停止せられ、唯租借國の主權のみが絶對的に行使せられるのである。また委任統治地 (Mandate Territory) とは國際聯盟の管理に屬する地方にして其の統治を適當な國に委任したもので、イラク・西部トーゴ・カロリン諸島などは即ち是である。

偕て國家は單一國家たると複合國家たるとを問はず、又單獨國家たると植民國家たるとを論ぜず、すべて國權 (Sovereign) 國民 (Nation) 及び國域 (Dominion) の三者より成立する一種の團體である。

國權とは國家の權力の謂で、國家固有の命令強制の權力及び最高獨立の權力をいひ、命令強制の權力たる點より或は統治權と稱せられ、また最高獨立の權力たる點より或は主權とも呼ばれる。また國民とは國家の人民の謂で、國權に絶對的に服従すべき一定の人民をいひ、國域とは國家の領域の謂で、國權の專占的に行使せ



られる一定の地域をいふ。而して國權、國民及び國域は實に國家の根本要素であつて、國家はその何れを缺いても存立しないものである。

今三大要素のうち少しく國域に就いて述べんに、國域は陸地、海洋及び空間より成るが、この三者の内で主要部分を成すものは陸地で、海洋及び空間は之に附隨して始めて國域となるものである。而して國家はすべて國域を有するけれども、然しすべての國家が國域として陸地、海洋及び空間を有するものではなく、屢々海洋は之を有しないものがある。スウイス・ホリグイ・ネパールなどの如き純内陸國は即ち是である。

一、領土、國域を構成する陸地の部分を領土と稱するが、領土は單に陸地の表面のみならず地下をも包含するものである。而して全然一國の領土内にある河湖は、其の大小に關らず、全く其の領土に屬するものと看做されるけれども、然し數國の間又は數國を貫いて流れる河川にして航行し得べきミシシッピ河・ライン河・ドナウ河等の如き所謂國際河川 (International River) や、スエズ運河・パナマ運河・キール運河の如き世界交通に特殊の意義を有する運河は、國際間に種々の

慣例があつて、其の所屬國のみの獨占的使用を許さないことになつてをる。

二、領海、國域を構成する海洋の部分を領海といふが、然し自然地理學的の意味に於ける領海、換言すれば大陸棚に於ける海の部分即ち所謂淺海 (Shallow Sea) とは大に其の意味を異にして居る。然らば國家地理學上に於ける領海の範圍は如何といふに、この問題に關しては領土と領海との限界及び領海と公海との限界に就いて説明するの必要がある。

先づ領土と領海との限界については大満潮の際の海陸分界線説と大干潮の際の海陸分界線説との二つがある。けれども近代に於ては後説が一般に認められてをる。即ち領海の範圍は大干潮の際に於ける海陸分界線を基本として計算すべきものとなつてゐる。但し河川と海洋との限界については河水と海水との衝突する地點を以てなすことゝなつて居る。

次に領海と公海との限界については從來種々の學説が行はれてゐるけれども、オランダのピンケルシヨック (Bynkershoek, 一六七三—一七四三年) 氏以來領海の廣さは陸上より砲彈の到達する範圍内即ち領土と領海との限界より三海



里内であるとの説が一般には認められるに至つたのである。我が國も明治三年普佛戦争に際し、局外中立を宣言するに當つて、領海の三里であることを公布し、又明治五年七月太政官より兵部省に宛てたる心得書の中にも、諸港内並諸灣内は勿論、周囲の外海島嶼岬角より以外三里は、我所轄と相心得可申事と示して居る。この三里については其の直前の太政官布告中に、今般海軍省に於て別紙の通相定候條其旨可相心得候尤海里は普通陸里と不混様可致事と規定され、其の別紙には、一海里は一度の六十分の一を以て一里と定む即ち陸里十六町九分七厘なりとあるから、列國の三海里主義を表明したものと見るべきである。然し一方には彈着距離が段々長くなつて來たので、領海の範圍を擴張すべしと主張し又之を實行して居る國もある。例へばスウェーデン・ノルウェーの如きは第十八世紀以來四海里説を主張し、またイスパニヤの如きは第十八世紀以來六海里説を主張し、またイタリヤの如きは一九一四年中立維持の爲に領海の範圍を六海里とする旨を宣言した。之を要するに今日領海の範圍は國際間に於て決定せる事項ではない。たゞ三海里内を以て領海の範圍とすれば、何れの國も

異議を言はない最小範圍であるといふに止まる程度のものである。

三、領空、國家は陸海の一定區域を其の領域とするが如く、この上に位する空界の一定區域をも其の領域とする。これが即ち領空である。然し其の範圍に至つては國際間に未だ何等の規定なく、將來確定せらるべき問題として殘されてゐる所である。

而して國家は一種の社會的有機體であつて、其の勢力即ち國力は時に盛衰あるを免れない。この國力の盛衰を支配する種々の事項を國家の條件といふ。さきに述べた國家の根本要素は同時にまた國家の根本條件であつて、中にも國域に關する面積、形體、境界、位置、地貌、海岸、氣候、河湖、天産等及び國民に關する人口、民族、文化等は國家地理學上特に注意すべき條件である。國權に關する國體及び政體も時に大なる影響を國力に及ぼすけれども、茲には暫らく之を措き、これ等の地理的事項を以て研究の對象とし、それが主として如何に國力に影響を及ぼすかの見地より順次之を述べよう。



## 第二節 大さ(面積及び人口)

一國の大さを表示するものに凡そ二種ある。其の一つは面積の大小であつて、他の一つは人口の多少である。而して國域と國民とは國家の勢力の根源をなすものであるから、國家の面積の大小と其の人口の多少とは、國家の勢力の強弱に影響を及ぼすこと勿論である。此の意味に於て國家の大さの國力に及ぼす影響は國家地理學上最も注意すべき事項の一つである。

### 一、面積

さてワグネル(H. Wagner)氏に従へば陸地の面積は約一億四千九百萬方秆である。而して今日國家の數は約七十一であるから、一國の平均面積は約二百十萬方秆に當るけれども、實際に於て各國の面積は其の間に非常の差異を示して居る。而して平均面積以上の面積を有する國家は十で、爾餘の國家の面積は平均面積以下である。

面積によつて國家を區分するとき、通常はラッツェル(F. Ratzel)氏に従つて、五百

萬方秆以上の國家を大國と稱し、五百萬方秆乃至二十萬方秆の國家を中國と稱し、二十萬方秆以下の國家を小國と稱するのである。この分類によつて一九二七年の初めに於ける世界の國家を見るに、大國と數ふべきものは六で、中國に算すべきものは二十八である。大體ヒツクマン氏の「地理統計世界地圖」によつて左に大國及び中國の面積を擧げると、

	全國の面積(千方秆)	本國の面積(千方秆)
一、大英帝國	四〇、六六二	二四四
二、ロシア	二一、九〇九	四六七〇
三、フランス	一一、〇九八	五五一
四、アメリカ合衆國	九、八五三	七九九七
五、支那	九、六五〇	六、二四二
六、(カナダ)	九、三六八	
七、ブラジル	八、五一一	
八、(濠太刺利聯邦)	八、一七九	



九、(イギリス領インド)

四、七一五

一〇、(南アフリカ聯邦)

二、八二〇

一一、アルゼンチン

二、七九〇

一二、ポルトガル

二、五一八

一三、ベルギー

二、四七二

一四、イタリ

二、五八〇

一五、オランダ

二、〇六五

一六、メキシコ

一、九六九

一七、ネチド

一、六七五

一八、ベルシヤ

一、六四五

一九、ペルー

一、三五五

二〇、ボリヴィヤ

一、三三三

二一、コロンビヤ

一、二八三

二二、ヴェネズエラ

九四五

二三、アビシニヤ

九〇七

二四、イスパニヤ

八四五

四九八

二五、チリ

七五二

二六、トルコ

七四七

二七、日本

六七五

三八二

二八、アフガニスタン

六五〇

二九、シヤム

五一八

三〇、ドイツ

四七一

三一、スウェーデン

四四八

三二、エクアドル

四五一

三三、フィンランド

三八八

三四、ポーランド

三八八

三五、ノルウエー

三八七

三六、ルーマニヤ

二九五

三七、パラグアイ

二五三

三八、ユーゴスラヴィヤ

二四九

第二節 大き(面積及び人口)



抑々國域は國力の根本條件の一つであるが故に、領土の面積の大小は國力の強弱に影響を及ぼすのは勿論であるけれども、之を餘りに重視してはならない。往々にして領土の大小と國力の大小とを混同して考へる人があるけれども、其の誤りであることは此の表によつても知り得るのである。獨り領土の大小のみが國力の強弱を決定する絶對的條件でないことは、今日五大強國と呼ばれるものうち大國に屬するのはイギリス・フランス・アメリカ合衆國の三國だけで、イタリヤ・日本・二國は中國に屬する事實によつても明らかである。世界大戰以前にあつても八大強國の中大國に屬したのはイギリス・ロシア・フランス・アメリカ合衆國の四國だけで、イタリヤ・ドイツ・オーストリア・ハンガリア・日本の四國は中國に屬したのである。またブラジル・支那は大國に屬してゐるけれども、無論強國ではないのである。

かくの如く領土の面積の大小は必ずしも國家の勢力の大小を意味しないけれども、領土の増減は國力の盛衰を意味するのである。何故ならば、通例國力強大ならば領土を減少する事なく、又國力微弱ならば之を増加する事はあり得ないから

である。いつたい領土増加の主要原因に先占(一國が無主の土地を占領すること)、増添(新たに土地の生成すること)、讓受(條約により一國が他國の領土の全部又は一部を獲得すること)、征服(條約によらずたゞ戰勝により一國が他國の領土の全部又は一部を獲得すること)、買受(條約により一國が他國より協定の代償を支拂つて其の領土の一部を取得すること)などがあり、領土減少の主要原因に拋棄(先占の反對の場合)、喪失(増添の反對の場合)、讓與讓受の反對の場合、被征服(征服の反對の場合)、賣渡(買受の反對の場合)、分離(一國の領土の一部が其の本國より獨立して新たに國家を作ること)などがあるけれども、自然的作用即ち地球の内力及び外力の作用による自然的増添及び喪失の外は、何れも國力の強弱に深い關係を有するのである。而して近世に於てアメリカ合衆國は領土増加の最も顯著な國の一つで、またトルコは領土減少の最も著しい國の一つである。兩國の歴史を見ると、とき版圖の増減と國力の盛衰とは明かに正比例するを認むる。

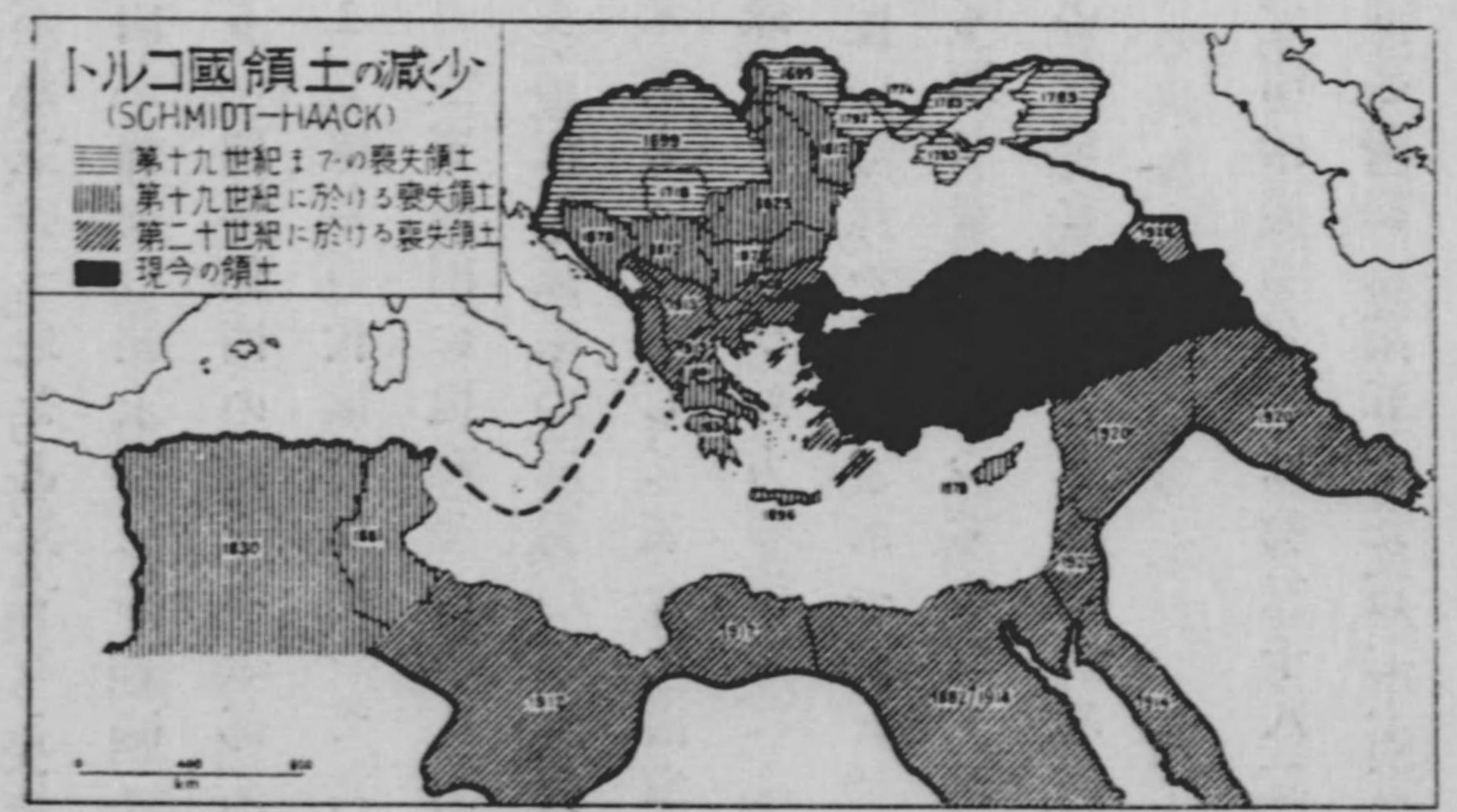
我が國は近世に於て領土増加の著しい國の一つで、明治の初年には約三十八萬二千方呎に過ぎなかつたが、明治二十八年に支那より臺灣(約三萬五千九百七十方



第一圖



第二圖



料)を譲り受け、同三十八年にロシアより樺太南半(約三萬六千九千方糎)を譲り受け、且つ關東州及び南滿鐵道附屬地(約三千九百九十方糎)の租借權を得、次いで同四十二年に韓國(約二十二萬七千四百十方糎)を併合し、又大正八年にドイツより南洋諸島(約三千九百九十方糎)を獲得し、今や約六十七萬五千方糎に達するに至つた。

二、人口

又ヒツクマン氏の「地理統計世界地圖」によれば、一九二七年の初めに於て世界の人口は約十八億九千八百萬人である。而して國家の總數は約七十一であるから、一國の平均人口は約二千七百萬人となる。然し各國の人口は國によつて大に異つてゐて、平均人口以上の人口を有する國は僅に十一である。

人口によつて國家を區分するとき、普通ラツツェル氏に従つて、一億萬人以上を有する國を大國と稱し、一億乃至一千萬人を有する國を中國と稱し、それ以下を小國と稱する。是に由つて一九二七年の初めに於ける世界の國家を見るに、大國と數ふべきものは五で、中國に屬すべきものは十八である。今大體ヒツクマン氏の「地理統計世界地圖」によつて一九二七年の初めの人口状態に基き大國及び中國の



人口を擧げると

	全國の人口(千人)	本國の人口(千人)
一、大英帝國	四六五、七五〇	四四、三一〇
二、支那(一九二三年)	四三六、〇〇〇	四三一、五八四
三、(イギリス領インド)	三二九、五〇〇	
四、ロシヤ	一四六、三〇〇	一一四、四〇〇
五、アメリカ合衆國	一三〇、八七〇	一一七、三〇〇
六、フランス	一〇一、八八〇	四一、〇八〇
七、日本(一九二五年)	八三、四五七	五九、七三七
八、ドイツ	六四、一〇〇	
九、オランダ	五九、〇二五	七、五二五
一〇、イタリヤ	四二、〇七〇	四〇、一七〇
一一、ブラジル	三四、六〇〇	
一二、ポーランド	二九、六三〇	
一三、イスパニヤ	二三、二九〇	二一、七七〇

一四、ベルギー	一九、三二五	七、八七五
一五、ルーマニヤ	一七、四〇〇	
一六、チリ、コスロヴァキヤ	一四、三五五	
一七、メキシコ	一四、三〇〇	
一八、エジプト	一四、一三五	
一九、トルコ	一三、七五〇	
二〇、ポルトガル	一三、二五〇	六、〇〇〇
二一、ユーゴスラヴィヤ	一二、九七〇	
二二、アビシニヤ	一一、五〇〇	
二三、アルゼンチン	一〇、三五〇	
二四、シヤム	一〇、〇〇〇	

國民は國域と共に國力の根本條件の一つであるから、其の多少は無論國力の強弱に大なる關係を有するのである。然し前表によつて見るに今日の五大強國の中で大國に屬するのはイギリス・アメリカ合衆國・フランスの三國だけで、爾餘の強

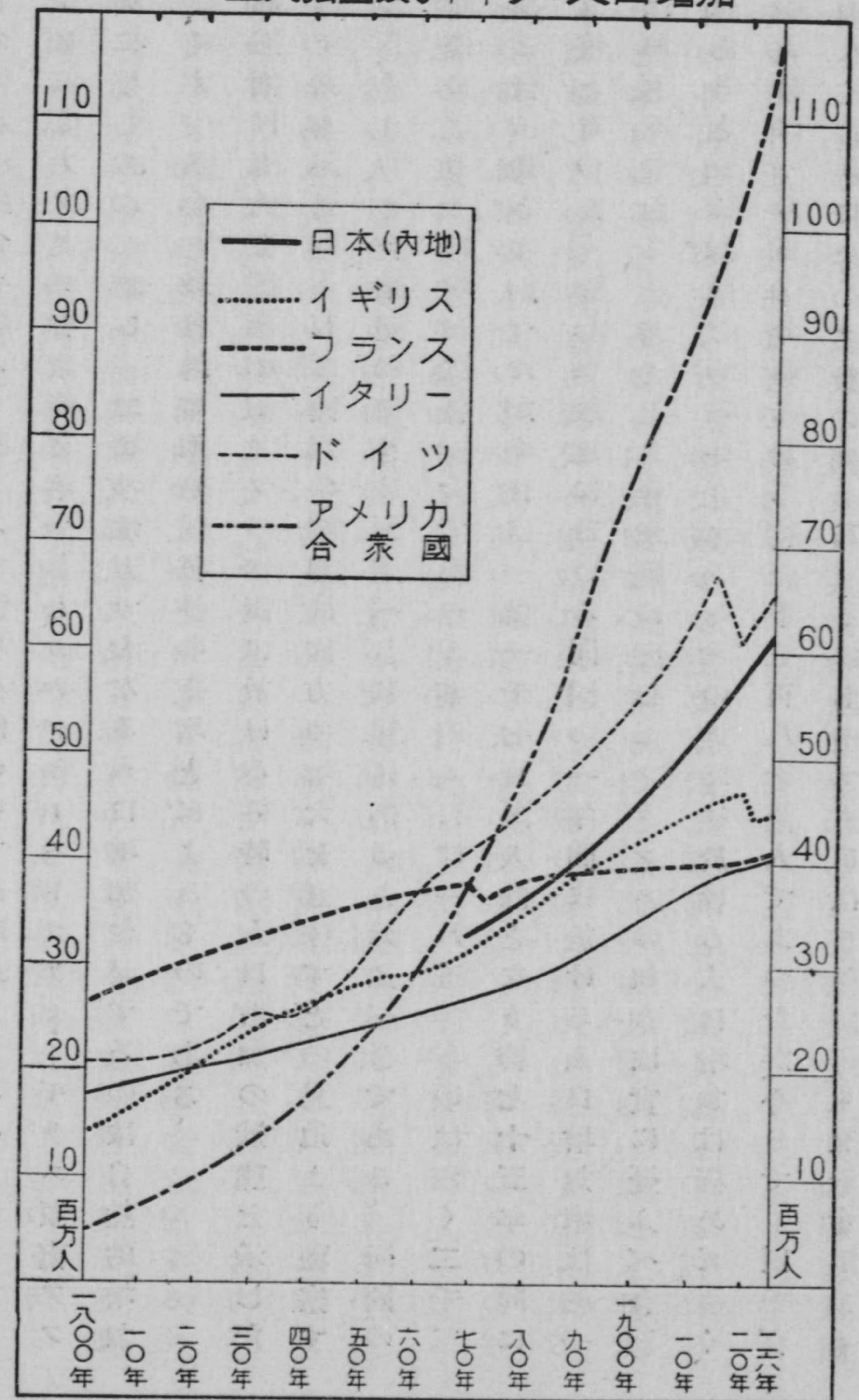


國日本・イタリヤは何れも中國に屬するのである。世界大戰以前でも八大強國の中、大國に屬したものはイギリス・ロシア・アメリカ合衆國の三國だけで、他の五國は中國に屬したのである。また支那は大國に屬するけれども、勿論強國とは云へない。それで人口の多少も面積の大小と同じく、必ずしも國力の強弱を支配する絶對的條件ではない。さればこそマウエル氏も、大さと勢力とは同義ではなく、勢力は國家の全構成からのみ理解すべきところの非常に複雑な概念である。と云ふてゐる。然し人口の多少が面積の大小より更に國力の強弱に深甚の關係をもつ事は、前記の二表によつて窺知することが出来よう。

斯の如く國家の人口の多少は其の面積の大小の如く必ずしも國家の勢力の強弱を意味しないけれども、國民の増減は領土の増減の如く國力の盛衰を意味するものと云ひ得るのである。國民増加の主要原因は、前記の領土増加の原因に伴ふ増加の外、出生や來住などで、國民減少の主要原因は又前記の領土減少の原因に伴ふ減少の外、死亡、往住などである。

而して近時世界の多數の國家は人口の増加を示してゐる。尤も其の程度は國

第三圖  
五大強國及びドイツの人口増加





によつて大に違つて居る。ところで世界列國の中で近時最も大なる人口増加を示すものはアメリカ合衆國を第一とし、カナダ・オーストラリア・イギリス領南アフリカなどである。而して此等の地方で大なる人口増加を呈するのは自然的増加（出生、死亡の差増）と社會的増加（來住、往住の差増）によるものである。

第三圖は五大強國及びドイツの本國に於ける近時の人口増加の状態を示したものであるが、通則として國民の増加は國力の増大を意味すとの見地より觀察するとき、アメリカ合衆國の如きは喜ぶべき状態にあると云ふべきである。同國の近時に於ける人口増加は甚だ大であつて、其の人口は一八五〇年頃は漸く二千三百萬人位に過ぎなかつたが、今日は一億一千七百萬餘となり、約七十五年の間に約五倍となつた。而して最近に於ける同國の一年間に於ける人口増加率は約一分四厘五毛である。アメリカ合衆國に反してフランスの如きは實に憂ふべき状態にあると云はねばならない。フランスの近時に於ける人口増加は極めて少く、其の人口は一八五〇年頃に於て約三千五百八十萬人であつたが、今日でも四十萬十萬人に過ぎない。一九一一年—二一年にあつて人口は自然的にも又社會的にも

減少して居た。たゞ最近になつて稍々増加の傾向を示して來たのである。キエルン氏がフランスに於ける人口増加の極めて緩徐であるのは故意的産兒制限に基因するものであると斷じ、此の國の故意的産兒制限はかの大革命と共に勃發した世界觀たる利己享樂主義と深甚の相關關係を有すると云ひ、現在の人口状態を以てフランスの衰頹現象の一特徴と見るべきであると論じて居るのは、決して過言でないと思へられる。

我が國は近年國土の膨脹と共に人口も大に増加した。即ち我が國の人口は明治維新の際は僅に約三千萬人に過ぎなかつたが、約六十年後の一九二五年に於て八千三百萬人餘となつた。内地の人口のみに就いて見るも、同年には約六千萬人となつてゐるから約六十年間に二倍となつた譯である。而して最近内地の一年間に於ける増加率は、約一分三厘一毛である。植民地も人口は年々増加し、その一年間に於ける増加率は朝鮮では不明であるけれども、臺灣では約一分七厘九毛樺太では約一分三分九厘六毛であり、關東州では約八分九厘四毛である。

今我が國の人口概數は列國國勢要覽（昭和五年）によつたが、昨年十月一日に施



行された國勢調査の結果と大正十四年の國勢調査の結果とを比較すれば凡そ左の如くである。(單位千人)

	昭和五年	大正十四年	五年間の増加率
帝國	九〇,三九五	八三,四七七	八分三厘
内地	六四,四四八	五九,七三七	七分五厘
朝鮮	二一,〇五八	一九,五二三	七分九厘
臺灣	四,五九四	三,九九三	一割五分
樺太	二九五	二〇四	四割四分九厘
尙關東州及び南洋諸島の人口概數は左の通りである。			
關東州	一,三二八	南洋諸島	七〇

(東京日々新聞)

(1) O. Maull, Politische Geographie, Berlin 1925, S. 126.

(2) R. Kjellen, Die Grossmächte vor und nach dem Weltkrieg. 22. Aufl. Leipzig u. Berlin 1930, S. 59—61.

### 第三節 形體

こゝで形體といふのは水平的に見て或地域が幾何の部分より成るかの謂である。而して一國の領土の形體は交通の難易に影響し、ひいて國民の結合に影響し、また天産の多少に影響し、以て其の勢力に多大の影響を與へるのである。

形體と國家との關係を觀察するに際し、先づ全陸地を形體上から大觀しよう。いつたい地表に分布する陸地は大小様々であるけれども通常大陸(Continents)と島嶼(Islands)とに大別せられるのである。但し此の區別は絶對的のものでなくして慣習的のものであり、通例オーストラリア大陸(約七百六十萬方呎)を標準とし、之とより大なる陸塊を大陸と稱し、之より小なる陸塊を島嶼と呼ぶことになつてゐる。而してワグネル(H. Wagner)氏に従へば、陸地の總面積約一億四千九百萬方呎の内大部分は大陸に屬し、島嶼に屬する部分は僅に約九百七十萬方呎に過ぎないのである。

而して通常大陸と稱せられるものは凡そ六個で、アジア(約四千百四十八萬方呎)



ヨーロッパ(約九百二十二萬方籽)アフリカ(約二千九百二十萬方籽)北アメリカ(千九百九十九萬方籽)南アメリカ(約千七百六十三萬方籽)及びオーストラリヤが即ちそれである。この中でアジア及びヨーロッパは合してユーラシヤと呼ばれることがある。島嶼は大陸と違つて實に無數を算するが、最大であるのは約二百二十萬方籽のグリーンランドで、バアア・ホルネオ等が之に次ぐ。而して大陸と島嶼とを人類活動上より見るとき面積上から大體に於て大陸が其の中心となつて居る。

また島嶼は成因上から大陸島(Continental Islands)と大洋島(Oceanic Islands)とに大別される。大陸島とは本來大陸の一部分であつたものから成立したもので、大洋島とは元來大陸に關係なしに出來たものである。前者は多く大陸の附近にあつて、後者は概ね大陸から隔絶して存する。

大陸島はリヒトホーフエン(E. v. Richtofen)氏やワグネル(H. Wagner)氏に従つて更に位置や面積の點から附屬大陸島(Unselbständigen Kontinentalinseln)及び獨立大陸島(Selbständigen Kontinentalinseln)の二種に區分することが出来る。附屬大陸島とは母大陸に近く且つ比較的面積の狭小なるものをいひ、獨立大陸島とは之に反し

て母大陸に遠く且つ比較的面積の廣大なるものをいふ。而して附屬大陸島はダルマチャ式海岸、峽灣式海岸などの附近に存在する島嶼の如きもので、面積の小なるものが多い。之に反して獨立大陸島はサルヂニヤ・マダガスカル・セイロンなどの如きもので、世界の大島は概ね之に屬する。

大洋島はまた火山噴出物の堆積によつて生成した火山島(Volcanic Islands)及び珊瑚虫の遺骸の堆積によつて生成した珊瑚島(Coral-reefs)の二種に區分される。レユニオン島・ハワイ島・セント・ポール島は前者の例で、トラツク島・ヤルイト島・南鳥島は後者の例である。而して大洋島は火山島たると珊瑚島たるとを問はず殆ど總て面積は狭小である。

故に島嶼で政治上及び經濟上獨立區域として大なる意義を持つのは概ね獨立大陸島に屬してをる。附屬大陸島及び大洋島の人生に對する意義は多く交通上及び軍事上の根據地點としてある。

さて國家の分布を見るに或は大陸に限るもの、或は島嶼に在るもの、或は大陸及



び島嶼に跨るものなど種々の別を有するけれども、形體が國力に影響を及ぼす點より觀察するとき、國家は單一的形體國と複合的形體國との二種に大別することが出来る。

一、單一的形體國とは領土が連続せる單一の地域より成る國をいひ、内陸國は何れも此の種の國家に屬する。ボリヂイヤ・バラグワイ・スウイス・アフガニスタン・ホンガリヤなどは即ちそれである。然し單一的形體國は獨り内陸國ばかりでなく、一部の沿海國も亦之に屬する。ポーランド・ブルガリヤ・ルーマニヤ・ベルシヤ・シヤム・ブラジルなどは此の例である。ノルウエーやユーゴスラヴィヤの如き沿海國は峽灣式海岸やダルマチヤ式海岸の常として其の海岸附近に無數の島嶼を有してゐるけれども、此等の島嶼は所謂附屬大陸島に屬し何れも面積非常に狭小で政治的に又經濟的に獨立區域として考ふるに足らぬから、單一的形體國に數ふべきである。エクアドルの如きも、南アメリカ大陸の一部プナ島及びガラバゴス諸島より成つて居るが、プナ島は附屬大陸島、ガラバゴス諸島は火山島で何れも政治上及び經濟上獨立區域を成すに足らない島嶼であるから、此の國もやはり單一的形

體國と見るべきである。ロシヤも亦此の種の國家に似て準單一的形體國と見るべきものである。蓋し此の國の領土はユーラシヤ大陸に於て計りでなくノバヤ・ゼムリヤ・ニューシベリヤ諸島北樺太にも跨つてゐるけれども、島嶼の中で人生に適するのは僅に北樺太位のものであるからである。

二、複合的形體國とは領土が二個以上の單獨地域より成る國家をいひ、多くの沿海國は之に屬するのである。デンマルク・ギリシヤ・イタリヤなどは此の例である。多くの島嶼國も亦之に屬する。イギリスは此の一例である。但し島嶼國にして單一的形體國に屬するものもある。之は稀ではあるけれどもアイスランドの如きは即ち是である。

尙複合的形體國に屬するもの、中で特殊のものがある。それはズーパン (Zupan) 氏の隔離國 (Exklavensland) と稱するものである。之は前に擧げた複合的形體國と異り、同一大陸内にあつて、其の領土が他國の領土によつて隔離せられる國で、此の種の國家は屢々、史上に見るところであるが、近代史上に於て最も有名であるのは、イスパニヤ王でドイツ皇帝であつたチャールス五世の國家や、イスパニヤ



王フィリップ二世の國家である。現在で隔離國の好例はドイツ・アメリカ合衆國・パナマなどである。

我が國は本國のみに就いて見れば四大島(本州・九州・四國)・二列島(千島・琉球)及び一群島(小笠原)より成り、植民地を合すれば六大島(臺灣・南樺太)を加ふ、二列島・三群島(澎湖群島・南洋諸島)を加ふ及び二大半島(朝鮮・關東州)より成つて居る。故に植民帝國としては勿論のこと本國のみでも純複合的形體國であるは無論である。

今形體の國家の勢力に及ぼす影響を考察するに、單一的形體國は通常氣候や地貌が單調であるから、天産の種類も單調である傾きを有し、複合的形體國は之に反して普通氣候や地貌が複雑であるから、天産の種類も多様である傾きを有するのである。また單一的形體國は通常領土各部相互の交通が容易であるから、國民の統一も容易である傾きを持ち、複合的形體國は之に反して普通領土各部相互の交通が困難であるから、國民の統一も困難である傾きを持つのである。大英帝國が天産の種類に於て大に多様であり、また國民の統一に於て可なり困難であり、之に反してロシアが天産の種類に於て比較的單調であり、また國民の統一に於て割合

に容易であるのは幾多の原因があるけれども、形體の及ぼす影響も亦其の一つの原因であると考へられるのである。要するに單一的形體國の長所は國民の統一の容易であることで、其の短所は天産の種類單純なることであり、之に反して複合的形體國の長所は天産の種類多様であることで、其の短所は國民の統一の困難なることである。

いつたい形體の交通に及ぼす影響は交通機關の發達と共に時代によつて變つてゐるけれども、複合的形體國が國民の統一を圖るため國土の結合に多大の苦心をなすことは昔も今も變りはないのである。古代のローマ帝國の努めた軍道の開通、コロニアの建設の如き歴史上に於ける其の好例である。今日大英帝國は最大の複合的形體國に屬するが、到る處に軍事及び交通根據地を設置するのである。其の主要なるものはデッケルト氏の指示せる所謂三大連珠、即ちジブラルタル・マルタ・サイプラス、アデン・コロンボ・シンガポール、フォークランド・ケープタウン・キングジョージサウンドの外、ハリファックス・ベルムダ・小アンチルス(ドミニカ・セントルシア・トリニダード)、ガンビヤ・シエラレオネ・セント・ヘレナの二大連珠をなして存在



するのである。此等の軍事及び交通根據地網は、大英帝國を連結する紐帶に外ならぬもので、建設の目的はローマ帝國のなしたるコロニヤ設置や軍道開通の主旨と全く同じである。

さて單一的形體國と複合的形體國とを比較するに、上述の如く一長一短あり、而して國家は形體上その何れかに屬するから、天産の種類に於ても又國民の統一に於ても共に有利であるといふ様な國はないと言つて宜しいのである。然るに我が國を見るに、複合的形體國に屬し、多種の天産を有すると同時に、個々の地域間の交通は海路によつて極めて容易であるが故に、國民の統一にも支障を來すことなく、形體上甚だ有利であるといふべきである。

(1) E. Deckert, Das Britische Weltreich, Frankfurt a. M. 1916, S. 130.

#### 第四節 境界

一國の境界は主として交通及び國防の難易に影響し、以て其の勢力に大なる影響を及ぼすのである。

而して境界の交通及び國防に及ぼす影響は、其の發達如何及び其の性狀如何に關係して居る。

先づ境界の發達に就いて述べると、境界の發達は領土の形狀と其の屈曲とによつて決定されるのである。而して領土は形狀上より見るとき種々あつて、支那の如く圓形に近いもの、舊ホンガリアの如く半圓に近いもの、或は角形に近いものがある。角形に近いもの、中にはウルグアイの如く三角に近いもの、フランスの如く五角に近いもの、或はイスパニヤの如く正方形に近いものがある。またアメリカ合衆國の如く東西に長く、チリイの如く南北に長い長方形のものもある。斯様に領土は形狀に於て大に異つてゐる。且つ又領土はギリシヤの如く屈曲の大なるものもあれば、ポルトガルの如く其の小なるものもある。故に略ぼ同一の面積



を有する國家でも境界の發達は國家によつて大に異つて居る。而して國境發達の程度を見るには、通常ワグネル(H. Wagner)氏の方法に従ひ、面積を等しくする圖形の中で周圍の最も短いもの即ち圓を作り、其の圓周を基とし、實際に於ける境界の延長を比較するのである。面積の等しい圓の周圍は  $C = 2\pi r$  の公式で之を求むることが出来る。ストレブピツキス(J. Strehlitzki)氏の計算によれば、ヨーロッパ諸國のうちでノルウェー・アイルランド・ギリシャなどは境界の發達の大きなもので、デンマーク・ベルギー・ポルトガルなどは其の小なるものである。而して對外交通上より見るときは、境界の發達せる國が有利であり、其の然らざる國が不利であるが、國防上より見るときは、之と反對であることは述べるまでもない。

次に境界の性状に就いて述べると、境界は其の幅員上より帶的境界及び線的境界に大別せられるのである。帶的境界は又その性質上より自然物を利用したる自然的境界と人爲物を利用したる人爲的境界とに分れる。自然的境界帯には海洋、沙漠、沼澤、森林、山岳、河湖等があり、往時は到る處に存在したものである。人爲的境界帯も古來屢々設置せられたもので、ゲルマニ人とローマ人との間に設置せら

れた人爲的境界帯は史上に有名なものである。かの間島の如きも曾ては支那朝鮮間の人爲的境界帯であつた處である。然るに交通の發達、人口の増加及び産物の發見などによつて、帶的境界は次第に消滅するに至つた。第十八世紀の中頃までは猶ヨーロッパの文明諸國の間にも存してゐたが、第十九世紀になつてヨーロッパ諸國の間に於ては勿論他の大陸に於ても列國の協商によつて線的境界が設定せられ、今や帶的境界は殆ど其の跡を絶つに至り、帶的境界にして今日なほ残つてゐるのは海洋位のものである。蓋し海洋は領海以外は公海として何れの國家にも屬せず諸國の自由使用に供せられるのである。

線的境界も亦自然的境界と人爲的境界との別を有する。

#### 一、自然的境界線

本來自然物を利用して境界線を設定するには、國家相互の協定によるけれども、山岳や河湖に依るときは、一般原則なるものがあつて普通之に依る場合が多い。

(一) 山岳に依るときには、通常脊梁線或は分水線を以て境界とすることに於て居る。例へば一八七八年のベルリン條約に規定せるブルガリヤとセルビヤとの



境界に關して、國境はクリニッグル山を起點とし、ストレゼル・ヴィロゴロなどの山巔に於けるスツルマ及びモラヴァ兩河の分水線を追ふて進む云々。とあるが如きものである。斯の如く分水線と脊梁線とが一致する場合には、山岳に依つて境界を定めることは簡單であるけれども、常にさうではなく、インヅス河及びブラマブトラ河がヒマラヤ山脈の脊梁線の北に發し、之を貫流して南方の斜面に出づるが如き、又イスケル河がバルカン山脈の脊梁線の南に發し、之を横斷してドナウ河に注ぐが如き類例に乏しくない。また脊梁部及び分水界は常に線ではなくして帯をなす場合が少くない。特に舊褶曲山岳に於てさうである。故に山岳に依つて境界線を定めるに當り、實際の場合に於ては困難を感ずることが少くないのである。されば境界線を山岳に依つて定めるときには、實際に於ては全く國家相互の協定に待つことが多い。

(二) 河川に依るときには通常境界となる河川が航行し得べきや否やによつて區別し、航行し得べき河川に就いては航路の中央線を以て境界とすべきものと看做されるのである。例へば一八二七年に於けるドイツとフランスとのライン河に

關する國境條項の示すが如きものである。この航路の中央線と云ふのは地理學的に言へば流水の最も深い處、即ち流水の最も急な處に當るのである。然し航行し得ざる河川に就いては、兩岸より測つて河幅の中央線を以て境界となすべきものと看做されて居る。それから若しも河身が急激に變化せる場合には、舊河川の河身に就いて、境界は之を定むべきものと看做され、例へばライン河に關する一八九二年のオーストリア・スウイス間の條約に示せるが如きものである。以上の原則は一九一九年のヴェルサイユ條約に於ても認められ、同條約第二編ドイツの境界第三十條に於て次の事項が明かに規定されて居る。水路を以て境界を決定する場合に於て、本條約に使用する河流及び水道なる語は、航行不能河川にあつては水路の又は其の本流の中央線、航行可能河川にあつては主要航行水道の中央線を謂ふ。河流又は水道の移動に従ひ、國境線の變更を生ずべきや、或は本條約實施當時に於ける河流又は水道の位置により國境を確定すべきやは、本條約に定むる境界委員會に於て各場合に付之を決定す。と。

然して、に注意すべきは、以上述べたところは一般原則であつて、勿論幾多の例



外も存するのである。例へば河幅の中央線若くは航路の中央線によらずして、兩岸の一つによるが如きもので、ラブラタの三角江はこの一例である。即ちこゝでアルペンチンとウルグワイとの境界は河幅の中央線又は航路の中央線に存しないで北東岸に存するのである。但しウルグワイ河は全然ウルグワイの領域になつてゐる。

(三) 湖沼に依るときは一般に中央線を以て境界となす可きものとせられて居る。例へば舊ドイツ領東アフリカとイギリス領東アフリカとの間のヴィクトリヤ湖上の境界の如きものである。だが嚴密に中央線を以て境界となすのは、湖沼の沿岸が等分に且つ規則正しく兩國に屬する場合の外は、實行上困難である。殊に其の沿岸が三國以上に屬する場合に於てさうである。其故湖沼に依る時は原則として中央線による事となつて居ても、國家相互の妥協によつて定むる事が多い。ジュネーヴ湖上に於けるスイス・フランス間の境界線の如き、ボーデン湖上に於けるスイス・オーストリア及びドイツ間の境界線の如き、又スベリオル湖・ヒューロン湖・イェリ湖及びオンタリオ湖に於けるアメリカ合衆國及びカナダ間の境界

第四圖  
世界大戦前後に於けるルーマニアの境界 (BOWMAN)



第四節 境界

の如き、何れもさうである。又湖沼に依るときでも境界線は必ず其の上に存するものではなく、時には沿岸に存することがある。カスピ海が全然ロシアの領有に歸して居るが爲に、ロシア・ベルシヤ兩國の境界線は湖上に存せずして其の南岸に存するが如き此の例である。

自然的境界線には尙民族分布線があり、世界大戦後に改造せられたヨロ



ツバの國境は大體これに依つたもので、ルーマニヤの新國境はこの著例である。此の國は世界大戰前はブルート河・カルパチヤ山脈・ドナウ河などの自然的境界線によつてゐたが、戦後の境界は山河の如き自然的境界線を無視し全く民族分布線によつて居る。

## 二、人爲的境界線

人爲的境界線には狹義の人爲的境界線と數理的境界線との種類がある。

狹義の人爲的境界線に屬するものゝ中で、古來著名であるのは城壁と塹壕とである。此等のものは自然物を利用し得ざる處か、さもなくば自然的境界の薄弱なる處に設くるもので、昔時文明國民が其の附近の蠻族を防ぐがためによく設けたものである。支那の萬里の長城、ライン及びドナウ間に設けられたローマ帝國のリメス (Limés)、オックスアの塹壕などは世に有名なるものである。上古ベルシヤのダリウス王もコーカシヤ山脈の東麓デルベントの關門に於て横斷の長壁を築いて、蠻族の侵入に備へたことがある。此等の城壁や塹壕は元來外敵防禦のために設けたものではあるけれども、また行政上の境界としても有效なるものである。

而して最近に於ては城壁及び塹壕の代りに、イタリヤ及びスウイス間の境界に見るが如き、警報機を有する鐵條網が屢々設けられるのである。

數理的境界線とは數理を應用して定めたもので天文學的線や標準線 (Reference Line) による境界線を謂ふ。此の境界線は近世に於ける人爲的境界線の一形式であつて、文明諸國が地理上の探檢充分ならざる地方に於て、相互の境界を定むる場合に屢々採用するものである。即ち近世に於て文明諸國は地理的事情の明瞭ならざる地方に於ける境界を極める場合には、通例として最初境界線を地圖上に引き、それから更に境界委員を派遣し、それに基いて實際の境界を定めるのである。

天文學的線に依る境界の設定は、一四九三年及び九四年時のローマ法王アレクサンドル六世の提議に基く、かの有名なるポルトガル領及びイスパニヤ領間の區劃線の制定を以て、其の始とするのである。次いで一五三四年ポルトガル人がブラジルに於て境界設定の際天文學的線を利用してから、北アメリカ・オーストラリヤ及びアフリカ等の植民地に於て次第に本線が利用せられるに至つた。而して天文學的境界線には經線によるもの、緯線によるもの等の種類があるが、經線によ



つて境界を定めた例を挙げると、西經百四十一度の線を以てカナダとアラスカとの北部境界とし、東經二十度及び二十一度の線を以て舊ドイツ領南西アフリカの東部境界とし、東經百四十一度の線を以て、ニューギニーに於けるイギリス領とオランダ領との境界としたるが如きものである。南オーストラリア州の東部境界も東經百四十一度の線によつて居る。緯線に依つて境界を定めた例を挙げると、カナダとアメリカ合衆國との間の境界の如きもので、丁度ウィッツ湖からジュアン・デフカ海峽まで約二千軒の間は北緯四十九度の線を以て兩國の境界となすのである。樺太に於ける我が國領土とロシア領土との北緯五十度線による境界も緯線によつて定めた境界の好例である。

標準線によつて境界を定めた例は、アラスカとカナダとの間の南部境界(エリアス山脈とポートルランド水道との間)や威海衛の境界の如きものである。

以上境界の種類に就いて略述したが、一體如何なる要件を具へる境界が境界として價值大であるかと云ふに、其の主要なるものは、(一)完全なる保障物となること、(二)對外交通上障礙とならぬこと、(三)明瞭なる區劃物となること、(四)なるべ

く變動をなさぬこと等で、殊に(一)と(二)とは大切な要件である。然らば此等の要件を兼備する境界は、如何なる境界であるかと云ふに、斯様なものはないと稱して宜しい。何故であるかと云へば、通常境界は交通上有利であれば防禦上不便であつて(例へば民族分布線、防禦上有利であれば交通上不便であるからである)、例へば山岳。だが自然的境界帯に屬する海洋は比較的以上の要件を兼有して居るものと云ふべきであらう。海洋の交通的及び防禦的意義は時代の推移と共に大に變つたけれども、大體に於て海洋は外敵に對して防禦物となると共に交通に對して障礙物とならぬからである。但しロシアやカナダの北部境界を形成する北氷洋の如きは、第一の要件には合するけれども、第二の要件には合はない。又アルプスの如き深い且つ低い峠を有する山脈も境界として價值大なるものである。

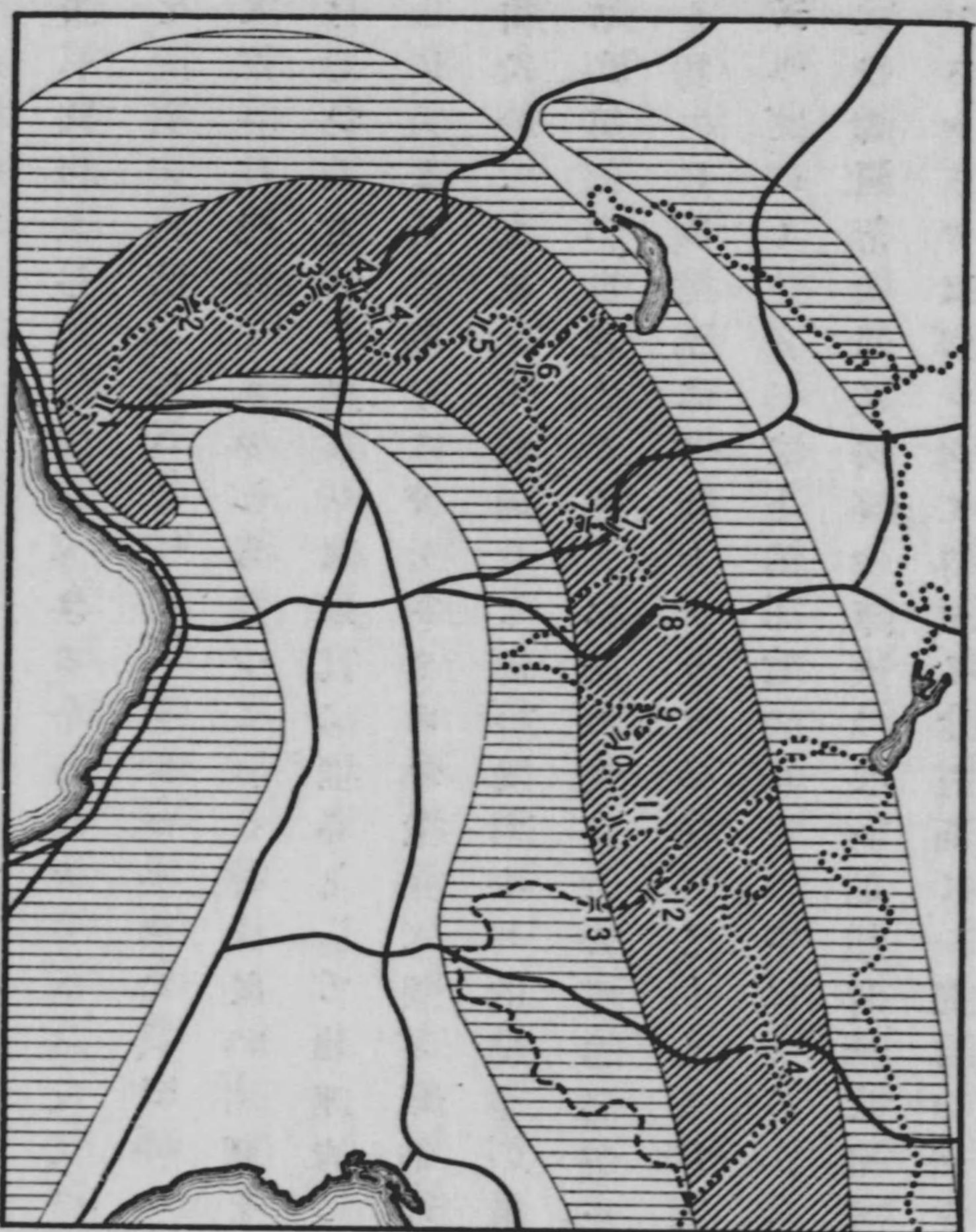
さて國家を境界の點から見ると、之には色々の差別があるが、境界が交通及び國防に影響し、更に國力に影響する點から考へると、イギリスの如き四方海洋を以て界せる島嶼國は實に良好的境界國と稱すべきである。キェルレン氏のイギリスの



境界に就いての次の評論は實に適評であると考へる。氏は曰く、イギリスは三百年以前にスコットランドと合同してから、世界に於て最も自然の國家となつた。蓋し國境としては海より優るものはなく、海は凡ての直接的軋轢より國家を保護し、一切の境界的紛争より國家を開放し、戦時には防禦の任務を盡すのである。イギリスは島國であるが爲に、ヨーロッパ大陸の諸國をして歴史上多大の犠牲を拂はしめたる境界的戦争に關はらざることが出来た。斯してイギリス國民は國力上に大なる節約をなすを得、この結果イギリスは他の方面に於て大に發展するを得たのである。(中略)而して海はまた平和的結合の最良の手段でもある。イギリスが第二十世紀の劈頭に於て歴史上比類なき經濟的強國の域に達したのも、つまり其の島國であるに基因して居る。とにかく四方海を以て圍繞せることがイギリスの全事象の根本的事實である<sup>(2)</sup>と。

また世界大戦後のイタリヤも良好的境界國に算すべきものである。何故ならば、イタリヤは海を以て界せるは三面で、一面は山岳を以て界して居るけれども、アルプス山脈はピレネー山脈と違つて多數の深き且つ低き峠を有して居るからで

第 五 圖 イタリヤの北西境界



1. Col di Tenda.
2. Col de Larche.
3. Mont Genève.
4. Mont Cenis.
5. Little St. Bernard.
6. Great St. Bernard.
7. Simplon.
8. St. Gothard.
9. Splügen.
10. Maloja.
11. Bernina.
12. Stelvio.
13. Tonale.
14. Brenner.

..... 國境  
 - - - - - イタリヤの旧國境  
 ——— 鐵道  
 峠

第四節 境界



ある。

イギリス・イタリア等に反して、世界大戰後に於ける中部ヨーロッパ諸國の如きは不良的境界國と云ふべきで、今ハンチントン氏及びカシグ氏の言をかつて之を説明すれば、「純自然の立脚點から見ると、中部ヨーロッパ諸國の今日の境界は往時の境界より少しも優つて居る所はない。ドイツの境界は以前と同じ不利を持つて居る。ライン河は實に境界として地理的にフォゲイゼン山脈よりも宜しくはない。東方に於てドイツの境界は到る處平野を走つて居るから、何れの地點に於ても容易に横切ることが出来る。新境界が舊境界より優つて居る唯一の點は、前者が後者より更に多數の人民の人種的渴望を満足せしむるところである。ポーランドの境界は地理上ドイツの境界よりも更に宜しくない。何故であるかと云へば、ポーランドは全然開放的原野の中にあるからである。實にポーランドと其の隣國との間に何等の障壁のないことは、一世紀前の舊ポーランドがドイツ・オーストリア及びロシアの間に分割された主因の一つであつたのである。障壁的境界の存せぬことは、將來ポーランドの貿易を助くるかも知れないが、然しポーラ

ンド人を分裂的にそれぞれ隣接諸國と深い關係に引き入れて、烈しい政治的紛亂を惹起せしめるに至るかも知れない。チッコスロヴァキヤ・ユーゴスラヴィヤ・ホンガリヤ・オーストリア及び中部ヨーロッパの爾餘の小國は、人種分布に基いて境界を定めるところでは明確なる自然的障壁の存しないが故に、ポーランドと略ぼ同様な惱を持つて居る。斯様な次第で過去に於てポーランド・オーストリア及びバルカン諸國にあつた様な紛亂を將來また起さしめない様にするには、國際聯盟の大なる手腕及び睿智を必要とするのである。

我が國はイギリスと同様に島嶼國であるため、境界に於ては交通上にも又國防上にも有利であるのである。

こゝに附加して廣義の緩衝帶即ち中立帶に就いて少しく述べると、此の緩衝帶(Buffer zone)なるものは、列強が相互の衝突を未然に防止せんがため、殊に近世に於て其の中間に屢々設置する準帶的境界である。

緩衝帶には凡そ二種ある。其の一つは緩衝國即ち中立國で、他の一つは狹義の緩衝帶即ち中立帶である。



緩衝國 (Buffer state) とは例へばベルシヤの如き國であつて、此の國はイギリス及びロシアの勢力の衝突地點に當り、兩國の保障により、僅に存立するのである。アフガニスタン及びシヤムの如きも此の種の國に屬し、前者はイギリス及びロシア間の緩衝國で、後者はイギリス及びフランス間の緩衝國である。朝鮮も日清戦争以前は日本及び支那間の緩衝國であり、その後日露戦争まで日本及びロシア間の緩衝國であつた。この緩衝國なるものはたゞ近世の産物ではなく、上古及び中古にもあつたもので、例へばアルメニヤがローマ帝國とベルシヤ帝國との間の緩衝國で、又ビザンチン帝國とイスラム帝國との間の緩衝國であつたが如きものである。また緩衝國は文明國の間に存するばかりでなく、屢々自然民族國間にあつたことがある。一八七五年頃ワダイ國 (Wadai) とダルフオル國 (Dar-Fur) の間に介在したタマ (Tama) 及びスラ (Sula) は其の例である。

而してかの所謂永久中立國なるものも亦緩衝國の一種に屬する。此の永久中立國 (Permanently neutralized state) とは特殊の條件の下に、列強間の條約に依り、永久的に其の獨立及び安全を保證されたる國を謂ひ、特殊の條件とは他國の攻撃

に對してたゞ防禦をなすの外は自ら積極的に戦争をなさず又は戦争に誘引せられるが如きことをしない條件をいふのである。世界大戰までヨーロッパに於て永久中立國はベルギー、ルクセンブルグ、スイスの三國あつたが、戦後對獨媾和條約によりベルギー及びルクセンブルグの永久中立は廢止せられたので、今日永久中立國であるのはスイスのみである。

狹義の緩衝帶即ち中立帶 (Neutralized zone) とは我が關東州租借地北方の中立帶の如きものである。

なほ所謂軍備禁止帶も狹義の緩衝帶の一種である。この軍備禁止帶 (Demilitarised territory) とは國家相互の協約に基いて軍備を禁止せられた一定の地域を謂ひ、スウェーデン及びノルウェー間の軍備禁止帶や世界大戰以後ドイツの境上に設定せられた軍備禁止帶などは此の著例である。

スウェーデン及びノルウェー間の軍備禁止帶は、兩國境界の兩側十五軒の間にあつて、兩國の協約により要塞を設置せざることになつて居る。世界大戰後ドイツの境上に設定せられた軍備禁止帶には二つあつて、其の一つは



北部にあり、他の一つは西部にある。北部の軍備禁止帯に就いては、ヴェルサイユ條約の第九十五條に規定せられ、北緯五十五度二十七分及び北緯五十四度の兩緯線と東經九度及び東經十六度の兩經線とにて區劃したるところで、此處では在來の要塞又は海路を管制する砲を撤廢することゝし、今後も此の種のものは之を新設することを禁止したのである。又同條約第一百五條によつて、北海にあるドイツ領のヘリゴランド島及びデューネ島の軍事的施設も一切之を破壊することにした。但し此の北部軍備禁止帯は自由交通主義の意味に於て設定せられたるものと見るべきものである。緩衝帶的の意味に於て設定されたのは西部の軍備禁止帯である。これはライン河の右岸に沿ふて東方五十軒に引かれた線の西方にあるドイツ領全部を含み、ヴェルサイユ條約第八十條に於て、ライン河の東方五十軒に引かれた線の西方に位するドイツ國版圖内に在る一切の築城工事、保壘及び陸地要塞は、其の武装を解除し且つ防備を撤廢すべし。前記の築城工事、保壘及び陸地要塞にして同盟及び聯合軍の占領地域内にないものは、本條約實施後二月以内に其の武装を解除し、爾後四月以内に其

の防備を撤廢すべく、同盟及び聯合軍の占領地域内に在るものは同盟軍最高統帥部の定むる期間内に其の武装を解除し且つ防備を撤廢すべし。本條第一項の地帯内に於ては、其の性質の如何及び重要な程度を論ぜず、新築城の構設を禁止す。と規定せられてゐる。本禁止帯は即ちドイツとフランス・ルクセンブルグ及びベルギーとの間の緩衝帶として設けられたるものである。

(1) A. Surjan, Leitlinien der allgemeinen politischen Geographie. 2. Aufl. Berlin u. Leipzig 1922, S. 44.

(2) R. Kjellen, Die Grossmächte vor und nach dem Weltkriege. 22. Aufl. Leipzig u. Berlin 1930, S. 7

3—75

(3) Huntington and Cushing, Principles of Human Geography. New York 1921, pp. 300—391.



## 第五節 位置

位置とは某地域の或地理的事項に對する方向及び距離を謂ふ。而して國家は其の位置によつて主として氣候や交通に影響を受けることに因り更に其の勢力に大なる影響を受けるのである。

偕て位置といつても色々の區別のあるものであるが、その主なるものは天文的位置、海洋的位置、政治的位置及び世界的位置の四種類である。而して天文的位置とは一に數理的位置とも稱せられ、或地域の緯度及び經度に對する位置を謂ひ、海洋的位置とは或地域の海洋に對する位置を謂ひ、これは屢々地理的位置とも呼ばれるのである。政治的位置とは或地域の他國に對する位置を謂ひ、世界的位置とは或地域のエクメネ (Ökumene) 人類居住地域に對する位置を謂ふのである。

ところで天文的位置は地貌と關聯して氣候に影響し、爾餘の三つは主として交通に關係する。而して天文的位置の影響に就いては氣候のところて述べることにし、今こゝでは主に海洋的、政治的及び世界的の三位置に就いて略述することとする。

する。

一 海洋的位置 國家は海洋的位置より見るとき海洋的位置國、内陸的位置國及び縁邊的位置國の三種に大別するを得るのである。

(一) 海洋的位置國即ち海洋國とは四方海洋に臨む國家を謂ひ、イギリス・日本・アイスランド・ニュー・ジールランドなどの如き島嶼國が之に屬する。

(二) 内陸的位置國即ち内陸國とは四方陸地に接する國家をいひ、スウイスルクセンプルグ・ホンガリヤ・アンドラ・アフガニスタン・アビシニヤ・サンマリノ・オーストリア・チッコスロヴァキヤ・ポリビヤ・バラグアイなどは即ち是である。

(三) 縁邊的位置國即ち縁邊國とは大陸の縁邊に在つて、一方海洋に臨み一方陸地に接する國家を謂ひ、古來多くの國家は此の種類のものである。而してこの縁邊國には準海洋國と稱すべきものと準内陸國と稱すべきものがある。ギリシヤ・イタリヤの如き半島國、パナマ・フランスの如き地峽國、トルコ・デンマルクの如き海峽國は概ね準海洋國に屬する。

縁邊國にしてそれが準海洋國であるか、又準内陸國であるかは、海に接する境界



の延長と陸に接する境界の延長との比によつて知り得べく、今その例としてヒツクマン氏の地理統計世界地圖によつて世界の重要な縁邊國の海境界と陸境界との比を擧げると、

國名	海の境界百分比例	陸の境界百分比例
ノルウエー	八九	一一
ヨーロッパ・ロシア	六〇	四〇
アメリカ合衆國	四五	五五
イタリヤ	八一	一九
スウェーデン	七八	二二
ドイツ	二七	七三
イスパニヤ	六九	三一
フランス	五一	四九
ポーランド	二六	九七
ユーゴスラヴィヤ	三六	六四
ルーマニヤ	一六	八四

ポルトガル	五一	四九
オランダ	五一	四九
ベルギー	六	九四

この表によつてアメリカ合衆國・ドイツ・ポーランド・ユーゴスラヴィヤ・ルーマニヤ・ベルギーは準内陸國で其の他の國は準海洋國であることを知り得るのである。今交通上より海洋國及び準海洋國と内陸國及び準内陸國とを比較觀察するに今日大體に於て前者は有利で後者は不利である。何故ならば海洋は交通上上古及び中古に於てこそ意義僅少であつたけれども、造船術の進歩と航海術の發達と共に伴ひ次第に其の價値を増大し、今や海洋は陸地よりも世界交通上重大な意義を有するからである。故に今日國家の發展上後者は不利の地位にあつて前者は有利の地位にあるのである。かのオランダが世界海運上重要な地位を占めるのは、全く其の海岸の延長千四十三浬に達して準海洋國であることに關係し、之に反してベルギーが海運業に於て甚だ振はないのは、其の海岸の延長僅に八十五浬に過ぎないで準内陸國であることに大に關係して居る。またイギリスが世界經濟上重



第六圖



1912年に於けるセルビヤ (Schmidt-Haack)

第七圖



1914年以前のロシアの海岸 (Hennig)

要な地位を占めるのは、海洋國に屬して對外交通上甚だ便利であることに基き、之に反してパラグワイ國が種々の天産に富むに關らず經濟的發展の遅々たるのは、内陸國に屬して對外交通上甚だ不便であることに因るのである。

それで内陸國にして苟も政治上及び經濟上發展をなさうとするものは、準海洋國たらんことを常に努めて止まないで、例へばセルビヤの近世に於ける所謂大セルビヤ主義なるものも、實はアドリヤ海に出口を求めんとするにあつたが如きものである。

然しすべての海洋國及び準海洋國が對外交通上大なる利益を有するとは言へない。それ等國家の臨む海洋が例へば北氷洋の如き交通上殆ど何等の價値をも有しないものであれば、交通上海洋より受ける利益は殆どないのである。ヨーロッパは、この好例である。ヨーロッパの境界を見るに、さきに擧げた様に海洋境界は陸地境界の約一倍半に達し、海洋境界の陸地境界に對する割合はフランスよりも大である。だがヨーロッパの周圍の海洋は半は一年の大部分結氷を以て封鎖せられ、殘餘の部分も僅に狹隘な水道によつて外海に出づる



を得る有様であるから、ヨーロッパ、ロシアは表面は準海洋國であるけれども、事實は準内陸國に過ぎないのである。さればこそロシアはペートル大帝以來結氷の患なき外洋に出口を求めるとを對外政策の骨子となし、過去約二百年の間に、トルコに對し、ポズボルス及びダーダネルスの兩海峡を獲得せんため、約八回の戦争をなしたのである。

二、政治的位置、また國家は政治的位置より見るとき、孤立的位置國及び隣接的位置國の二種に大別するを得るのである。孤立的位置國即ち孤立國とは何れの國家にも隣接しない位置にある國家を謂ひ、イギリスや日本の如き島嶼國は之に屬する。キザア・ブカラの如き泉地國及びチベットの如き山岳を繞らせる高原國や、一部沙漠を控へ一部海洋に臨むエジプト・モロッコなどは準孤立國に算すべきものである。隣接的位置國即ち隣接國とは他國に隣接する位置にある國を謂ひ、之に次の如き別がある。(1)、一國に隣接する國、例へばポルトガル・デンマーク・サンマリノ、(2)、二國に隣接する國、例へばスウェーデン・アメリカ合衆國・メキシコ・イスパニヤ・ノルウェー、(3)、三國以上に隣接する國、例へばアフガニスタン(三國)

イタリヤ(四國)・支那(五國)・ポーランド(六國)・フランス(七國)・ドイツ(十國)

次に孤立國と隣接國とを比較考察するに、對外關係に於て前者は有利で後者は不利である。我が國が建國以來未だ曾て外國に侵略されないのは、其の孤立的位置に關係するもので、朝鮮が屢々北方民族や漢民族に征服されたのは、其の隣接的位置に關係するものと云ふべきである。

隣接國はどうしても對外關係が繁雜を極むるため、孤立國に比し國家の發展上往々不利の地位に立つのである。第十七、八世紀に行はれたフランスとイギリスとの植民政策上の争覇戦に於けるフランスの地位の如き即ちそれである。此の争覇戦に於てフランスは終に敗北したが、之には種々の原因があるけれども、フランスが其の隣接的位置の爲に對外關係が面倒で意を海外に専らにすることの出來得なかつたとは、其の大なる原因であると思はれる。ブラジルは近代に於て隣接國の好例の一つで、丁度ウルグアイ・アルゼンチン・パラグアイ・ボリヴァー・ペルー・コロンビヤ・ヴェネズエラ・ギアナ(イギリス領)・オランダ領・フランス領(の十國に隣りしてゐるが、この爲建國以來久しく境界問題に悩まされ、之によつて國力の發展を



阻害された所は少くない。

而して隣接國が對外關係に於て不利な程度は、隣國の數と其の力とに大なる關係を有するものであるが、ズーパン氏は之を次の如く隣接國の人口數を以て隣國の人口總數を除したものを以て示して居る(世界大戰前の人口)。

イギリス	〇〇
アメリカ合衆國	〇二
イタリヤ	二七
ロシヤ	三一
フランス	三三
ドイツ	三八
オーストリア	五七
ハンガリヤ	(七五)
(日本)	二二
イスパニヤ	二二
ノルウエー	二四

ポルトガル	三七
オランダ	一七
ベルギー	一四
デンマルク	二四
ルーマニヤ	三〇
スウェーデン	三〇
スウイス	五〇

三、世界的位置 國家は又世界的位置より見るとき中央的位置國及び邊陲的位置國に大別することが出来る。中央的位置國即ち中央國とはエクメネの中央若くは之に近い處にある國を謂ひ、イギリス・フランスの如きものである。邊陲的位置國即ち邊陲國とはエクメネの邊陲若くは之に近い處にある國を謂ひ、オーストラリヤ・ニュージールランドの如きものである。國家のこの世界的位置も其の交通に大なる關係を有するものである。即ち國家は交通上エクメネの中央にあれば有利で其の邊陲にあれば不利である。



さきに國家は海洋的位置からでも又政治的位置からでも島嶼國が最も宜しいと述べたが、然し島嶼國でもそれが中央國であるかまた邊陲國であるか、問題であつて、若しもそれがエクメネの邊陲にあれば大に其の價値を減ずるのである。例へばニュージールランドの如きものである。島嶼國でもそれがエクメネの中央にあつて始めて其の價値を發揮することが出来る。イギリスは位置が良好であると云ふても、唯島嶼國であるがため計りでなく、エクメネの中央にあることが大なる關係を有するのである。

吾人若し兩脚器の一脚をロンドンに据ゑ、試みに他の一脚を回轉せば、世界の一半を包む圏線を劃することが出来よう。而して此の圏線内に地球上の主なる陸地が包括せられて、イギリスは略ぼその中央に位するを知るのである。イギリスの此の世界的位置はいふ迄もなくイギリスが世界の各地と交通をなす上に多大の利益を與へるもので、イギリスの今日の世界的發展は大いに之に關するのである。

ところでこゝに注意すべきは世界的位置は政治的位置と同様に時の古今に於て變るもので、隨つて其の國家に對する意義も時代に依つて變るとである。例へばイギリスの世界的位置の如きそれである。イギリスは今日でこそ世界の中央に位するけれども、上古及び中古に於ては其の邊陲に位したものである。さればこそイギリスの國力發展も近古以後に屬するのである。ヘットネル氏は之に關して次の如く説明をなして居る。曰く、イギリス諸島はイスパニヤ・ポルトガル・フランス及びノルウェーなどと同様に、ヨーロッパの西北緣邊に位し又大西洋の東北緣邊に位してゐるけれども、此等の諸國より殊に此の特徴を具へて居る。然し此の緣邊的位置の意義は歴史の推移と共に變動した。人類が未だ大洋航行を敢行しない以前即ち大西洋がたゞ茫漠たる水の沙漠であつたまでは、此の位置も世界の末端的位置に過ぎずして、世界はこゝに盡きたのである。故にイギリス諸島はドイツやフランスの如く大陸の中央に位置するものと大に事情を異にし、敢て背後の防備を具ふる必要こそなかつたけれども、然し文明の點に於ては不利の地位にあつて、上古及び中古に於てはヨーロッパ文明世界の邊境にあるため遅々と進まず、アメリカ發見當時にあつてもなほ南ヨーロッパ諸國の下位に立つを



免かれ得なかつたのである。然るに航海術が發達して大洋横斷が敢行され、海外貿易及び植民事業の大に起るに及び、ヨーロッパ大陸と大西洋との縁邊に位置せることは非常に利益となり、かくてイギリスは大洋國となり以て今日の盛大を來すに至つた<sup>1)</sup>と。

我が國はイギリスと海洋的及び政治的位置に於ては勿論世界的位置に於ても大に似てゐるところがあり、これは我が國の發展に偉大な貢獻をなした。今キェルレン氏の言をかつて更に之を説明すれば氏は曰く、日本が強國となつた根本條件を考察する者の誰でも最初に氣付くとは四方環海の國であること、其の位置とである。日本はアジャ版のイギリス (England in asiatischer Auflage) である。日本は實にイギリスと同様に、一面に於ては人類文化の一中心を有する大陸の海岸に近く、他面に於ては大洋に面して居る。日英何れも大發展をなすに至つたのは、その面せる大洋が文化世界の中に引き入れられてからであるけれども、アジャのイギリスはヨーロッパのイギリスより三世紀遅れて發展した。日本は實に第十九世紀に至るまで文化圏の外に在つたのである。處がイギリスが第十六世紀に入り

て變動した如く、日本は第十九世紀に入つて變動した。日本は太平洋が世界史の圏内に入ると共に、一種の優越なる地位を得たのである。實に日本は極東(支那)と極西(アメリカ合衆國)との間にあつて中央的位置を占め、且つアメリカ合衆國の如く保護的位置を有して居る<sup>(2)</sup>と。

(1) A Supan, Leitlinien der allgemeinen politischen Geographie. 2. Aufl. Berlin u. Leipzig 1922, S. 75-6.

(2) A. Hetner, Englands Welt Herrschaft. 4. Aufl. Leipzig u. Berlin 1928, S. 6.

(3) R. Kjellen, Die Grossmächte vor und nach dem Weltkriege. 22. Aufl. Leipzig u. Berlin 1930, S. 152.



### 第六節 地貌

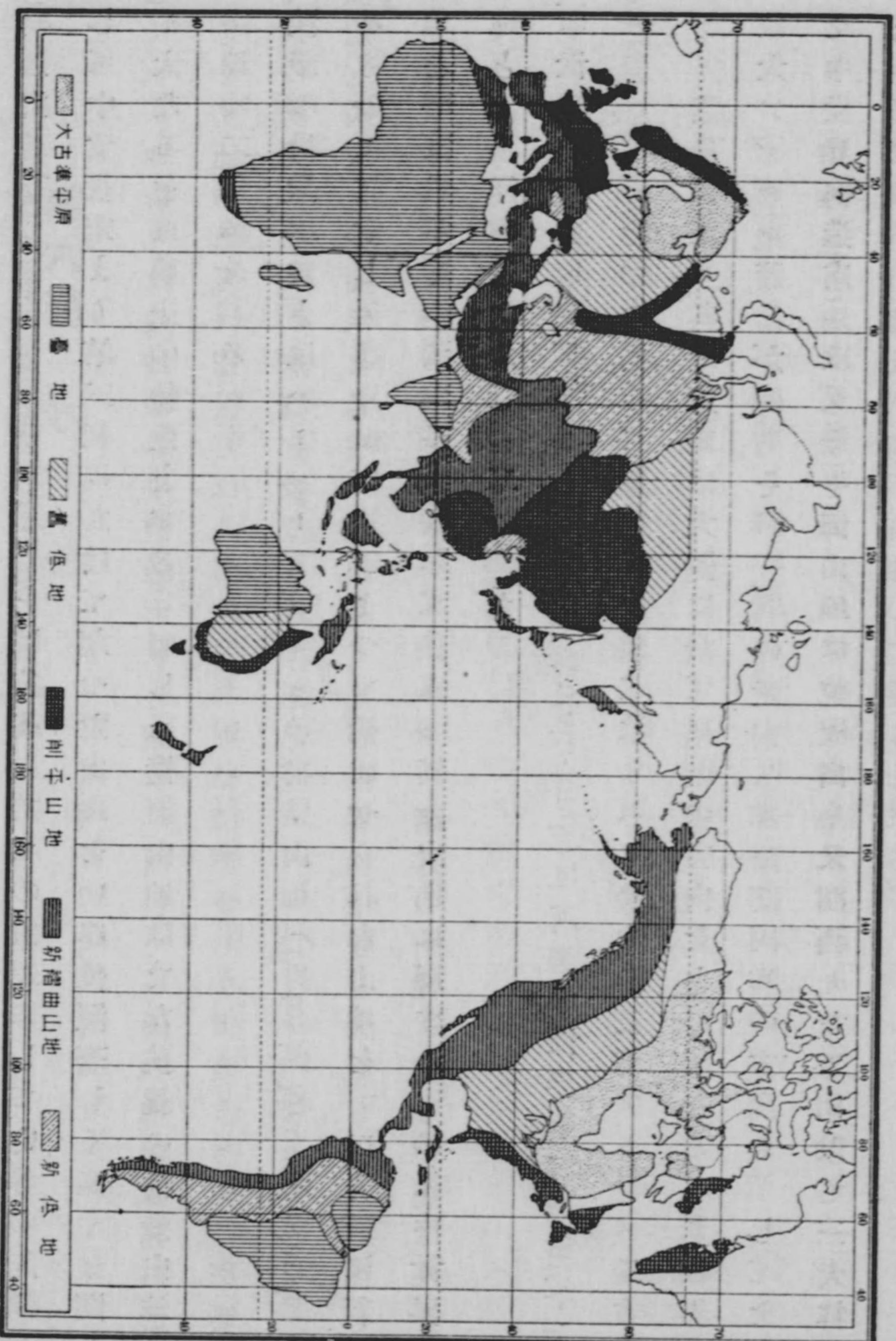
茲にいふ地貌とは或地域の垂直的形狀を謂ふ。而して一國の地貌は其の形體と同じく交通の難易に影響し、ひいて國民の團結に影響し、又天産の多少に影響し、以て其の勢力に多大の影響を及ぼすのである。

地貌と國家との關係を考察するに當り、先づ世界の地貌を大觀しよう。而してハーバートソン・グレゴリー・ジュース・ヘットネル諸氏の研究に據り、地貌は凡そ次の如く大別することが出来よう。

- 一 山地
  - (一) 構造山地(廣義)
  - (二) 削平山地
- 二 平地
  - (一) 臺地
  - (二) 低地

一、こゝで山地(Mountain-lands)と云ふのは位置高く又凹凸大なるを以て一大特色となすもので、構造山地及び削平山地の二種に分れる。

第八圖 世界の地貌 (HERBERTSON)





(一)構造山地(Structural Mountain-lands)とは狹義に於ての山地にして、山谷の起伏が主として中生代末より第三紀にかけて起つた山地をいひ、位置著しく高く又凹凸著しく大なるを地貌上の特色とする。而して構造山地はまた狹義の構造山地及び火山地の二種に分れる。

1、狹義の構造山地とはハーバートソンの構造山地(Tectonic Mountain-lands)と稱するものに該當し、所謂造山作用によつて構成せられた山地をいひ、普通に新褶曲山地と呼ばれるものである。而して狹義の構造山地に屬するものに中世界構造山地と太平洋構造山地との二帯がある。

(1)中世界構造山地(Mid-World Tectonic Mountain-lands)は所謂中世界陷沒地(Mid-World Depressions)の北方にあつて、舊世界に於てはイベリヤ半島及びアトラス地方からマライ諸島に至り、其の走向は大體に於て東西の方向をとつてをる。新世界に於ては大アンチル諸島が即ちそれで、其の走向も亦略ぼ同様の方向を示してをる。而して中世界構造山地は又地中海山地アジア山地及び西インド山地の三部に分つことが出来る。

(2)太平洋構造山地(Pacific Tectonic Mountain-lands)は中世界構造山地が中世界陷沒地の北方に存する如く、太平洋周邊の陷沒地の外部に在つて丁度太平洋を圍むのである。この山地は一部を除けば大體に於て南北の走向をとり、アメリカ山地及びアジアオーストララシャ山地の二帯に分れるのである。

2、火山地即ち堆積山地(Volcanic or Accumulation Mountain-lands)とは所謂火山作用によつて生成された山地を謂ふ。

而して火山は地殻の裂罅に富む處に噴出するものであるから、火山地は大陸の縁邊又は洋中の島嶼に多いが、其の最大なものは太平洋火山地及び中世界火山地の二帯である。

(1)太平洋火山地(Pacific Volcanic Mountain-lands)は太平洋構造山地と略ぼ一致し、東西の二帯に分れ、東部火山帯は南北アメリカの西岸に屬し、西部火山帯は北はカムチャッカ半島に始まつて千島・北海道・日本々島・臺灣・フィリッピン・ニューギネヤ・ソロモン・ニューヘブリデス・ニュージールランド等を経て南極圏内のガイクトリヤに至つて居る。



(2) 中世界火山地 (Mid-World Volcanic Mountain-lands) は中世界構造山地と略ぼ一致し、小アンチール列島の火山帶・イタリア半島の火山帶・スンダ列島の火山帶などが之に屬する。

此の二大帶の外に尙南北に走る二帶がある。其の一は大西洋東部の火山帶で、他の一は東アフリカ地溝の火山帶である。前者は北はヤンマエン島に始まつてアイスランドに至り、更にアゾール・スカナリヤ・ヴェルデ岬の三諸島を経てアツセンション島に至り、更にセント・ヘレナを経てトリスタン・ダクニヤ島に達し、後者は南はザンベジ河口附近より北はシリヤに至つて居る。

(1) 削平山地 (Denudation Mountain-lands) はハーバートソン氏の削平高地 (Denudation Highlands) とも稱し、通常舊褶曲山地と呼ばれるもので、主として古生代に於ける造山作用によつて構成せられた山地をいふ。形貌上構造山地と異るところは、長い期間の削平作用によつて、位置が左程に高くなく、また凹凸が左程に大でない點である。この意味からドイツの學者は胴體山地 (Rumpfgebirge) の名稱を以て呼ぶのである。故に削平山地は次に述べる臺地と大に似て居るところがあるが、然

し古い時代に於て高峻な褶曲山脈を形成したことに於て大に異つてゐる。

而して世界に於て削平山地の大なるものは多く中世界構造山地の北方に存する。北西ヨーロッパ山地・中部ヨーロッパ山地・ウラル山地・北東アジア山地・東部アジア山地は其の主なるものである。尙北アメリカ東部山地即ちアパラチャ山脈及び東部オーストラリヤ山地も亦世界的に著名である。

而して山地は一般に土地の起伏が甚だしいから交通困難で且つ天産複雑なるが故に、人文上より見るととき分裂的多樣的なるを其の一大特色とする。此の傾向は無論削平山地よりも構造山地に於て著しいのである。

二、平地 (Plain-lands) は山地に反して位置低く又凹凸少きを以て一大特色となすもので、臺地及び低地の二種に分れる。

(1) 臺地 (Table-lands) とはハーバートソン氏の臺地と稱するもので、主として舊水成岩(中生代及びそれ以前の岩石)によつて構成せられた非褶曲地方をいひ、次に述べる低地よりも位置高く、縁邊は通常斷崖を以て終るのである。而して世界で有名な臺地はすべて中世界陷沒地の南方に發達し、ギアナ及びブラジル臺地・アフリ



カ大陸の大部分・マダガスカル・アラビヤ・デカン・西部オーストラリヤなどが之に屬する。

こゝに注意すべきは臺地は凹凸が少いと云ふてもそれは山地に比較してのことである點である。臺地でも斷層作用や火山作用や侵蝕作用によつて山谷の起伏するところも少くない。故に臺地に對して屢々山地の名を以て呼ぶこともある。

(二)低地(Low-lands)は臺地と同様に非褶曲地方に屬するけれども、位置著しく低く、又凹凸著しく小である。而して低地に(甲)主に舊水成岩によつて成るもの(舊低地)と、(乙)主に新水成岩によつて成るもの(新低地)と、(丙)主として太古代に於ける造山作用によつて出來た山地で、長期に亘る削平作用により、殆ど平坦な低地に化したもの(太古準平原)との三種に分れる。(甲)に屬するものは中部オーストラリヤ・東部ヨーロッパ・中部シベリヤ・北アメリカ中部の諸低地で、(乙)に屬するものはアマゾン流域・中部ヨーロッパ・バルト海及び北海沿岸地方・ホンガリヤ・西部シベリヤ・ロシア領中アジア・北支那及び中支那東部北部インド・メソポタミヤ・バラニヤ流域・オリノコ

流域・アメリカ合衆國南東部などの低地である。(丙)に屬するもの、好例はジュース氏のバルト楯狀地(Baltische Schield)及びカナダ楯狀地(Kanadische Schield)等である。而して平地は山地とちがつて通常土地の起伏が少いから交通容易で且つ天産單調なるが故に、人文上より見れば統一的劃一的なるを其の大なる特色となすのである。さうして此の傾向は臺地よりも殊に低地に於て著しい。

偕て國家は山地に存するものもあれば、平地に在るものもあり、又山地及び平地に跨るものもあるが、地貌が國力に影響を及ぼす點から考察するとき、國家は地貌の平坦な平坦的地貌國と然らざる非平坦的地貌國の二つに大別することが出来る。

一、平坦的地貌國は平地殊に低地に位置する國に之を見るのであるが、然し地貌の絶對的に平坦である國は極めて稀である。平坦的地貌國と稱せられるものでも、その實は概ね準平坦的地貌國に過ぎない。かのオランダは平坦的地貌國と見るべきものであるけれども、決して純平坦的地貌國ではないのである。何故であ



るかといへば、なる程オランダは中部ヨーロッパ低地の西部に位置し、國土の大部分はシエルト・マース及びラインによる沖積低地より成立してゐるけれども、最南東部は極めて少しではあるが、中部ヨーロッパ山地の一部であるライン山地に屬し、最高地點は七百五十呎にも達するからである。

オランダの外デンマルク・イラクなども亦平坦的地貌國に數ふべきものであるが、然し大國の中に之を求めることは困難である。けれどもヨーロッパは先づ之に屬するものといふべきである。

ヨーロッパは實に東部ヨーロッパ低地に位置し、大國であつて此の國ほど地貌の單調であるのは他に其の比を見ないといふて宜しい。邊境地方を除けば、其の廣大なる領域に亘つて山岳らしい山岳は殆ど見當らず、國內で高い部分といへば東部ではクヴァリンスク附近、西方ではワルダイ丘であつて、前者は海拔三百九十米、後者同三百二十米に過ぎない。故に此の國の自然的區域を決定するものは垂直的肢節でなくして氣候や植物である。

二、非平坦的地貌國は山地殊に構造山地に位置する國に之を見るのである。我

が國の如きこの好例である。蓋し我が國はアジャオーストララシヤ山地に屬すると共に、太平洋西部火山帯に屬する故、世界に於て地貌の極めて多様な國の一つである。

非平坦的地貌國は獨り構造山地の國家のみならず削平山地の國家並に山地及び平地に跨る國家もさうで、世界の多數の國家は之に屬する。而して非平坦的地貌國は凡そ二分的地貌國及び多分的地貌國の二種に分つことが出来る。

(一)二分的地貌國とは二個の自然的區域より成立する國家をいひ、ベルギーは其の一例である。蓋し此の國は南東部はライン山地の一部であるアルデンヌの高地より、北西部は中部ヨーロッパ低地の一部より成立するからである。南東部がブラジル臺地に屬し北西部がアマゾン低地より成るブラジルも二分的地貌國に屬し、コロンビア・ポリビア・アルゼンチン・パラグアイなども亦同様である。

(二)多分的地貌國とは三個以上の自然的區域より成立する國家をいひ、之に線條狀地貌國及び細胞狀地貌國の種類がある。

1、線條狀地貌國とは各自然的區域が線條狀に排列せる國家をいひ、之に又中凹



狀地貌國、中凸狀地貌國、階段狀地貌國等の種類がある。

(1) 中凹狀地貌國は更に溝狀地貌國と盆狀地貌國とに分れる。

a、溝狀地貌國とは中部が溝狀に凹んだ地貌を有する國家をいひ、アメリカ合衆國は其の例である。此の國は實に略ぼ南北に走る太平洋構造山地、中部低地及び大西洋削平山地(アラチャ山地)の三地域より成立するのである。カナダ・チリ・イタリヤ・オーストラリヤ・スイスなども此の種の國に屬する。

b、盆狀地貌國とは中部が盆狀に凹める地貌を有する國家をいひ、舊ホンガリヤはその例である。世界大戦後のホンガリヤも大體に於て盆狀的であるが、戦前のホンガリヤは周圍に地中海山地の諸山脈を控へ、即ち北にカルパチヤ山脈、東にトランシルバニアアルプ山脈、南にチナルアルプ山脈、西に東アルプ山脈を控へ、中にホンガリヤ大低原を包み、最もよく盆狀地貌を示すのである。中古のボヘミヤ王國及びアラゴン王國も同様である。

(2) 中凸狀地貌國も更に屋根狀地貌國と帽子狀地貌國とに分れる。

a、屋根狀地貌國とは溝狀地貌國に反して中部が屋根狀に凸まる地貌を有する

國家をいひ、ペルーは此の例である。蓋しペルーは明かに西部、中部及び東部の三區域より成り、西部地域は海岸低地で、東部地域はアマゾン低地で、中部地域はアメリカ山地に屬するペルー・アンデス山地より成つて居るのである。ブルガリヤ・エクトワドルも亦この種の國家に屬して居る。

b、帽子狀地貌國とは盆狀地貌國に反して、中部が帽子狀に凸まる地貌を有する國家をいひ、世界大戦以後のルーマニヤは之に屬する。此の國では中央にピハル山脈、東カルパチヤ山脈及びトランシルヴァニアアルプ山脈によつて圍まれたるトランシルヴァニア盆地があり、周邊にダニユープの低地即ち東にワラキヤ及びベッサラビヤの低地、西にホンガリヤの低地があつて、殆ど之を圍繞して居るのである。

(3) 階段狀地貌國とは各自然的區域が階段狀に並列せる地貌を有する國家をいふ。ドイツは此の例で、大體三個の自然的區域に分れ、南から北に向つて階段狀になつて居る。三個の自然的區域とは即ち(甲)南部ドイツ——構造山地(ドイツジュラ及びアルプス前地)、(乙)中部ドイツ——削平山地(中部ヨーロッパ山地の一部であ



るライン山地及びウエーゼル山地、(丙)北部ドイツ——低地(バルト海及び北海沿岸低地)である。

2. 細胞狀地貌國とは各自然的區域が線條狀地貌國の如く、順序よく排列せずして、不規則に聚合せる國家をいふ。舊オーストリア・ハンガリアは此の例である。同國は凡そ左の五個の自然的區域に分たれてゐた。

(甲) 構造山地に屬する東部アルプス地方(チロール・スチリヤ・カリンチヤ)及び東部アルプス前地(上部及び下部オーストリア)。

(乙) 構造山地に屬するチナルアルプス地方(カルニオラ・クロアチヤ・スラヴニア・ボスニヤ・ヘルゼゴヴィナ・イストリヤ・ダルマチヤ)。

(丙) 削平山地に屬するボヘミア及びモラヴィヤ地方。

(丁) 構造山地に屬するトランシルヴァニアアルプス地方(カルパチヤ山脈地方・カルパチヤ山脈の北部前地(トランシルヴァニア・ブコヴィナ・ガリツィヤ・シレシヤ)。

(戊) 低地に屬するハンガリア平原。

又フランスやイスパニヤも此の種の地貌國に屬するものである。

偕て地貌が交通の便否に影響し更に國民の團結に影響する點より見る時、平坦的地貌國は一般に交通上便利であり、従つて國民の統一に容易であるのが普通である。ロシアが世界大戰迄民族的構成に於て實に複雑であつたに關らず、長い間免に角國民の團結を保持して一大帝國を作つたのは、地貌が極めて平坦で、中央集權的國家の建設に便利などが其の一大原因であつたとは否むべからざる事と思ふ。之に反して、非平坦的地貌國は、一般に交通上不便であり、従つて通常國民の統一に困難である。例へば舊オーストリア・ハンガリアが世界大戰以前より常に分裂的の傾向を示してゐたのは、元來民族的構成が大に複雑であるのによるけれども、地貌が非常に非平坦で細胞狀地貌國であつたとも其の一大原因であると思ふ。地貌の交通の便否及び國民の團結に及ぼす影響は形體の及ぼす影響と同じく時代によつて變るけれども、大體に於て平坦的地貌國の影響は單一的形體國に似て結合的傾向を有し、之に反して非平坦的地貌國の影響は複合的形體國に似て非結合的傾向を有するのである。



尙非平坦的地貌の交通及び國民に及ぼす非結合的影響は、單に地貌が非平坦である計りでなく、又これに支配せられて河川が分裂的であるとき、愈々大であるのを見るのである。支那はその一例である。抑々支那(本部)は大體に於ては東部アジャ山地及び支那低地に屬するけれども、略ぼ東西に走る東崑崙山脈に屬する北嶺(秦嶺)及び南支那山脈に屬する南嶺によつて三個の區域に分れてゐる。三區とは北部支那中部支那及び南部支那である。支那はかくたゞ南中北に三分せられるのみならず、大行山河南嶺湖廣山などの斷層山脈を界として西部に高くして東部に低くなつてゐるから、北部支那の黄河、中部支那の揚子江、南部支那の西江などの如き主要河川は、之に支配せられて略ぼ西より東へ走つてゐる。それで支那では東西の交通には便宜を有するけれども南北の交通には殆ど便宜を有しない。要するに支那は地貌上また水理上南中北の三個の區域に分れるのである。支那の歴史を見るととき政治上常に南中北または南北に分裂し或は分裂せんとする傾きのあるのは種々の原因があるけれども、地貌及び水理の此の分裂的狀態が其の一大原因であることは否定すべからざる所であると考へられる。

第九圖

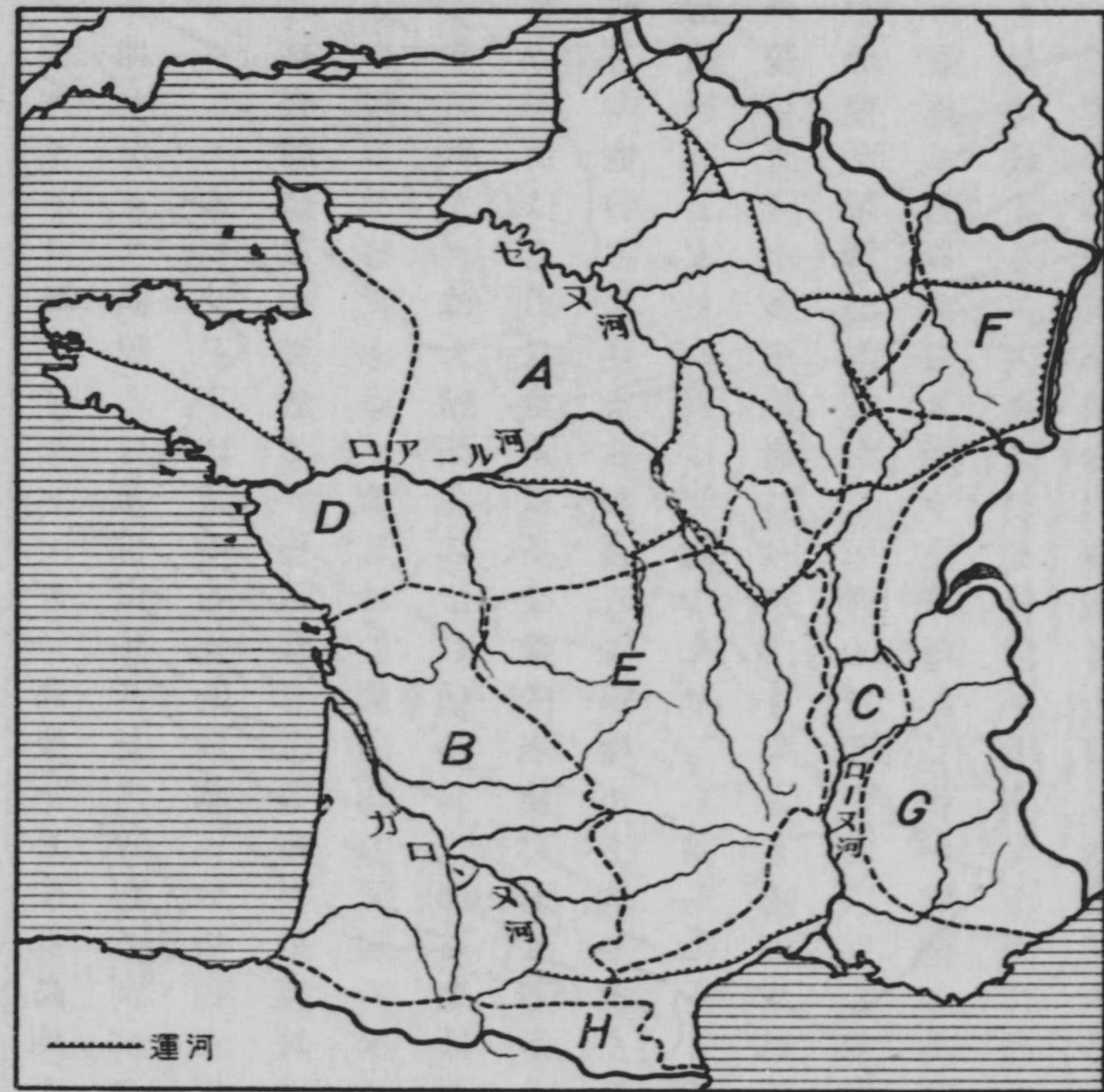


支那の地貌 (Schmitthenner)

然し地貌が非平坦的であつても、河川にして結合的であるときは、地貌の國家に及ぼす分裂的影響は大に之によつて緩和せられるのである。フランスはまさに



第十圖  
フランスの地貌



A 北部低地    C 東部低地    E 中部高地    G 東部山地  
 B 南部低地    D 西部高地    F 東北高地    H 南部山地

此の一例である。  
 フランスは地貌  
 上より見ると東  
 部及び南部の構  
 造山地を除けば  
 大體中部ヨロ  
 ツバ山地に位し  
 て細胞狀國家に  
 屬し、大凡A、北部  
 低地(パリ盆地)、  
 B、南部低地(アキ  
 テーヌ盆地)、C、東  
 部低地(ソローロ  
 ーヌ低地)、D、西

部高地(ブルターニュ及びノルマンディー高原) E、中部高地(オーヴェルニュ高原)  
 F、東北高地(ロレーン高原) G、東部山地(西部アルプス及びフランスジュラ) H、南  
 部山地(フランス領ピレネー山脈)の自然的區域に分裂して居る。然るに水理上よ  
 り見る時結合的になつて居る。何故ならば各自然的區域は河川によつて容易に  
 聯結せられ得るからである。蓋しこの國の四大河川のセーヌ、ロアル、ガロンヌ、  
 ローヌのうちローヌは大體南北に流れ、他の三大河は略ぼ東西に走つて居るけれ  
 ども、此等の河川はそれ自身大なる交通的價値を有する計りでなく、分水界の低い  
 ため運河其の他の方法により相互の聯絡極めて容易である。フランスが比較的  
 早く政治的統一をなしたのは、河川の此状態に負ふ所少くないと考へられる。  
 次に地貌が天産の多少に影響を及ぼす點より考察すれば、概して平坦的地貌國  
 は氣候や地貌が單調であるから天産も單調で、之に反して非平坦的地貌國は氣候  
 や地貌が複雑であるから天産も複雑であるのが通例である。ロシアとアメリカ  
 合衆國とを比較するに天産に於て後者が前者より遙に豊富であるのは、其の一大  
 原因として後者の地貌が前者の地貌より遙に複雑であることを考へねばならな



いと思ふ。而して面積の比較的小なる國でも、地貌の關係から天産の比較的多種な國は其の例に乏しくない。エクワドルは其の一例である。此の國は其の天文地理學的位置上よりは全部が當然アマゾン式氣候區に屬すべきであるが、地貌上屋根狀國家に屬し西部海岸低地、東部アマゾン低地、中部エクワドル、アンデス山地の三區域に分れ居るため、アマゾン式氣候の發達してゐるのは東西の低地だけで、中部の山地はハーバートソンの所謂エクワドル式氣候區に屬し、氣候溫和で四季春の如しと稱せられて居る。氣候の此の状態に支配せられて西部低地はカ、オ、甘蔗、珈琲及び熱帶果實を産し、東部低地は護謨及び他の熱帶産物を、又中部山地は小麥、其の他の溫帶穀類及び畜産物を産するのである。

之を要するに平坦の地貌國は交通上は有利であるけれども天産上は不利であり、非平坦の地貌國は交通上は不利であるけれども天産上は有利であると言はねばならない。而して世界の國家は地貌上より見れば平坦國か非平坦國に屬するか、交通上に於ても又天産上に於ても有利である國はないと稱して宜しい。然し之に近いものを求めると、アメリカ合衆國は之に屬するものと云ふべきである。

アメリカ合衆國は地貌上より見るときは前に述べた通り中凹狀國に屬し、西部構造山地、中部低地及び東部削平山地の三部より成つて居る。而して西部地方が金、銀、銅、錫、水銀、石油などに富み、中部地方が小麥、玉蜀黍、棉花、煙草、家畜などに富み、東部地方が石炭、石油、自然瓦斯、鐵などに富むのは根本的に地貌に關係し、かくてアメリカ合衆國が各種の天産に富むのは、地貌の非平坦のなかに大なる關係を有することは明かな事實である。同時に非平坦のなかに大なる關係を有する不利を與へてゐることも否定するを得ないことであるが、然しこれは西部及び中部ヨーロッパの様なことはない。ハセルト氏の言をかつていへば、アメリカ合衆國の地貌は狭少の範圍に於て急に變化する西部及び中部ヨーロッパの地貌と違つて、數百軒の間同一の状態を現はして居る。故に旅行の際氣附かないうちに一の自然區域より他の自然區域に至るのである。この國の地貌は分裂的であると云ふより寧ろ結合的である傾きを有して交通容易で此の國の政治的結合を少からず助けた。加ふるにミシシッピ河系はこの國の丁度中央にあつて楔狀をなし、西方はミズーリ及び他の支流によつてロッキーマウンテン脈地方に至り、東方はオハ



イオ及び他の支流によつてアパラチャ山脈地方に通じ、北は大湖地方の低い分水界に達し、運河によつて大湖とも連つて、東部と西部との間また北部と南部との間の重要な交通脈となり、従つて此の國の國民的統一に多大の貢獻をなした。

翻つて我が國を見るに複合的形體國に屬すると共に非平坦的地貌國に屬するから、種々の天産を産するけれども、四方海を環らしてゐる計りでなく、到る處海水が深く侵入して内海港灣が大に發達してゐるから前にも一言した様に各自然的區域相互間の交通に左程の困難を見ないのは、國民の統一上至幸といふべきである。然し非平坦的地貌國であるために我が國は國內交通上少からざる不利を有して居るのは事實で、我が國が例へば鐵道の發達に於て大に列強に遅れて居るが如きは全くこの爲である。

(1) A. J. Herbertson, A Handbook of Geography. 2. Vols. London 1911—12.

A. J. Herbertson, Physiographical Introduction to Geography. 3. Edit. Oxford 1918, pp. 14—40.

J. W. Gregory, Geography Structural, Physical and Comparative. London 1908.

E. Suess, Das Antlitz der Erde. 4. Rde. Leipzig 1885—1909.

A. Hettner, Grundzüge der Länderkunde. I. Teil. 3. Aufl. 1925. II. Teil. Leipzig u. Berlin 1924

(2) K. Hassert, Die Vereinigten Staaten von Amerika. Tübingen 1922, S. 43—44.



## 第七節 海岸

海岸とは陸と海との接觸する部分にして、陸の縁邊であると共に海の縁邊で、陸の兩性を具有する特殊の地帯をいふ。而して一國の海岸は陸より海への門戸として又海より陸への門戸として交通に影響することによつてその勢力に甚大の影響を及ぼすのである。

さきに海洋國及び準海洋國の交通的意義は其の臨むところの海洋の交通的價値に大なる關係を有することを述べたが、其の海岸の交通的價値も之に劣らない程度の關係を有するのである。

海岸と國家との關係を考察するに當り、先づ諸種の海岸に就いて觀察しよう。

海岸はリヒトホーフ・エンズ・ゾーバン・ジュニス・ハーバートソン諸氏の研究により發生的見地より凡そ次の如く分類することが出來よう。

一、山地海岸  
 (一) 縱的海岸  
 (二) 横的海岸

二、平地海岸  
 (一) 臺地海岸  
 (二) 低地海岸

一、山地海岸 (Coast of Mountain-land) とは海岸にして其の附近に存在する主山脈の生成と深甚の關係を有するものを謂ひ、また縱的海岸及び横的海岸に分れる。

(一) 縱的海岸 (Longitudinal Coast) とはリヒトホーフ・エンズ氏やハーバートソン氏の縱的海岸と稱するものにして、海岸の走向が大體に於て其の附近にある主山脈の走向と一致平行をなすもので、臺灣の東海岸、樺太の西海岸は此の例である。此の種の海岸の最も大規模に發達してをるの南北アメリカの西側とアジア及びオーストラリアの東側とである。然しアジア及びオーストラリアの東側では海岸が二重になつて、其の一はゾーバン氏の「内岸」(Innenküste) と稱するもので現在の大陸の眞の海岸で、他の一はゾーバン氏の「外岸」(Aussenküste) と稱するもので過去の大陸の海岸であつたものである。アジアの外岸はアレウト列島から日本列島を経てフィリッピン群島に至り、オーストラリアの外岸はニューギネヤよりニューギネヤランドに至つて居る。而してオーストラリアの東側では内岸、外岸共に縱的海岸



になつてゐるが、アジヤの東側では外岸は大體に於て縦的海岸に屬してゐるけれども、内岸はオホーツク海、日本海の兩海岸に於て之を見るのである。然し要するに縦的海岸は太平洋の東西兩海岸に最も著しく發達して居る。故にジューズ氏は海岸の此の種のことを太平洋海岸標式 (Pazifischer Gestadetypus) と稱して居る。尤も此の種の海岸は唯太平洋沿岸ばかりでなく、印度洋沿岸及び大西洋沿岸にも多少發達して居る。インド洋沿岸に於けるバルマの海岸、イラン南部の海岸、大西洋沿岸に於けるスカンデナヴィヤ半島の西海岸、小アジアの北部海岸などはそれである。

而して此の縦的海岸は交通上より觀察するとき、一般に左の如き特色を持つて居る。

(1) 水平的肢節即ち半島や島嶼に乏しくして出入の少いこと、随つて灣澳の少いこと。

(2) 後背地の内部より通ずる大河少く且つ山脈によつて内地から分離せられること。

尤も例外も乏しくない。而して例外は概ね沈降海岸に見受ける。(1)の例外はノルウエーの南西海岸及びダルマチヤの西部海岸などで、ノルウエーの南西海岸には主山脈の走向に略ぼ直角に陸地に深く入り込む狭長な灣、即ち峽灣 (Fjords) が無數に存在し、ダルマチヤの西部海岸には主山脈の走向に略ぼ平行して深く陸地に入り込む狭長な灣、即ち溝灣が多數に存在するのである。(2)の例外は比較的少いけれども削平山地の縦的海岸に往々見受けるところで、アメリカ合衆國の北東海岸、オーストラリアの南東海岸は其の例である。何れも背後の山地は侵蝕作用や斷層作用による縦谷、横谷があつて内地との交通に左程の不便を與へない。

(1) 横的海岸 (Transverse Coast) とはリヒトホーフエン氏やハーバートソン氏の横的海岸と稱するものにして、海岸の走向が附近の主山脈の走向と直角又は斜角をなすものである。此の種の海岸は大西洋岸によく發達して居る。故にジューズ氏は之を大西洋海岸標式 (Atlantischer Gestadetypus) と稱してゐる。大西洋岸の中でも横的海岸は特に北大西洋岸に發達し、就中その東部に發達して居る。イスパニヤのガリツィヤの海岸、フランスのブルターニュの海岸、バルカン半島の東海岸、小



アジャの西海岸などはそれである。太平洋岸にも多少發達して居る。南部支那の東海岸朝鮮の南部及び西部海岸我が國の豊後水道及び紀伊水道の沿岸などはそれである。

此の横的海岸は交通上より見るときは縦的海岸と違つて一般に次の如き特色を持つて居る。

- (1) 水平的肢節に富んで出入の大なること、随つて灣澳の多いこと。
- (2) 後背地の内部より通ずる大河多く且つ山脈によつて内地から分離されないこと。

而して此等の特性は特に沈降海岸に最もよく現はれて居る。

さて横的海岸は概してこの二つの特色をもつてをるけれども、すべての横的海岸が必ずしももつてゐるのではない。(1)の特色だけは殆どすべての横的海岸が持つて居るといふても宜しいが、(2)の特色はさうでない。支那の南東海岸は其の例である。即ち支那の南東海岸は横的海岸に屬して出入大で随つて灣澳も多いが、略ぼ北東より南西に走る幾多の山脈(支那山脈)が海岸の背後に竝立してゐる爲

に、後背地の内部から海岸に通ずる大河少く、且つ海岸は後背地の内部から隔離せられてゐるのである。

尙縦的海岸の一種の標式とも稱すべきものがある。それはリヒトホーフエンの氏の盆地縁邊海岸(Beckenrandküsten)と稱するものである。多くの場合に於て縦的海岸は凸出せる外側に於て弓状の山脈を伴ふものであるが、凹入せる内側に於ける海岸の状態はこれと稍、趣きを異にしてをる。この凹入せる内側の海岸を盆地縁邊海岸と稱するのである。イタリヤの西海岸カムチャッカ日本本土臺灣及びルゾンなどの西海岸などは即ちこれである。而して盆地縁邊海岸は交通上より見るとき縦的海岸と横的海岸との中間的性質を有するのである。

二、平地海岸(Coast of Plain-land)とは、山地海岸に反して、山脈の走向とは何等の關係をも有しない海岸で、また臺地海岸及び低地海岸に分れる。

(一)臺地海岸(Coast of Table-land)とは、ハーバートソンの臺地海岸と稱するもので、臺地の縁邊に在る海岸を謂ひ、インド洋沿岸に最もよく發達して居る。故にインド洋岸標式とも稱すべきものである。アフリカアラビヤ及びデカンの海岸南



アメリカの東海岸の大部並にオーストラリアの西部海岸は概ね之に屬してをる。而して臺地海岸は交通上より見るときは縦的海岸に似て次の如き特色をもつてゐる。

(1) 水平的肢節に乏しくして出入の少いこと、随つて灣澳の少いこと。

(2) 後背地の内部より通ずる河流は敢て少いことはないが、河口の附近に急流瀑布の存するもの多く、且つ高臺によつて内地から分離せられてゐること。

而して此の二つの特性の中で(2)の特性は殆どすべての臺地海岸の有する特性と稱して宜しいが、(1)の特性は屢々例外を見るところで、オーストラリアの南西及び北西海岸の如きその著しいものである。

(1) 低地海岸(Coast of Low-land)とはハーバートソン氏の低地海岸といへるものにて、低地の縁邊にある海岸をいひ、交通上より見るとき、通常は次の如き特色をもつてをる。

(1) 水平的肢節に乏しくして出入の少いこと、随つて灣澳の少いこと。但し東アロシヤ・ヴェネチヤ・上ギニー・ハッテラス岬よりユカタン半島に至る北アメリカな

どの海岸の如き灣澳式沿岸には灣澳の多い場合が少くない。

(2) 後背地の内部より通ずる大河多く且つ山脈や高臺によつて内地より隔離せられることの少いこと。

以上諸種の海岸の性状に就いて略述したが、いつたい海岸の交通的價値は何によつて支配せられるかといふに、凡そ(a)海洋より接近の難易、(b)内地より接近の難易及び(c)利用する期間の長短の三項によつて規定せられるものである。而して(a)及び(b)は主として海岸そのもの、性状に關係し、(c)は主として海洋の結氷期間及び流氷の漂流期間の有無長短に關係し、海洋の結氷期間及び流氷の漂流期間は主に緯度の高低に關係するのである。故に海岸の交通に及ぼす影響は交通機關の發達と共に時代によつて變るけれども、交通的價値の大なる海岸は大體に於て低緯度若くは中緯度にある大部分の横的海岸及び一部分の縦的海岸である。されば良好な自然的海港も多く此等の海岸に存する。

さて國家は海岸の有無によつて沿海國及び内陸國に大別されるが、沿海國には



山地海岸を有するものもあれば、平地海岸を有するものもあり、また兩種の海岸を持つものもある。だが沿海國は海岸が交通の便否に影響し更に國家の勢力に影響する點から見ると、一年を通じ若くは一年の大部分に亘り内地及び外海より接近し易い開放的海岸國と、然らざる閉鎖的海岸國とに分れるのである。

開放的海岸國は低緯度若くは中緯度に在つて横的海岸を有する國家に多く見受くるところで、イギリスは此の好例である。イギリスは中緯度に在つて其の海岸は東部のフォース灣とウォン灣との間を除けば概ね横的海岸であり且つ又沈降海岸である。故に到る處に良好な自然の港灣が存し、極めて開放的である。さればヘットネル氏の如きは「海岸の開放的な點に於て世界列國の中でイギリスに優るものは恐らくあるまい。」とさへ云ふてをる。ギリシャも亦大部分横的海岸に屬して開放的海岸國に屬する。

閉鎖的海岸國は高緯度に在る國家は勿論横的海岸や平地海岸を有する國家に多くして、フランスはこの一例である。此の國の海岸は、ブルターニュの海岸を除くと、概ね平地海岸に屬して閉鎖的である。ブルターニュの海岸は横的海岸で而

も沈降海岸であるから自然の良港に富んでゐるけれども、位置の關係でフランスの主要部の出入口に利用するには困難なのである。ブラジルの如きも平地海岸に屬して閉鎖海岸國である。

開放的海岸國と閉鎖的海岸國とを國力發展上から比較して、前者が有利の地位にあつて、後者が不利の地位にあることは、英佛兩國の歴史がよく證明するところである。ヘットネル氏が、イギリス人とフランス人との海上覇權の争に於て終に前者が勝つて後者が負けたのは、イギリスの海岸が極めて開放的であるのとフランスの海岸が大部分閉鎖的であるのとに深い關係を有してゐると論じてをるのは敢て不當でないのである。

我が國はイギリスと同様に實に開放的海岸國に屬するものである。一體我が國の海岸は大體に於て太平洋方面は縦的海岸に屬し、日本海方面は盆地縁邊海岸に屬してゐるけれども、地體變動の著しい結果として到る處出入頗る多くして灣澳に富んでをる。また我が國の海岸は一部を除けば後背地との連絡も悪くはない。且つ最北部の海岸を除けば全年を通じて利用が出来る。故に我が國にあつ



ては自然の良港が到る處に存する。我が國海岸のかく開放的なことは、とりもなほさず我が國の海運が軌近大に進歩を來した一大原因であつて、又將來益々海運業を起す上に好條件を備へてゐるといふべきである。

尙同一國家にあつても海岸の状態の相違する地方は又屢々文化活動の上に大なる差異を來すことが少くない。例へばバルカン半島に於て東側及び南側は横的海岸に屬し西側は縦的海岸に屬するが爲に、古來此の地の史的活動は東側及び南側より起つたが如き、或は朝鮮半島に於て東側は縦的海岸に屬し西側及び南側は横的海岸に屬して居るが故に、由來此の地の史的活動は西側及び南側より起つたが如きものである。またアメリカ合衆國に於て西部海岸は縦的海岸に屬し、南部及び南東海岸は低地海岸に屬して非開放的であるが、北東海岸は之に反して縦的海岸であるけれども、沈降海岸に屬し出入多くして灣澳に富み且つ後背地との連絡も悪しからずして開放的であることは、早くより北東部地方が此の國の文化活動の中心となつた一原因をなすものである。またオーストラリヤに於て東南地方が文化活動の中心となつたのも、南部、西部及び北部海岸の大部分は臺地海岸

に屬し、東北海岸は前面に一帶の珊瑚礁があつて大體に於て非開放的であるに拘らず、東南海岸はアメリカ合衆國の北東海岸の様に縦約海岸であるけれども、沈降海岸に屬し、出入多くして灣澳に富み、また奥地との連絡も比較的容易であることが、其の一原因であると言はねばならぬ。

然しこゝに注意すべきことは、某國家及び某地方の發展如何をたゞ海岸の状態如何より説明せんと試みることで、かくの如き觀念は大なる謬見である。勿論國民なり民族なりの通商的及び植民的發展は其の住する地方の海岸の状態如何に大なる關係を持つては居るが、獨りそれのみ關係するものではないからである。開放的海岸國と見るべきアイルランドに於て昔から海上國民を産しないのに、閉鎖的海岸國に屬するイスパニヤに於て曾ては海上國民を出したが如き此の好例である。此の點に就いてラツツェル氏の左の評論は全部妥當とは言ひ得ないかと思ふけれども大に參考すべきものであると考へられる。氏は曰く、

「海に圍まれた陸の住民が海に信賴するの勇氣を有する場合に於て、海が其の膨脹に對して無限の機會を提供することは、歴史上他に比類ない最も明白な事



實である。小民族と小國土とは外海へ途を求めて世界統治のみちを開いた。フェニキヤ人・ヴェニス人・ジェノア人・ポルトガル人及びオランダ人の例を見よ。ブリテン世界帝國は本國に九十倍の面積と十倍の人口とを有してをる。此の如き大成果を得んためには必ずしも常に大なる海岸の屈曲を要しない。豊富に發展した海岸の大延長なくとも唯一個の海への通路、屢々唯一個の港を有するのみにて充分である。(中略)ハンザは普通の意味に於ての良港を全く有しなかつた。オランダも亦同様である。バルセロナ・ヴェニス・ピザ及びジェノアは其の海上權力を得るにあたつて初め唯一個の港より出でたのである。フェニキヤの海岸はギリシヤの海岸又は小アジアの西部海岸の非常に多様な發展に比すれば貧弱空乏な觀がある。「勤勉にして工藝に巧な航海國民を發展せしめた」其の灣曲、以前に安全な碇泊地を與へて航海的住民の居住地を附近に生じた「其の岬角、沿岸海流がエジプトよりフェニキアに船舶を送還するに反して、自らキブルス及びローブスに船舶を導く」主風、總て此等の利益と他の利益とは歴史家の吾人に語るところであるけれども、其の實決して著しいものでないことは、

其の海岸が今日航海と貿易とに對して其の價値の多くを失ふて最早如何なる航海民族をも有しないことによつて之を知ることが出来る。フェニキヤ人に次いで地中海の大航海を行つたものはカルタゴ人であるが、而も未だカルタゴの海岸を以て航海發展に甚だ便利であるといつた者のあるはこれを聞かないのである<sup>③</sup>と。

(1) F. v. Richthofen, Führer für Forschungsreise. Berlin 1901, S. 293—323.

A. Supan, Grundzüge der physischen Erdkunde. 6. Aufl. Leipzig 1921, S. 803—819.

E. Suess, Das Antlitz der Erde. II.

A. J. Herbertson, Physiographical Introduction to Geography. 3. Edit. Oxford 1918, pp. 34—40.

(2) A. Hettner, Grundzüge der Länderkunde. I. Teil. 3. Aufl. Leipzig u. Berlin 1925, S. 69.

(3) A. Hettner, Englands Weherrschaft. 4. Aufl. Leipzig u. Berlin 1928 S. 9.

(4) R. Ratzel, Anthropogeographie. I. 3. Aufl. Stuttgart 1909, S. 197—198.



### 第八節 氣候

氣候なる語はギリシヤ語のクリマ (Klima) に由來する英語のクライメイト (Climate) に當るもので、其の意義は時代により又學者により多少異つて居るけれども、こゝでいふ氣候の意味は今日氣候學上に於て用ひる普通の意味で、地球表面各部の平均天氣の謂である。平均天氣とは長期に亘つて觀測された氣象、即ち氣溫、降水、濕度、氣流及び雲量などの平均状態をいふ。而して氣候は人類の活動や天産の種類等に影響するによつて更に國家の勢力に多大の影響を及ぼすのである。

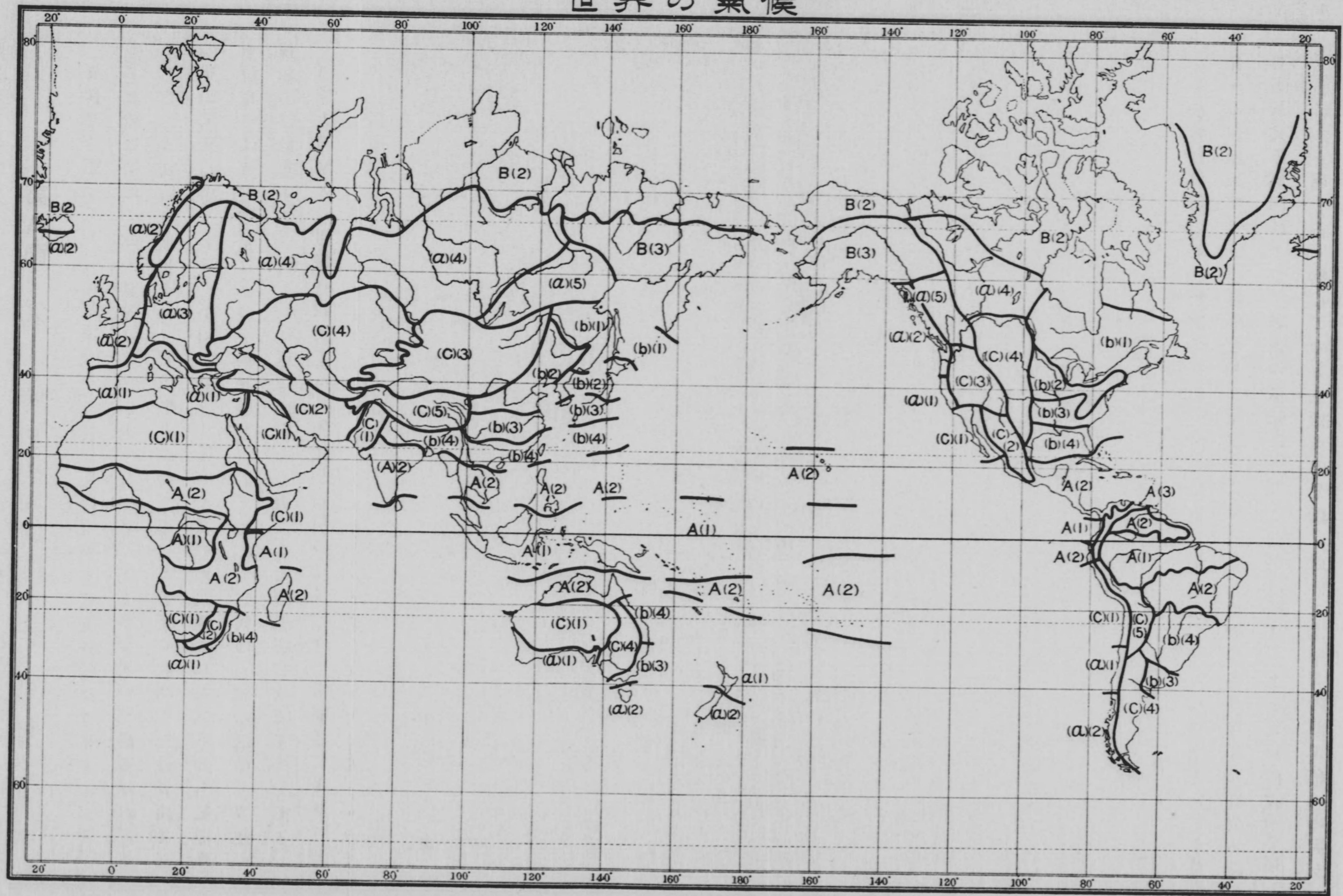
氣候と國家との關係を觀察するに先だち各種の氣候に就いて略述しよう。

抑、氣候は緯度の高低、地面の高低、水陸の配置、陸地の形狀、土地の性質、海流の状態、森林の有無及び氣中の現象などに支配せられるから、地表の各所に於て相異なるけれども、其の異同によつて若干の種類に分つことが出来る。之を氣候標式 (Climatic Type) と稱する。然しこの氣候標式の分類に就いては學者の間に色々の説があつて一定しないのである。而して世に聞ゆるものにスーバン・ケッペン・ヘット





第十一圖  
世界の氣候





ネル・フィリップソン・ハーバートソン・アンステッド・テイラー・ケンドル・ドライア  
I・ドマルトンヌ諸氏の氣候標式がある。何れも氣候的要素によつたものである。<sup>(1)</sup>  
今余は氣候の人生に及ぼす影響より見て、主として氣温と降水とに依り、前記諸  
氏の分類を参考し、氣候標式を左の如く分けようと思ふ。

A、赤道式氣候(帶)

- (1) アマゾン式氣候(區)
- (2) スダン式氣候(區)
- (3) 北アンデス式氣候(區)

B、極地式氣候(帶)

- (1) 南極大陸式氣候(區)
- (2) 北カナダ式氣候(區)
- (3) ユーコン高原式氣候(區)

C、中央式氣候(帶)

- (a) 西部沿海式氣候(帶)



- (1) 地中海式氣候(區)
  - (2) 西ヨーロッパ式氣候(區)
  - (3) 中ヨーロッパ式氣候(區)
  - (4) 中シベリヤ式氣候(區)
  - (5) プリチシニコロンビヤ式氣候(區)
- (b) 東部沿海式氣候(帶)
- (1) 東カナダ式氣候(區)
  - (2) 滿洲式氣候(區)
  - (3) 中支那式氣候(區)
  - (4) 北インド式氣候(區)
- (c) 中部内陸式氣候(帶)
- (1) サハラ式氣候(區)
  - (2) イラン式氣候(區)
  - (3) 中亞北部式氣候(區)

- (4) チュラン式氣候(區)
- (5) 中亞南部式氣候(區)

此等氣候標式の主なる特徴を挙げれば左の通りである。

A、赤道式氣候——最寒月平均氣溫約二十度以上、一年の雨量約五十糎以上、

(1) アマゾン式氣候——最寒月平均氣溫約二十四度以上、年溫幅約五度以下、一年雨量約百五十糎以上、降雨は一年を通じてあるけれども春秋の二期に多い、——南アメリカに於てアマゾン流域地方、ギアナ海岸地方、コロンビヤ海岸地方、アフリカに於て上ギニー、北部下ギニー、コンゴ地方、ザンジバル地方、アジャに於てセイロン、マラッカ半島の南部、マライ諸島、フィリッピン諸島を除く、オーストラリヤに於てバプア島及び其の東部諸島、

(2) スタン式氣候——最寒月平均氣溫約二十度乃至二十四度、一年溫幅約五度乃至十五度、一年雨量約五十糎以上、降雨は主として夏期、——アフリカに於てスタン地方、アビシニヤ高原、東アフリカ高原、アンゴラ、北部ロデーシヤ、モザンビク地方、マダガスカル、北アメリカに於て中央アメリカ、西インド諸島、南アメリカに於て北



西海岸地方、リャノス地方、ギヤナ臺地、エクワドルの海岸地方、ブラジルの東南部、アジャに於てデカン半島、インドシナの南部、フィリッピン諸島、オーストラリヤに於て北部地方、

(3) 北アンデス式氣候——一年を通じて各月平均氣温約十度乃至二十度、年温幅約五度以下、一年雨量百五十種内外、降雨は春秋の二期に多い所もあれば夏期に多い所もある(山地氣候)——コロンビヤ山地、ヴェネズエラ山地、エクワドル山地、

B、極地式氣候——最暖月平均氣温約十度以下、一年の雨量約五十種以下、

(1) 南極大陸式氣候——最暖月平均氣温約零度以下、一年雨量約二十五種以下、降雪は主として夏期、——南極地方、グリーンランドの内部及び北岸地方、

(2) 北カナダ式氣候——最暖月平均氣温約零度乃至十度、一年雨量約五十種以下、降雨は主として夏期、——北アメリカに於てカナダの北部、グリーンランドの南西及び南東海岸地方、ユーラシヤに於て其の北邊地方、

(3) ユーコン高原式氣候——氣温及び雨期は北カナダ式氣候と略ぼ同様、但し一年雨量二十五種内外(山地氣候)——北アメリカに於てユーコン高原地方、アジャ

に於て北東シベリヤ地方、

(a) 西部沿海式氣候——最寒月平均氣温約十度以下、最暖月平均氣温約十度以上、一年の雨量約二十五種以上(但し五十種以上のところが多し)、

(1) 地中海式氣候——最暖月平均氣温約二十度以上、最寒月平均氣温約零度乃至十度、一年温幅約五度乃至二十度、一年の雨量約五十種以上、降雨は主として冬期——ヨーロッパに於てイベリヤ半島、イタリヤ半島、バルカン半島の南部、アジャに於て小アジア及びシリヤの海岸地方、アフリカに於てアトラス地方、ケープ州の南西地方、北アメリカに於て北緯約四十二度及び三十三度間の海岸地方、南アメリカに於て中部チリ、オーストラリヤに於て南西及び南東地方、ニュージールランドの北島、

(2) 西ヨーロッパ式氣候——最暖月平均氣温約十度乃至二十度、最寒月平均氣温約零度乃至十度、一年温幅約十度乃至二十度、一年雨量約五十種以上、降雨は四季を通じてあるけれども殊に冬期に多い、——ヨーロッパに於てノルウェーの北西海岸からカンタブリヤ山脈に至る北西地方、北アメリカに於て北西海岸地方、南ア



メリカに於て南部チリ、オーストラリヤに於てタスマニヤ、ニュージールランドの南島、

(3) 中ヨーロッパ式氣候——最暖月平均氣溫約十六度乃至二十四度、最寒月平均氣溫約零度乃至零下五度、一年溫幅約二十度乃至二十五度、一年雨量約五十糎以上、降雨は冬期に多い處もあれば夏期に多いところもある——中部ヨーロッパ、

(4) 中シベリヤ式氣候——最暖月平均氣溫約十度乃至二十度、最寒月平均氣溫約零下五度以下、一年溫幅約二十五度以上、一年雨量約二十五糎乃至五十糎、降雨は主として夏期——ヨーロッパに於て東部地方、アジアに於て中部シベリヤ、アメリカに於て中部カナダ、

(5) ブリチシコロンビヤ式氣候——氣溫は中シベリヤ式氣候と略ぼ同じであるけれども、一年雨量二十五糎内外、雨期は冬期に多いところもあれば夏期に多いところもある(山地氣候)——アメリカに於てブリチシコロンビヤ高原、アジアに於てダイチム及びアルデン高原、

(b) 東部沿海式氣候——最寒月平均氣溫約二十度以下、最暖月平均氣溫約十度

以上、一年の雨量約二十五糎以上(但し五十糎以上のところが多い)。

(1) 東カナダ式氣候——最暖月平均氣溫約十度乃至二十度、最寒月平均氣溫約零下五度以下、一年溫幅約二十五度乃至四十度、一年雨量約五十糎以上、降雨は主として夏期——北アメリカに於て東部カナダ低地、北部アバラチャ地方、アジアに於てアムール地方、樺太千島、

(2) 滿洲式氣候——最暖月平均氣溫約二十度以上、最寒月平均氣溫約零度以下、一年溫幅約二十度乃至三十度、一年雨量約五十糎以上、降雨は主として夏期——アジアに於て滿洲及び東蒙古の大部、北部支那、北部及び中部朝鮮、北海道、本州の北部、北アメリカに於て東部アメリカ合衆國の北方地方、南部アバラチャ地方、

(3) 中支那式氣候——最暖月平均氣溫約二十度以上、最寒月平均氣溫約零度乃至十度、一年溫幅約十五度乃至二十五度、一年雨量約五十糎以上、降雨は主として夏期——アジアに於て中部支那、南部朝鮮、本州の南部、四國、九州、北アメリカに於て東部アメリカ合衆國中央地方、南アメリカに於てアルゼンチンの東部地方、オーストラリヤに於てニューサウスウェールズの東岸地方、



(4) 北インド式氣候——最暖月平均氣溫約二十度以上、最寒月平均氣溫約十度乃至二十度、一年溫幅約十度乃至二十度、一年雨量約五十糎以上、降雨は主として夏期——アジヤに於て前後兩インドの北部・南部支那・薩南諸島・沖繩諸島・小笠原諸島・臺灣・北アメリカに於て東部アメリカ合衆國の南方地方、南アメリカに於て南部ブラジル・臺地・グラン・チャコ低地、アフリカに於てナタール地方、オーストラリヤに於てクインズランドの東岸地方、

(c) 中部内陸式氣候——最寒月平均氣溫約二十度以下、最暖月平均氣溫約二十度以上、一年の雨量約五十糎以下(但し二十五糎以下のところが多い)、

(1) サハラ式氣候——最暖月平均氣溫約二十度以上、最寒月平均氣溫約十度乃至二十度、一年溫幅約十度以上、一年雨量約二十五糎以下——アフリカに於てサハラ地方・エジプト及びヌビア地方・ソマリ地方・南西地方、アジヤに於てアラビヤ地方・メソポタミヤ地方、インドの北西地方、オーストラリヤに於て西部大半、南アメリカに於てペルー・チリ・沙漠地方、北アメリカに於てカリフォルニア灣附近、

(2) イラン式氣候——最暖月平均氣溫約二十度以上、最寒月平均氣溫約十度以

下、一年溫幅約十五度以上、一年雨量約二十五糎内外、降雨は冬期のところもあれば夏期のところもある(山地氣候)——アジヤに於てイラン・小アジヤの内部・アルメニヤ・コーカサス・北アメリカに於てメキシコ高原、アフリカに於てカルー地方・ブール高原・マタベルランド・マシヨナランド、

(3) 中亞北部式氣候——最暖月平均氣溫約十度以上、最寒月平均氣溫約零度以下、一年溫幅約二十度以上、一年雨量約二十五糎内外、降雨は夏期のところもあれば冬期のところもある(山地氣候)——アジヤに於て蒙古・新疆、北アメリカに於て中部・コルデレラ地方、

(4) チュラン式氣候——最暖月平均氣溫約二十度以上、最寒月平均氣溫約零度以下、一年溫幅約二十度以上、一年雨量約二十五糎内外、降雨は冬期又は春期或は初夏——アジヤに於てチュラン地方・シベリヤの南西地方、ヨーロッパに於て南東地方、北アメリカに於て西部・ミシシッピ河域、南アメリカに於て東部・バタゴニヤ地方、オーストラリヤに於て中部低地、

(5) 中亞南部式氣候——最暖月平均氣溫約二十度以下、最寒月平均氣溫約零度



以下、一年溫幅約五度以上、一年雨量約二十五種以下、降雨は主として夏期(山地氣候)、  
— アジャに於て中アジャの南部地方、南アメリカに於てペルー及びボリヴィヤ  
山地、

次に氣候の人類の活動に及ぼす影響に就いて述べんに、赤道式氣候は常に高温多雨であるのを一大特色とし、殊にアマゾン式氣候はさうであるから赤道式氣候帶殊にアマゾン式氣候區では勞働をしようと思ふても心身が全く弛緩し、また勞働をしなくとも天恵が餘り多い故、人類の活動に刺戟を與へない。それで赤道式氣候帶殊にアマゾン式氣候區の土人は今猶自然的文化階級に止まつて居る。極地式氣候は赤道式氣候に反して常に低温少雨であるのを一大特色とし、殊に南極大陸式氣候はさうであるから極地式氣候帶殊に南極大陸式氣候區では勞働をしようと思ふても心身が全く萎縮し、また勞働をしても天恵が餘り少い爲、また人類の活動に刺戟を與へない。されば極地式氣候帶の土人も今猶自然的文化階級に止まつて居る。殊に南極大陸式氣候區には人類の居住するものすらない。然るに中央式氣候は赤道式氣候の如く常に高温多雨でなく、また極地式氣候の如く常

に低温少雨でなく季節に従つて變動するのを一大特色とする。それ故此の氣候帶では人類は生活上少くとも一年の中或時期は勞働の必要があり、また少くとも一年の中或季節は勞働に可能である。殊に沿海式氣候は雨量に富むので、この氣候帶は大體に於て生産力大で一定の勞働さへすれば生活上に餘裕を得ること容易なのである。そのため眞の開明民族は此處に發生したのである。然し内陸式氣候は雨量に乏しいので、この氣候帶は僅少の泉地を除くと概して生産力小で勞働をなしても生活上に餘裕を得ること困難である。この爲此處の土人は今猶半開的文化階級以上には達しない。之を要するに赤道式氣候、極地式氣候及び内陸式氣候は人類の活動を阻んで人類を永く小兒に止めようとする傾きを持ち、沿海式氣候は人類の活動を促して人類を早く大人に進めようとする傾きを有するのである。

尙氣候の天産の種類に及ぼす影響に就いて述べんに、いつたい天産の分布は獨り氣候のみに關係するものではないけれども、殊に植物質及び動物質天産の分布に至つては氣候に關係するところ頗る大で、此の結果各氣候區はそれぞれ又特殊



の天産を出すのである。例へばアマゾン式氣候區は護謨、カ、オ、甘蔗、米、茶、珈琲、ココ椰子、油椰子、玉蜀黍、香料、熱帶木材などを産し、北カナダ式氣候區は毛皮、羽毛、鯨油、鯨鬚などを産し、また中支那式氣候區は米、玉蜀黍、茶、煙草、樟腦、棉花、甘蔗、溫帶木材、生糸、豚、牛、羊などを産し、西ヨーロッパ式氣候區は黑麥、燕麥、大麥、小麥、馬鈴薯、甜菜、ホップ、溫帶木材、牛、羊、馬などを産するが如きものである(第十節天産參照)。

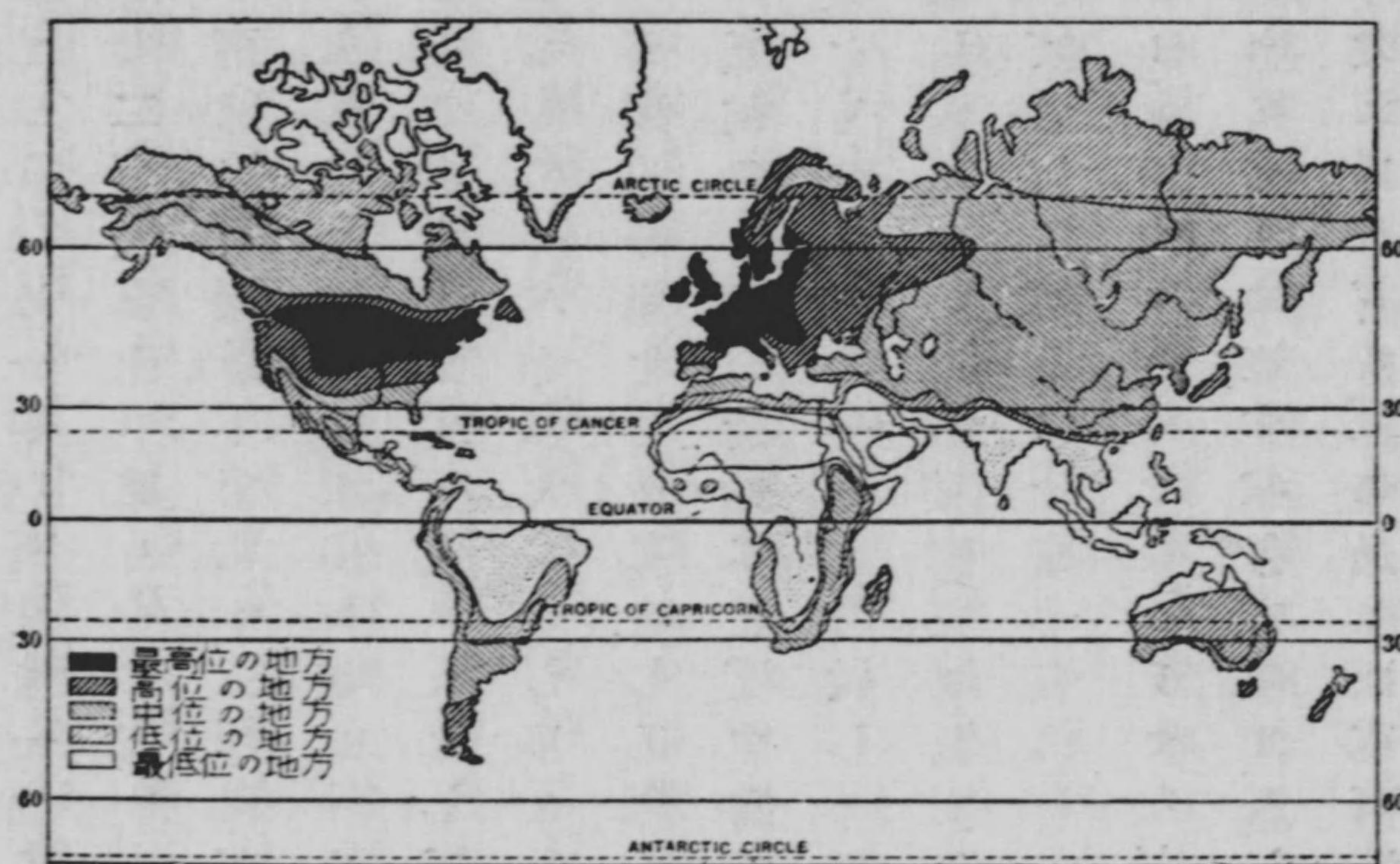
而して先づ氣候が人類の活動に影響を及ぼし更に國力に影響を及ぼす點より考察するとき、國家は人類の活動を促進する促進的氣候國と人類の活動を阻止する阻止的氣候國との二種に大別することが出來よう。

一、促進的氣候國は大體に於て東西沿海式氣候帶に位するが、イギリスは此の好例である。イギリスは西部沿海式氣候帶の西ヨーロッパ式氣候區に屬してをる。其の氣候を更に詳言すれば、七月の平均気温は概ね十三度乃至十八度で、一月の平均気温は多く三度乃至六度である。従つて一年の溫幅は甚だ小である。降雨は一年を通じてある。けれども偏西風の強い秋期及び冬期に特に多い。雨期が全

年に亘つてゐるため一年の雨量は一般に多く、殊に偏西風の衝に當る西部地方は百種以上で二百種以上の處も少くない。但しスコットランドの東部及びイングランドの南部は百種以下で六十五種以下のところも少くない。之を要するにイギリスの氣候は所によつて多少違ふけれども最も代表的な海洋性氣候である。イギリスのこの氣候は、イギリス人をして、地中海式氣候區の南ヨーロッパ人よりも更に衣食住の要求を多大ならしめ、又中シベリヤ式氣候區の北ヨーロッパ人よりも更に不斷の勞働を可能ならしめ、以て活動的たらしめるのである。ハンチントン氏が氣候の人類の活動に及ぼす點からみてイギリスを世界に於て最も理想的な氣候をもつ地方の一部と看做してゐるのは敢て不當でないと考へられる。第十二圖は人類の精力が氣候(気温、湿度及び天氣の變化等)のみによつて支配されるとすれば如何に地表に分布せられるかを示したるものである。而してフランス、ベルギー、オランダ、ドイツ、イタリアなども促進的氣候國に屬する。アメリカ合衆國の如きも亦之に算すべきもので、蓋し此の國は中部内陸式氣候帶に屬する部分が少ないけれども、其の過半は東西沿海式氣候帶に屬するからである。



第十二圖



氣候的勢力の分布 (Huntington)

二、阻止的氣候國は大體に於て赤道式氣候帶、極地式氣候帶、内陸式氣候帶に位し、ニカラグア、ベネズエラ、コロンビヤ、ハイチ、サント・ドミンゴ、アイスランド、アフガニスタンなどはそれである。

以上二種の國家を比較して國力發展上促進的氣候國が有利で阻止的氣候國が不利であることは、現今有力な國家はすべて前者に屬し、後者に屬するものは萎靡不振はない事實によつても知ることが出来る。而して歴史を見ると、促進的氣候國はすべて有力

な國家ではないけれども、有力な國家は殆どすべて促進的氣候國に屬して居る。尤も阻止的氣候國の中にも有力な國家の全然起らないことはなかつた。エジプト、バビロニア、アズテク、インカなどはそれであるが、然し前の二國は泉地に起り、後の二國は高地に起つたもので、何れも純粹の阻止的氣候國には屬しないのである。次に氣候が天産の種類に影響することによつて更に國力に影響する點より觀察するとき、國家は單一の氣候區に在る單一の氣候國と二個以上の氣候區に跨る複合的氣候國とに大別することが出来る。

一、單一の氣候國はオランダ、ベルシャ、リベリヤの如きもので、蓋しオランダは西ヨーロッパ式氣候區に存し、ベルシャはイラン式氣候區に、リベリヤはアマゾン式氣候區に存するのである。ポルトガル、ハイチ、イラク、サント・ドミンゴなども此の種の國である。

二、複合的氣候國はアメリカ合衆國、オーストラリア、チリの如きもので、蓋しアメリカ合衆國は地中海式氣候區、西ヨーロッパ式氣候區、東カナダ式氣候區、滿洲式氣候區、中支那式氣候區、北インド式氣候區、サハラ式氣候區、イラン式氣候區、中亞



北部式氣候區、チユラン式氣候區等に跨り、オーストラリヤ聯邦はスタン式氣候區、地中海式氣候區、西ヨーロッパ式氣候區、中支那式氣候區、北インド式氣候區、サハラ式氣候區、チユラン式氣候區等に、チリは西ヨーロッパ式氣候區、地中海式氣候區、サハラ式氣候區等に跨るのである。支那アルゼンチンフランスロシアなども此の種の國である。

單一的氣候國と複合的氣候國とを比較するに、氣候が前者に於ては生産活動を單調ならしめ、後者に於ては之を多様ならしむるから、國力發展上後者が有利であることは無論である。

されば氣候の國力に及ぼす影響からいへば、國家はアメリカ合衆國の様に促進的氣候國であると共に複合的氣候國であるものが宜しい。アメリカ合衆國隆盛の一大原因は實に其の氣候が促進的であると共に多種的であるところに存する。之に反して阻止的氣候國であると共に單一的氣候國である國は最も宜しくない。リベリヤ國は此の一例で、此の國の不振は其の氣候が阻止的であると共に單一的であることに大なる關係を有するのである。

ところで我が本土は全然東部沿海式氣候帯に屬する。故に全土が國民の活動に適合する。我が國民が文化階級上優越の地位に進むを得たのは全く氣候の此の状態に基因するものである。

しかのみならず、我が本土は東カナダ式氣候區(千島)、滿洲式氣候區(北海道本州北部)、中支那式氣候區(本州南部四國九州及び北インド式氣候區)、薩南諸島、沖繩諸島、小笠原諸島)に跨る計りでなく、西方にはアジャ大陸を控へ、東方は太平洋によつて洗はれ、且つ暖流は北上し寒流は南下し、また地貌の變化に富むこと大であるから、同一氣候區にあつても氣候は一様でなく、滿洲式氣候區及び中支那式氣候區に屬する地方は、何れも更に海洋性氣候で夏季に降水の多い表日本氣候區、海洋性氣候で冬季に降水の多い裏日本氣候區、稍大陸性氣候で降水の少い中日本氣候區に分れる。我が本土は斯様に多様の氣候區に跨るので、面積の狭少であるに關らず多種の天産を産するのである。我が國が明治維新前まで兎に角自給自足であるを得たのは大に氣候の此の状態に關係するのである。

(1) A. Supan, Grundzüge der physischen Erdkunde. 6. Aufl. Leipzig 1921, S. 55—260.



- W. Köppen, Die Klimate der Erde. Berlin u. Leipzig 1923.  
A. Hettner, Die Klimate der Erde. Leipzig u. Berlin 1930.  
A. Philippson, Grundzüge der allgemeinen Geographie. 1. 2. Aufl. Leipzig 1929, S. 86—247.  
J. F. Unstead and E. G. R. Taylor, A General and Regional Geography. 9. Edit. London 1926.  
W. G. Kendrew, The Climate of the Continents. Oxford 1922.  
C. R. Dryer, High School Geography. 2. Edit. New York. 1920.  
E. de Martonne, A Shorter Physical Geography. New York 1927, pp. 24—82.  
(2) E. Huntington, Civilization and Climate. Yale 1915, p. 131.  
E. Huntington and Cushing, Principles of Human Geography. New York 1921, p. 254

## 第九節 河 湖

一國の河湖は主として交通の難易に影響し、又ひいて國民の團結に影響し、以て其の勢力に大なる影響を及ぼすのである。

河湖と國家との關係を觀察するに當り、先づ河湖的事項に就いて略述しよう。いつたい或地方の交通に影響を及ぼす河湖的事項なるものは色々あるが、大別すれば數的事項及び質的事項の二つとなる。

一、數的事項とは河湖そのものの多少を謂ひ、これは地貌殊に雨量の分布に關係するのである。例へば雨量の多い東西沿海式氣候帯及び赤道式氣候帯に河湖多く、之に反して雨量の少い中部内陸式氣候帯にその少きが如きものである。

二、質的事項とは河湖の性状如何の謂で、更に若干の事項に分れる。以下主として河川の性状に關して述べることにする。

(一)速度の緩急、河川の交通的價値は大に水流の速度に關係するもので、水流は緩なるのが宜しい。而して水流の速度は主に地貌に支配せられ、概言すれば山地



の河川は價值小で、平地の河川は價值大である。北アメリカの西部山地のコロンビヤ河及びコロラド河などは前者の例で、南アメリカ中部低地のアマゾン河及びバラグワイ河などは後者の例である。但し平地の河川でも臺地に屬する河川は急流瀑布を有するものが多く、これがため交通的價值を減ずることが少くない。アフリカの河川は即ち是で、コンゴ河を始めとしナイル河及びザンベジ河などいづれもさうである。アフリカ大陸と同一の地貌を有するデカン臺地やブラジル臺地などの河川も亦アフリカの河川と同様な缺點を持つて居る。

(二) 延長及び流域の大小、河川の延長及び流域の大小は又その交通的價值を支配するもので、言ふ迄もなく延長及び流域の大なる河川は其の小なる河川よりも交通的價值大である。而して河川の延長及び流域の大小は主として之を容れる土地の面積の大小と其の位置する土地の氣候の乾濕とに關係するもので、大河のアメリカやアジアに多くあつてヨーロッパやオーストラリアに少きが如き、またその東西沿海式氣候帯や赤道式氣候帯に多くあつて中部内陸式氣候帯に少きが如きものである。

(三) 幅員及び深度の大小、河川の幅員及び深度の大小は又大に其の交通的價值を支配するもので、而して幅員及び深度は大であるのが宜しい。而して幅員及び深度は地貌や降水状態に關係するところ頗る大で、此の點より見るとき、東西沿海式氣候帯及び赤道式氣候帯に屬する平地の河川は一般に幅員及び深度の大なるものが多く、楊子江・アマゾン河などは此の例である。之に反して中部内陸式氣候帯に屬する山地の河川は通常幅員及び深度共に小である。

(四) 水量變化の多少、また河川はなるべく水量變化の少いのが宜しい。而して水量の變化は水源の狀態に支配されるもので、水源地方に大なる密林の繁茂せるか又は大なる湖水の存在せる場合は、水量の變化は之に調節せられて小である。朝鮮の河川の多くが乾燥期と降雨期とに於て水量に多大の差異をみるのは水源地方に大なる湖沼もなければ大なる密林もないことに大に關係してゐるのである。また水量の變化は降水の狀態に支配せられて、乾燥期と降雨期とを有する地方の河川は通常水量に大なる變化を來すのである。地中海式、スタン式及びモン・ストーン式氣候區の河川は概してそれで、例へば南ヨーロッパ・デカン半島及び支那



の河川の如きものである。故に此等地方の河川で舟楫の便を與へるのは特に降雨期である。即ち地中海式氣候區の河川は冬期で、スタン式及びモンズン式氣候區の河川は夏期である。之に反して西ヨーロッパ式、中ヨーロッパ式及び中シベリヤ式氣候區殊にアマゾン式氣候區の河川は、一年を通じて水量に左程大なる變化を來さぬのである。例へばイギリス、ロシア、シベリヤ及び南アメリカ中部の河川の如きものである。これはつまり此等の地方は一年を通じて雨量に餘り大なる變化を見ないからである。されば此等の地方の河川は多く水量變化のため或期間舟楫の便を與へないと云ふことはない。特にアマゾン河やコンゴ河の如きアマゾン式氣候區の河川はさうである。何故ならば此等の河川は南北兩半球に跨つて居るから、一方の半球が乾燥期に屬して居ても他方の半球は降雨期に屬して居るので、一年間殆ど水量の變化をみないからである。

(五) 結氷期間の長短、河湖の交通的價値は又その結氷期間の長短によつて大に支配せられるのである。而して河湖の結氷期間は主として氣温の状態によつて支配せられるもので、此の點より見るととき極地式氣候帶の河湖は勿論のこと、中シ

ベリヤ式東カナダ式及び滿洲式氣候區の河湖は、結氷期間の長きに亘るため大に其の交通的價値を減ずるのである。カナダ、ロシア及びシベリヤなどの河湖は何れもそれである。

(六) 河口の位置、又河川の交通的價値は其の出口の位置によつて大に支配せられるのである。此の點よりみるとときシベリヤ及びカナダの河川の如き極地式氣候帶に位置する海洋に注ぐ河川は、價値甚だ小で、僅に地方的交通の價値しかもないものが多い。出口のない内陸海に注入するアム河やシル河の如き河川も亦同様である。かのヴォルガ河の如き内陸交通には大なる價値を有して居るけれども、カスピ海に注入せるが爲に世界交通上には殆ど意義を有しない。之に反して世界交通的意義を有する海洋に注ぐ河川は價値大で、ライン河や揚子江は此の例である。

(七) 方向の状態、本流及び支流の方向も亦大に河川の價値を左右するものである。此の見地に立つ時本流が互に平行に走り其の支流が本流に直角に流れるのが宜しい。何故なれば本流及び支流の方向がかかる場合には河川交通の範圍が



廣大となり、且つ一方の流域と他地方の流域との連絡も容易であるからである。シベリヤの河川は此の種のものに屬する。シベリヤにはレナ・エニセイ・オブ及び黒龍江の四大河を始めとして幾多の大河があり、此等の諸河は概ね冬期に結氷するの缺點を有して居るが上に、河口の位置も良好でないけれども、流勢の緩で水量の豊である外、本流は略ぼ平行し且つ支流は本流に多く直角をなして居る。夫がため必要に應じ河道を浚深し又運河を開鑿すれば、相互の間を容易に連結するを得るのである。現に諸河の間に處々に人工による此の種の連絡がある。例へばオブ・エニセイ兩河系間の運河の如きものである。かくてシベリヤは南北の間は勿論の事東西の間にも水路が一貫して居ると稱して宜しい。かのコサツクの酋長エルマツクが第十六世紀の末葉、東方遠征を企て、から僅に六十年にたらざる年月を以て、ロシヤがシベリヤを征服し得た一大原因はこゝに存すると思はれる。

(八)分水界の状態、分水界の高度及び幅員も亦少からず河川の交通的價値に影響を與へるもので、而して分水界はなるべく低くて狭いとを以て理想とする。即ち分水界が低くて狭ければ分水界を隔て、相對する河川は容易に之を連結する

ことが出来るからである。フランスの河川は之が好例である。而して平地に於ては往々二つの相對河系が分水界の低狹なるために天然に連絡して居ることがある。かゝる河川は交通上の價値大なるものといはねばならない。其の例で最も有名なるは南アメリカのアマゾン・オリノコの兩河であつて、前者は其の支流リオリネグロを以て後者は其の支流カッシキアレを以て互に結びついて居る。

之を要するに交通上或地方の河湖によつて受ける影響は根本的に地貌殊に氣候に深甚の關係を有するのである。

而して國家は河湖が交通の難易に影響し、又ひいて國民の結合に影響し、更に其の勢力に影響する點から見ると、有河湖國と無河湖國とに大別するを得るけれども、今日獨立國にして一つの河湖をも有しないものはサハラ式氣候區に位するカタル・コワイトなどの如き一二の國に過ぎない。國家の大多數は有河湖國に屬するが、然し氣候や地貌の差異により、有河湖國の河湖によつて受ける影響は國により大に違つてをる。而してオーストラリヤやインドの如きは河湖による交通



的利益の甚だしい方である。

オーストラリヤは氣候上大部分が中部内陸式氣候帯に屬してゐると地勢が中凹状であるによつて、交通的價値を有する河川は殆どないと稱して宜しい。この地方の河川は太平洋系、インド洋系及び内陸系に分れるが、太平洋系の河川は北インド式及び中支那式氣候區に屬するが故に、水量は少くないけれども、地貌の關係上延長短くして且つ水流急である。インド洋系の河川は北部のものはスタン式氣候區に屬し南部のものは地中海式氣候區に屬してゐるけれども、延長短かくして水量少く、内陸系の河川はサハラ式氣候區に屬するから尙更さうである。オーストラリヤで交通上稍重要であるのは東部のオーストラリヤ山脈に發して印度洋に注ぐところのマルレー及び其の支流ダーリング位である。然しこれとてもチュラン式氣候區にあつて水量少く交通路として利用せられるのはたゞ兩期位のものである。また内部にエーア湖、トールン湖などの鹹湖があるけれども、湖といふより寧ろ沼といふべきもので、何等舟楫の便を與へない。要するにオーストラリヤの河湖によつて受ける交通上の便宜は殆どないと稱して宜しい。故

に鐵道布設以前に於ける内陸交通は擔夫交通若くは馱獸交通による外は無かつたのである。オーストラリヤの國土の開発及び國民の統一が鐵道の布設と大なる關係を有すのは決して故ないことではない。

またインドは北インド式氣候區、スタン式氣候區等に屬してゐるので河川は少くないけれども、此の地の河川は一般に乾濕兩期に水量變化の大なると急流瀑布の多いとによつて交通に便利を與へるものは甚だ少い。ガンガでもインヅスでも普通世人の考へる程交通上に便宜を與へない。されば鐵道布設以前に於ける國內交通は主として道路によつたものである。インドの河川の交通的價値の甚だ小なることは、此の國の民族的及び宗教的不統一の根本的原因とはいへないけれども、之を甚だしくした消極的原因であるとはいへよう。若しインドの河川にして國內の交通に多大の便利を與へたならば、その民族的及び宗教的不統一は、恐らく今日の如く甚だしくはないに相違ないと信じられる。其の證據は鐵道の發達と共に人民の往來も頻繁となり、之に伴つて民族的及び宗教的の反目が次第に薄くなつて來た事實によつて窺知することが出来る。インドに於てイギリス人



の鐵道布設と共に、旅行と巡禮とは普遍的のものとなつた。一九一三年の統計の示すところによれば、鐵道を利用せる旅客の數は約四億四千萬に達してをる。この内ヨーロッパ人の數は極めて少い。かくしてインド人は其の精神的水平線を廣め國民的自覺に進みつゝある。とはドマンジエオン氏の説述せる所である。<sup>(1)</sup> 尙ベルシャ・アフガニスタン・メキシコなども河湖による交通的利益の甚だ少い國である。

オーストラリアやインドに反してヨーロッパロシアやイギリスは河湖による交通的利益の甚だ多い方である。

ヨーロッパロシアは大體に於て多雨地帯に位すると面積の大なるにより、河湖に富み、世界に於て最も大なる可航水路を有する國の一つである。此の國は中シベリヤ式氣候區の西部にあつて且つ地貌が極めて平坦であるから、其の河川は概して延長、流域、幅員、水深及び水量などの點に於て實に宜しい。なほ又河川の分布が分水界ワルダイ岡を中心とし放射狀をなし、而も分水界は甚だ低狹であるから、河系相互の連絡は運河其の他の方法によつて極めて容易である。結氷期間の

長いのと河口の位置の宜くないのとは此の國河川の大なる缺點であるけれども、之に關らず東部と西部との間及び南部と北部との間の交通に河川は大なる効果を與へ、地貌の平坦と相俟つて國民の結合に少からざる好影響を及ぼすのである。

イギリスは西ヨーロッパ式氣候區に位してゐるから河川は多いけれども、面積が狭少なる上分水界が略ぼ中央にあつて南北に走つてをるから、ロシアに見る様な延長や流域の大なるものはない。この國最大の河川であるテムス河ですら延長約三百六十軒、流域約一萬六千方軒に過ぎない。けれどもイギリスの河川は氣候や地貌の關係から一般に次の如き特色をもつてをる。

- (1) 水量が一年を通じて豊富であること。
- (2) 水量が季節により餘り變らぬこと。
- (3) 水流が極めて緩かであること。
- (4) 一年を通じ殆ど結氷の患のないこと。
- (5) すべての河川が外海に注げること。
- (6) 分水界の低いこと、従つて主要河川の間に運河の連絡が容易に出来ること。



かゝる理由からイギリスの河川は内外の交通に大なる便利を與へるのである。またドイツ・フランス・アメリカ合衆國なども交通上河湖によつて受ける恩惠の甚だ大なる國である。

我が國は東部沿海式氣候帯に位するが故に、河湖に富んでゐるけれども、山岳が多くて平野に乏しいから、勿論大なるものはない。河床の如きも傾斜急で、隨つて交通的價値の大なる河川に乏しい。僅に小蒸汽船の通ずる河川すら本土に於ては石狩川、北上川、那珂川、利根川、荒川、信濃川、淀川及び筑後川、臺灣に於ては淡水河、朝鮮に於ては鴨綠江、大同江及び漢江などのあるに過ぎない。かくの如く我が國の河川は本土にあると植民地にあるとを問はず主として地形の關係上交通の便を與ふるものは實に少い。それで河川によつて我が國の交通上受ける恩惠は到底イギリスやロシアなどに比較することは出来ない。然し我が國の河川は灌漑及び養殖などに於て利益を與ふるところは少くない。また水力の利用に都合のよいことは注意すべきことである。

(1) A. Demangeon, The British Empire, London 1925, p. 237.

## 第十節 天 産

天産とは天然に出づる産物の謂で、即ち三界の産物をいふ。而して天産はいふまでもなく吾人の生活資料として一日も缺くべからざるものなるが故に、其の多少は吾人の生活の難易を意味する。従つて國家は天産により其の勢力に甚大の影響を受けることとなるのである。

天産と國家との關係を考察するに先だち、先づ世界經濟上重要な意義を有する若干の天産の分布に就いて簡叙しよう。

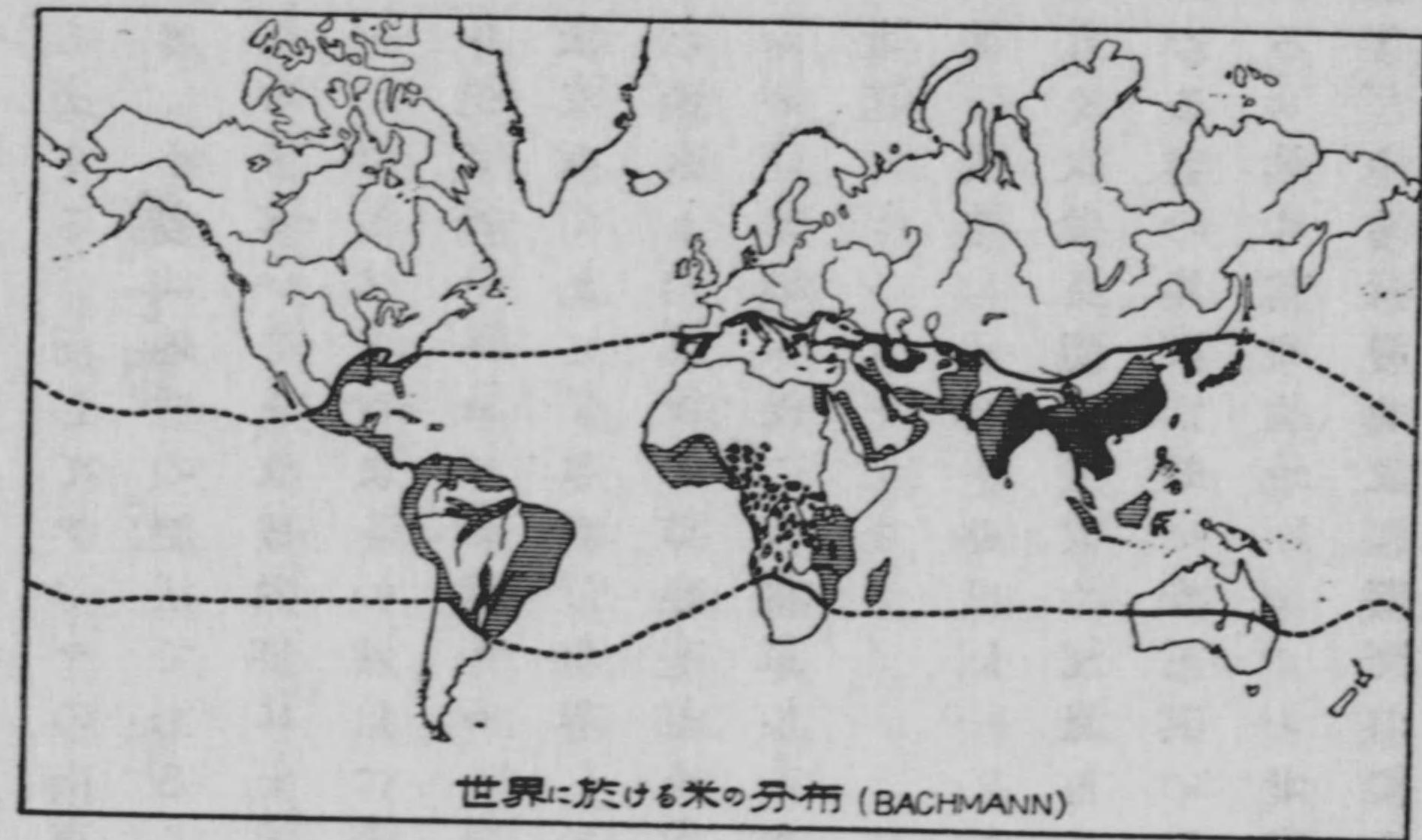
### 一、植物質天産

#### (一) 食料用品

1、米、米は生長期に高度の氣温と多量の水濕とを要し、また成熟期に氣温の非常に高いことの外に日射の甚だ強いことを要し、且つ土壤の肥えて軟いのを好むのである。故に其の栽培は北インド式、中支那式、スダン式、アマゾン式及び滿洲式氣候區などの沖積層地並に灌漑の便あるサハラ式及び地中海式氣候區の沖積層



第十三圖



世界に於ける米の分布 (BACHMANN)

第十四圖



世界に於ける小麦の分布 (Finch and Baker)

地に最も適する。而してアジャの南東地方は古來米の重要産地である。

2、小麦、小麦は地味の肥沃であることの外、生長期に気温の餘り低くないこと、降水の可なり多いこと、又成熟期に気温の大に高いこと、降水の餘り多くないこととを好むのである。故にその栽培に最も適するのは大體に於てチュラン式、イラン式、地中海式、西ヨーロッパ式、中ヨーロッパ式及び滿洲式氣候區などに屬して地味の肥沃な處である。されば世界に於ける小麦の重要産地はホンガリヤ、南部ロシア及び西部シベリヤの草原北部支那の草原北アメリカのプレーリー、南アメリカのバンパイスパニヤの内部草原南米及びオーストラリヤの内部草原北西ヨーロッパ、北西インドなどである。

3、大麥、大麥は小麦と略ぼ同一の性質を有するから、中央式氣候帶に屬し餘り乾燥でなく又餘り濕潤でなくて地味の肥沃な地方に好適するが、然し小麦よりも生長及び成熟の期間が短いから、其の栽培地域は小麦の夫より遙に廣い。而して北アメリカの中部地方、ヨーロッパ北部インドなどは其の重要産地である。

4、燕麥、燕麥は夏期に溫暖で且つ濕潤である氣候を好むから、其の主要栽培地



第十五圖



世界に於ける大麥の分布 (Finch and Baker)

第十六圖



世界に於ける燕麥の分布 (Finch and Baker)

域は大體に於て西ヨーロッパ式、中ヨーロッパ式、中シベリヤ式、東カナダ式及び滿洲式氣候區等である。然し其の栽培は中支那式及び地中海式氣候區にも可なり適する。而して燕麥の重要産地はヨーロッパ北アメリカの中部等である。

5、黑麥、黑麥は燕麥と略ぼ同様の性質を好むから、其の栽培地域も大體に於て燕麥のそれと同じである。

6、玉蜀黍、此の穀物は生長期に於て氣溫の大に高いのと降水の多いのを好み、また成熟期に於て氣溫の大に高いのと日射の強いのを要し、大體に於て生長期及び成熟期に必要な溫度、水濕及び日射の程度は、小麥と米との中間に位するのである。従つて其の主要栽培地域は滿洲式、中支那式及び中ヨーロッパ式氣候區の地味の肥沃なところであるけれども、此作物は北インド式、スダン式、アマゾン式及び地中海式氣候區等にも可なり産する。而して玉蜀黍の重要産地はアメリカ合衆國東部、南東ヨーロッパ、アルゼンチンの東部等である。

7、馬鈴薯、馬鈴薯は溫和で水濕の餘り多くない地方に最もよく適合し、暑濕な地方は之を忌むのである。故に大體に於て西ヨーロッパ式、中ヨーロッパ式、中シ



第十九圖



世界に於ける甘蔗及び甜菜の分布 (Finch and Baker)

ベリヤ式、東カナダ式及び  
 滿洲式氣候區で水濕の餘  
 り多くない地方に栽培せ  
 られるのである。而して  
 ヨーロッパ・アメリカ合衆  
 國の東北部は其の主要産  
 地になつてをる。

(二)嗜好用品

1. 甘蔗、甘蔗は殊に成  
 熟期に於いて氣温の大に  
 高いこと、温幅のなるべく  
 小なること、生長期に水濕  
 の多いこと、成熟期に水濕  
 の少いことなどを好むか

第十七圖



世界に於ける玉蜀黍の分布 (Finch and Baker)

第十八圖



世界に於ける馬鈴薯の分布 (Finch and Baker)



ら、降雨期及び乾燥期を有する北インド式、スダン式、アマゾン式及び中支那式氣候區に屬する島嶼及び海岸を以て主な栽培地とする譯で、また事實上これが栽培は此等の地方に於いて最も盛んである。サハラ式氣候區にあつても人工による灌溉の便ある處では、甘蔗の栽培は又能く行はれ、地中海式氣候區に於ても同様である。

2、甜菜、甜菜は其の性質氣溫の餘り高くないと共に餘り低くないこと、生長期に於て降雨の可なりにあること、成熟期に於てなるべく水濕の少いこと、地味の大に肥沃なることなどを好むが故に、これが栽培は西ヨーロッパ式、中ヨーロッパ式及び滿洲式氣候區に屬して地味の肥沃な地方に最もよく適し、また地中海式、チュラン式及びイラン式氣候區の地味肥沃で灌溉の便ある地方にも亦適する。而して甜菜の主要産地はアルプス以北のヨーロッパ・アメリカ合衆國の北東地方に屬する。

3、茶、茶樹は夏期に氣溫の大に高くまた降雨の多大であることを好むが、然し餘り濕潤な土質は之を嫌ふから、其の栽培は大體に於て中支那式、北インド式、スダ

第二十圖



世界に於ける煙草の分布 (Finch and Baker)

ン式及びアマゾン式氣候區に屬して排水の良い地方に最もよく適して居る。而して南東アジアは茶の最大産地に屬する。

4、珈琲、珈琲樹は其の性質溫濕の大で溫幅の小なる氣候を好むが故に、其の栽培は大體に於て赤道式氣候帶に最もよく適するのである。

5、カ、オ、カ、オ樹は其の性質氣溫の高いこと、溫幅の小なること、降雨の



多いこと、雨量の變らぬこと、地味の肥沃なることなどを好むが故に、其の栽培の盛んに行はれるのは赤道式氣候帶殊にアマゾン式氣候區の島嶼若くは海岸で地味の肥沃な地方である。

6、煙草、煙草は元來馴化力の大きなものであるから、今日各地に於て栽培せられるけれども、氣温の大に高く而かも生長期に降雨多くして成熟期にその少い氣候を好むから、その栽培に適するのは大體に於てスダン式、北インド式及び中支那式氣候區である。また此の作物は地中海式氣候區にも適する。故に良質の煙草の多量に産するのは、此等の氣候區に屬して地味の肥沃な地方である。

(三)原料用品

1、棉花、棉花は暖熱な氣候を好むが故に、其の栽培は凡そ北緯四十度及び南緯三十度間の地方である。尙棉花は生長期に於て多量の水濕を要し、また成熟期に於て充分な乾燥を好む故、其の主要産地は北インド式、中支那式及びスダン式氣候區に屬する。またサハラ式、地中海式及びビチュラン式氣候區に於ても灌漑の便あるところでは棉花の栽培は宜しいのである。

第二十一圖



世界に於ける棉花の分布 (Finch and Baker)

2、亞麻、亞麻は冷和にして濕潤な氣候を愛するが故に、特に西ヨーロッパ式、中ヨーロッパ式及び中シベリヤ式氣候區に適する。西部、中部及び東部ヨーロッパは其の主要産地である。

3、護謨、護謨を供給する植物は多數あつて、其の性質は植物によつて多少違つてゐるけれども、大體に於て暑濕氣候を好むから、北インド式及びスダン



式氣候區殊にアマゾン式氣候區を以て其の主要産地とする。

4、椰子、椰子も種類の非常に多いものであるが、世界經濟上最も重要なものはココ椰子とアブラ椰子とである。而してココ、椰子は暑濕にして温幅の小なる氣候を好む故、アマゾン式、スタン式及び北インド式氣候區の島嶼及び海岸を以て其の主要産地とする。油椰子は其の性質ココ、椰子に似て居るが、特にアマゾン式氣候區を以て主要産地とし、アフリカに於ける此の氣候區は其の重要産地である。

5、木材、木材の生産は主として氣温及び降水に支配せられるもので、温帯木材(櫛、落葉松、椴松、蝦夷松、榆、松、樟、山毛櫸、赤松、檜、白楊、樺等)は西ヨーロッパ式、中ヨーロッパ式、中シベリヤ式、東カナダ式、滿洲式及び中支那式氣候區を以て主要産地とし、熱帯木材(チーク、マホガニー、黒檀、白檀、紫檀等)はアマゾン式氣候區並にスタン式及び北インド式氣候區の一部を以て主要産地とするのである。

二、動物質天産

(一)食料用品

1、牛、牛は直接及び間接に氣候に支配せられること大であるが、其の飼養にも

第二十二圖



世界に於ける牛の分布 (Finch and Baker)

第二十三圖



世界に於ける豚の分布 (Finch and Baker)



つとも宜しいのは大體に於いて良好な飼草に富んでゐる東西沿海式氣候帶である。赤道式氣候帶でもスダン式氣候區は牛の飼養に適しないではないけれども、アマゾン式氣候區は餘りに暑濕で病に罹り易いのと害虫の恐れのあるのとの爲に之に適しないのである。而して牛の主要産地は大體にいへばヨーロッパ殊に北西ヨーロッパ・アメリカ合衆國の東部・インド・ラブラタ流域地方・南部ブラジル等である。

2、豚、豚の飼養は水濕の多い地方に最も適し、東西沿海式氣候帶殊に中シベリヤ式氣候區の一部、西ヨーロッパ式、中ヨーロッパ式、東カナダ式、滿洲式、中支那式及び北インド式氣候區が最も宜しい。赤道式氣候帶も本來は豚の飼養に適してゐるけれども、今日その飼養は僅に海岸地方に限られてゐる。而して豚の主要産地は大體に於てヨーロッパ・中部北米の東部・南東アジア等である。

3、羊、羊は比較的廣く飼養せられるけれども、本來溫暖で餘り濕潤でない土地を好むから、地中海式、チユラン式及びイラン式氣候區に最も適し、尙西ヨーロッパ式及び滿洲式氣候區にも可なり適するのである。アマゾン式、スダン式、北インド

第二十四圖



世界に於ける羊の分布 (Finch and Baker)

式及び中支那式氣候區などにも飼養されては居るが、此等の地方では優良の羊を得ることが出来ない。

4、水族、有用水族には河湖に棲息するものと海洋に棲息するものがあるが、世界經濟上重要であるのは後者で、鯨、鯨、鯨、鯨、鯨等である。而して有用水族は勿論深海にもゐるけれども、其の豊富であるのは淺海即ち大陸棚と稱せられる海の部分である。



第二十五圖



世界に於ける漁場の分布 (Reinhard)

而して大陸棚にあつても  
 洲の存在するところ、殊に  
 暖流と寒流との衝突する  
 ところや、鹽分を多く含む  
 水と少く含む水との混和  
 するところに於て魚類は  
 最も豊富である。従つて  
 世界に著名な漁場もかく  
 の如きところに存する。  
 ヨーロッパの北西海岸地  
 方、北アメリカの北東海岸  
 地方、北アメリカの北西海  
 岸地方、東アジアの北東海  
 岸地方の外、オーストララ

シヤ地中海・太平洋諸島の附近・アメリカ地中海・本來の地中海・オーストラリアの南  
 東海岸及びニュージーランドの近海・南アメリカの南西海岸・ベンガル灣沿岸・マダ  
 ガスカル附近等も有名な漁場である。

(二)原料用品

1、羊毛、羊毛の生産地域は述べるまでもなく大體に於て羊の生産地域と一致  
 する。

2、生糸、生糸の生産は家蠶及び桑樹の生育に支配せられ、家蠶及び桑樹は温暖  
 濕潤な氣候を好む故、生糸の主要産地は滿洲式、中支那式、北インド式及び地中海式  
 氣候區である。然し養蠶業は赤道式氣候帯には適しない様である。スダン式氣  
 候區に於ては多少の成功を見るけれどもアマゾン式氣候區では殆ど全く成功を  
 見ない。

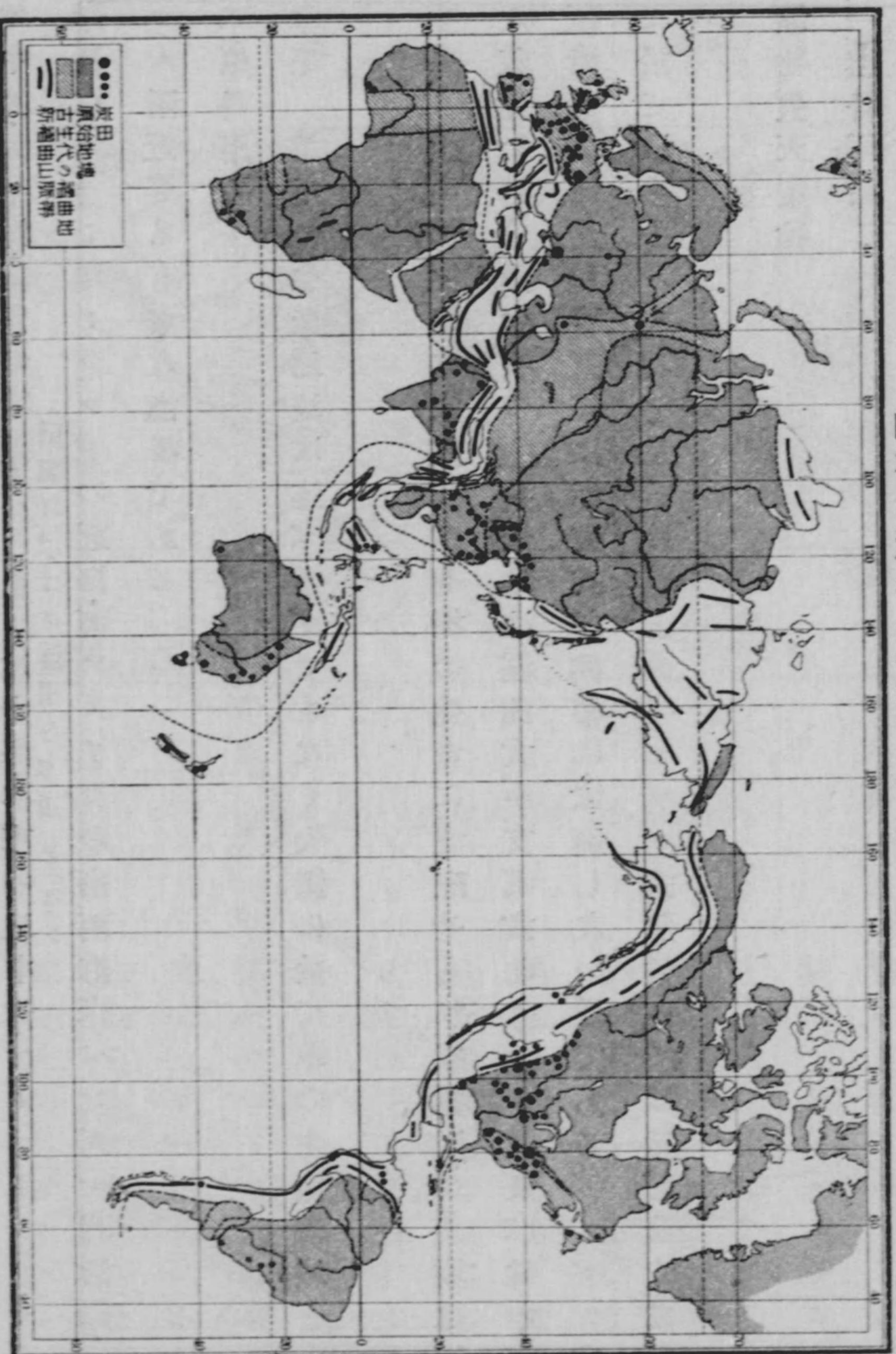
三、礦物質天産物

(一)燃料用品

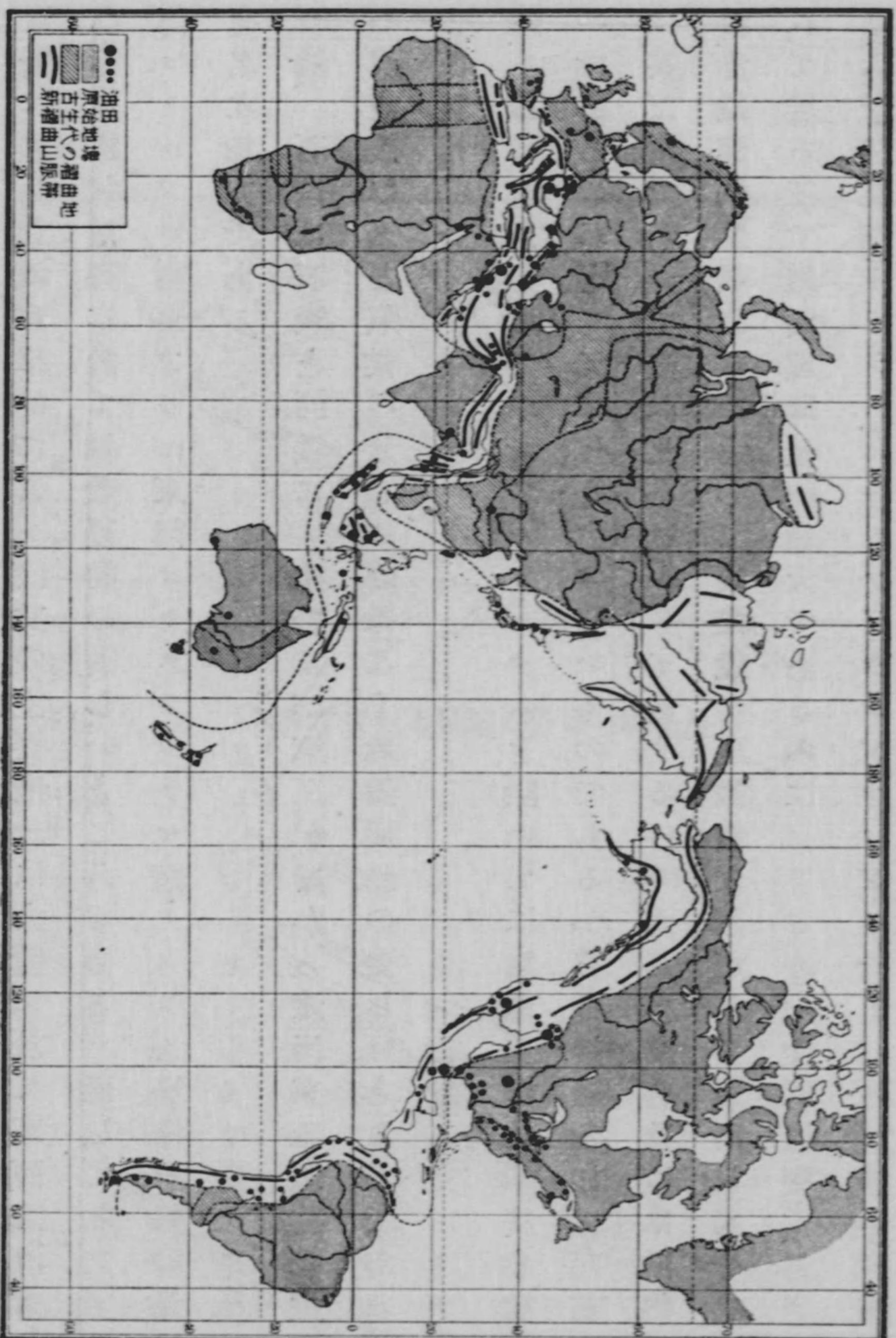
1、石炭、石炭は寒武利亞紀以後の地層には所在産出するが、殊に石炭紀層及び



世界に於ける炭田の分布 (PHILIPPSON)



第十七圖  
世界に於ける油田の分布 (PHILIPPSON)





第三紀層に産出し、地理學的に言へば其の主要産地は大體に於て東西沿海式氣候帯及び赤道式氣候帯に於て地殼變動の著しいところである。而して北アメリカの中部・ヨーロッパ・南東アジア・東部オーストラリア・南アフリカ等は石炭の産地として有名な地方である。

2、石油、石油は石炭と同様に古生層及び第三紀層から産出するが、其の主要産地は石炭と違ひ殆ど氣候の分布に關係なく地殼變動の著しいところである。

(二)原料用品

1、鐵、鐵は有用金屬の中でアルミニウムを除いては地球上に最も廣く散在するものであるけれども、元來化合力の強いものであるから、自然鐵として存在することは甚だ稀であつて、概ね化合物として産するのである。化合物には酸化鐵の磁鐵礦、赤鐵礦、褐鐵礦を初めとして炭酸鐵の菱鐵礦などがある。而して今日まで知られて居る所で、鐵礦埋藏量の最大であるのはブラジル(七十五億噸)で、アメリカ合衆國(六十三億噸)、フランス・ニューファウンドランド・キューバ・イギリス・イスパニヤ・ドイツ・ノルウェー・ロシア・支那・イギリス領インド等之に次ぐといはれてゐる。

第二十八圖



世界に於ける鐵礦の分布 (Rugg)

2、金、金は砂金殊に山金として産出し、而して山金は主として結晶片岩中の石英脈や火山岩中の石英脈に存在するけれども、要するに山地及び臺地から産出するのである。ウラル山地・東シベリヤ山地・東オーストラリア山地・アメリカ西部山地・西部オーストラリア臺地・南部アメリカ臺地等は其の有名なものである。

3、銀、銀は自然銀とし



て産出することもあるが、其の量は極めて少く、多くは化合物として産出するのである。硫黄との化合物である輝銀鑛はその最も普通のものである。而して銀鑛の主要産地は地體變動の多い構造山地に屬し、南北アメリカの西部山地の如きそれである。また銀鑛は削平山地にも産出し、エルツ山脈・オーストラリヤ山脈・カナダ東部山地等は即ち是である。

4. 銅、銅は自然銅として多少各地に産するけれども、化合物として産する方が多い。而して銅鑛には硫化物たる黄銅鑛を初として酸化物たる赤銅鑛、含水炭酸銅たる孔雀石及び紺青石等々あるが、此等の銅鑛は構造山地及び削平山地を以て主要産地とする。南北アメリカの西部山地、日本山地、ハルツ山脈地方などは其の例である。

以上世界經濟上重要な意義を有する若干の天産に就いて略述したが、之を要するに天産の分布は主に氣候や地貌に深甚の關係を有するのである。

而してさきに論じた様に國家は國によつて大に氣候や地貌を異にするのであ

る。従つて天産の産出も國家によつて大に異つてゐる。だが天産が國家の勢力に影響する見地よりみると、先づ國家は三界の産物の何れかを主として産する單一的天産國と其の何れをも産する複合的天産國とに大別することが出来る。

單一的天産國はアイスランド・ハイチ・ポリヴィヤ等の如きものである。アイスランドは大體に於て北カナダ式氣候區に位する爲、殆ど全く有用植物の栽培に適しない。玉蜀黍の栽培が行はれてはゐるけれども、其の産額の如きいふに足らぬ位のものである。また鑛産もない。故に國民の生活の基礎は牧畜殊に牧羊と狩漁とである。故に此の國は魚類(殊に干鱈)魚油、羊毛等を輸出して穀類、木材、石炭、加工品等を輸入してゐる。ハイチはスダン式氣候區に位して牧畜に適せず、従つて動物質天産の擧ぐべきものを有しない。元來金、石油、石炭等の鑛物には富んで居るけれども、未だ少しも採掘されないから、鑛物質天産の擧ぐべきものも持たない。國民は全然農業及び林業を以て生業としてゐるのである。それで此の國の天産は珈琲、棉花、蘇木、カ、オ、甘蔗糖、煙草等の如き植物質のものに限られてゐる。従つて此の國は珈琲、棉花、蘇木等を輸出して、綿製品並に鐵及び銅製品などを輸入して



ゐるのである。ボリヱイヤは西部は中亞南部式氣候區に屬し、東部はスダン式氣候區に屬し、多少農牧も行はれてゐるけれども、此の國の主要産業は鑛業であつて錫、銀、金、銅、鉛、水銀、鐵、石炭等を産する。殊に錫の産額は甚だ多い。それで此の國の輸出額の内錫の輸出額はその約三分の二以上を占め、銅、銀などの輸出が之に次ぐのである。

複合的天産國には氣候や地貌の差異から又色々の階級があつて、單一的天産國に近いものもあれば、自給自足國に近いものもある。フィンランド・オーストラリア・南アフリカ等は前者の例で、アメリカ合衆國・支那等は後者の例である。即ちフィンランドは比較的多く植物質天産を産し、オーストラリアは比較的多く動物質天産を産し、南アフリカは比較的多く鑛物質天産を産し、アメリカ合衆國及び支那は殆どあらゆる天産を産するのである。

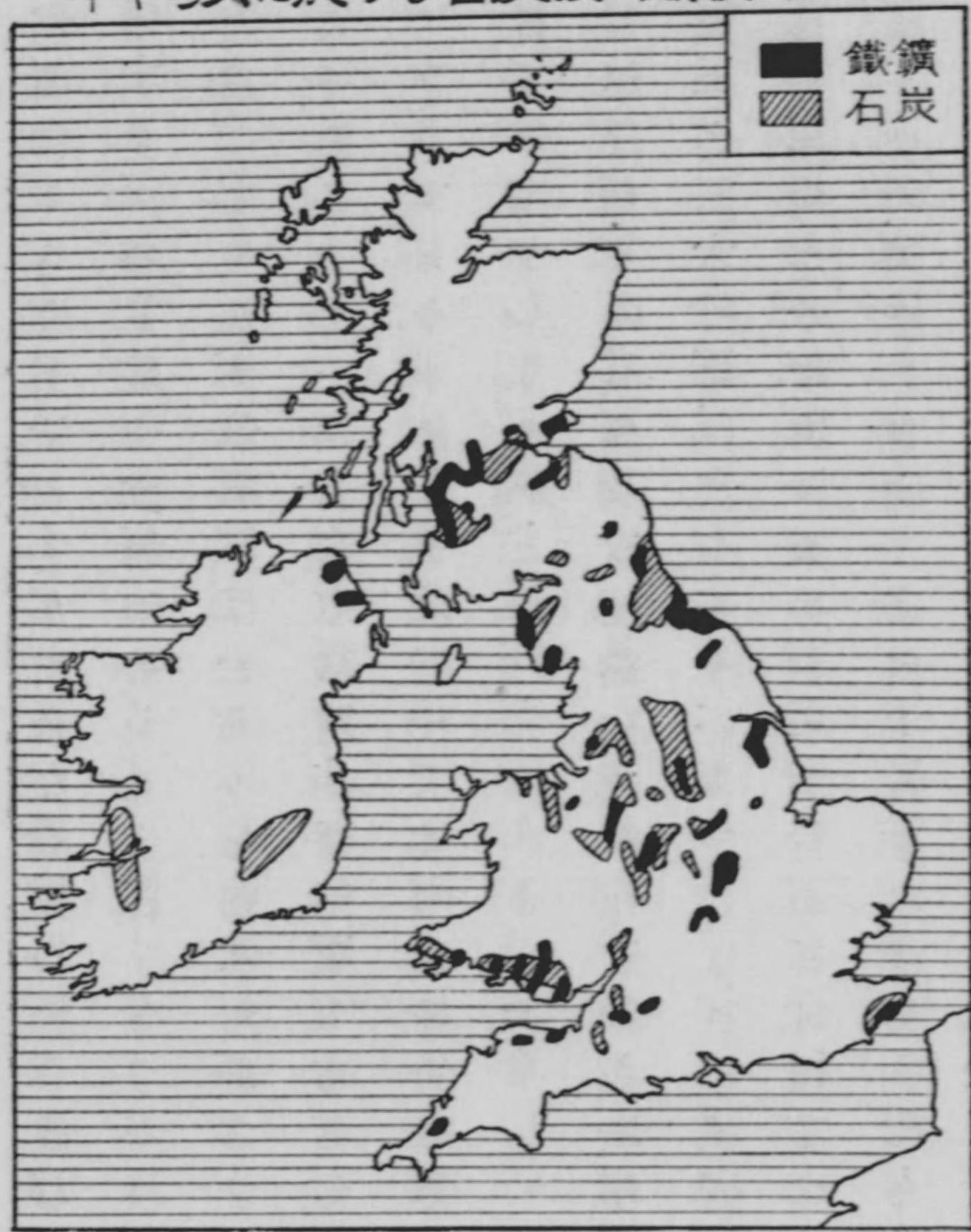
而して國力發展上天産の多種多量な國が其の乏しい國より有利であることは無論であつて、アメリカ合衆國が近時經濟上驚くべき發展をなしたのは、其の天産の豊富であることに大に關係するもので、支那が將來を有望視せられるのも全く

其の天産の豊富な爲めである。

而して國家の中には特殊の天産の多少によつて勢力の發展上に多大の影響を受けたものも少くない。イギリスの發展が石炭及び鐵鑛の豊富であることに深く關係するが如き此の一例である。一體イギリスは種々の鑛産に恵まれてゐる國である。尤も古來金銀鑛はいふに足らないが、コロンウォールの錫の如きは夙に上古に於てフェニキヤ人を誘致するの魔力を有し、従つてイギリス發展の基礎を築いたのである。然し鑛産の中でイギリスの近代の發展に深い關係をもつものは錫ではなくして石炭と鐵鑛とである。いつたい石炭の産出の如き第十八世紀までは左程重要な事項ではなかつたのであるが、爾來一國の石炭産出の如何は其の發展に至大の關係を有するに至つた。イギリスが世界經濟上優越の地位を占めるに至つた一原因は實に石炭の豊富な産出である。イギリスに石炭は到處に産するが、殊にスコットランド炭田(クライド灣とフォース灣との間にある低地に存するもの)、北部イギリス炭田(ノーザンバランド及びダラム地方にあるもの)、中部イギリス炭田(ランカシャイア・ヨークシャイア及びスタフフォードシャイア



第二十九圖  
イギリスに於ける石炭及び鐵鑛の分布



地方にあるもの及び南部ウエールス炭田は世界的に有名なものである。今日イギリスは石炭の産出に於て以前程ではないが、尙列國の間に於て優越な地位を占めてをる。尙石炭の豊富であるのと關聯して同じく近代の工業にとつて重要な鐵鑛が豊富であることもイギリスの一大天恵である。イギリスに於て特に好都合であるのは鐵鑛が炭田と同一

地若くは其の隣接地に於て採掘されることで、このため輸送費用は全然節約し得られるのである。然し最近になつてイギリスで鐵鑛の産額は大に減少し最早國內の需要にすら應ずることが出来なくなつた。けれども曾て其の豊富であつたとはイギリスの工業の發達に重大な意義を有したのである。蓋し鐵鑛が豊富であつた爲にイギリスの工業は大進歩を遂げたからである。ベルギーに於て工業の盛大であるのも一に石炭や鐵鑛の豊富なためである。イギリスやベルギーに反してフランスやイタリアに近代工業の比較的發達しないのは石炭の缺乏に大に關係する所が少くない。

我が國は種々の氣候及び地貌を包容してゐる故、各種の天産を出すけれども面積の狭少である爲、量に於て天産の少いのは實に遺憾な點である。而して如何なる國家と雖も、古來あらゆる氣候及び地貌を包容するものはなく、従つて一切の天産を自國に産出するものはない。今日アメリカ合衆國は屢々自給自足國であるといはれるけれども決して完全な自給自足國ではない。蓋し此の國も生糸、カ、オ、甘蔗糖、珈琲、護謨、錫、加里等は殆どすべて其の供給を海外より仰



いでゐるのである。故に由來強國は自國に産しない若くは乏しい天産はあらゆる手段を以て之を國外より求めたのである。近代強國の生産植民地殊に放資植民地即ち開發植民地獲得の主要動機も實に特殊天産の獲得に存するのである。例へばオランダのモルッカ諸島占取の動機が一に香料の獲得にあつたが如き、またアメリカ合衆國のハワイ諸島占領の主要動機が甘蔗糖の取得にあつたが如き、またウイットウォーターランドに於ける金の發見がイギリスのトランスバール占領の動機となつたが如き、何れも其の例である。

(1) K. Sapper, Allgemeine Wirtschafts- und Verkehrsgeographie. 2. Aufl. Leipzig u. Berlin 1930.

E. Friedrich, Allgemeine und Spezielle Wirtschaftsgeographie. 2. Ede. 3. Aufl. Leipzig u. Berlin 1926.

J. Pertsch, Geographie des Welthandels. Breslan 1927.

V. C. Finch and O. E. Baker, Geography of the World's Agriculture. Washington 1917.

G. G. Chisholm, Handbook of Commercial Geography. 10<sup>th</sup> Edit. London 1925.

L. Dudley Stamp, An Intermediate Commercial Geography. 2. Vols. London 1928.

## 第十一節 民族

民族とは概ね同一の血統より出で、略ぼ一定の土地に住する人類の團體を謂ふ。而して大體に於て同様の體格、性格及び文化(言語、宗教など)を有するを以て其の特色とする。

こゝに注意すべきは民族(People)と國民(Nation)との差異である。前に述べた如く、國民とは國家の人民の謂で、一定の地域に於て唯一の權力の下に生活する一定の人民をいふのである。故に民族と國民とは或場合に於ては一致するともあるが、例へばポルトガルの場合の如く、然し凡ての場合に於て一致するものではない。否寧ろ一致しない場合が多い。即ち或時には一民族が二個以上の國民に分れることもあれば、或時には一國民が二個以上の民族より成ることもある。例へばエダヤ民族がポイランド・ヨイロツバ・ロシヤ・アメリカ合衆國・ルーマニヤ・ドイツ・ホンガリヤ・チッコスロヴァキヤ・イギリス・オーストリア・アビシニヤ・アジャトルコ・リトワニヤ・シリヤ・フランス・バレスチナ・モロツコ・オランダ・ギリシヤ・アジャ・ロシヤ・ラト



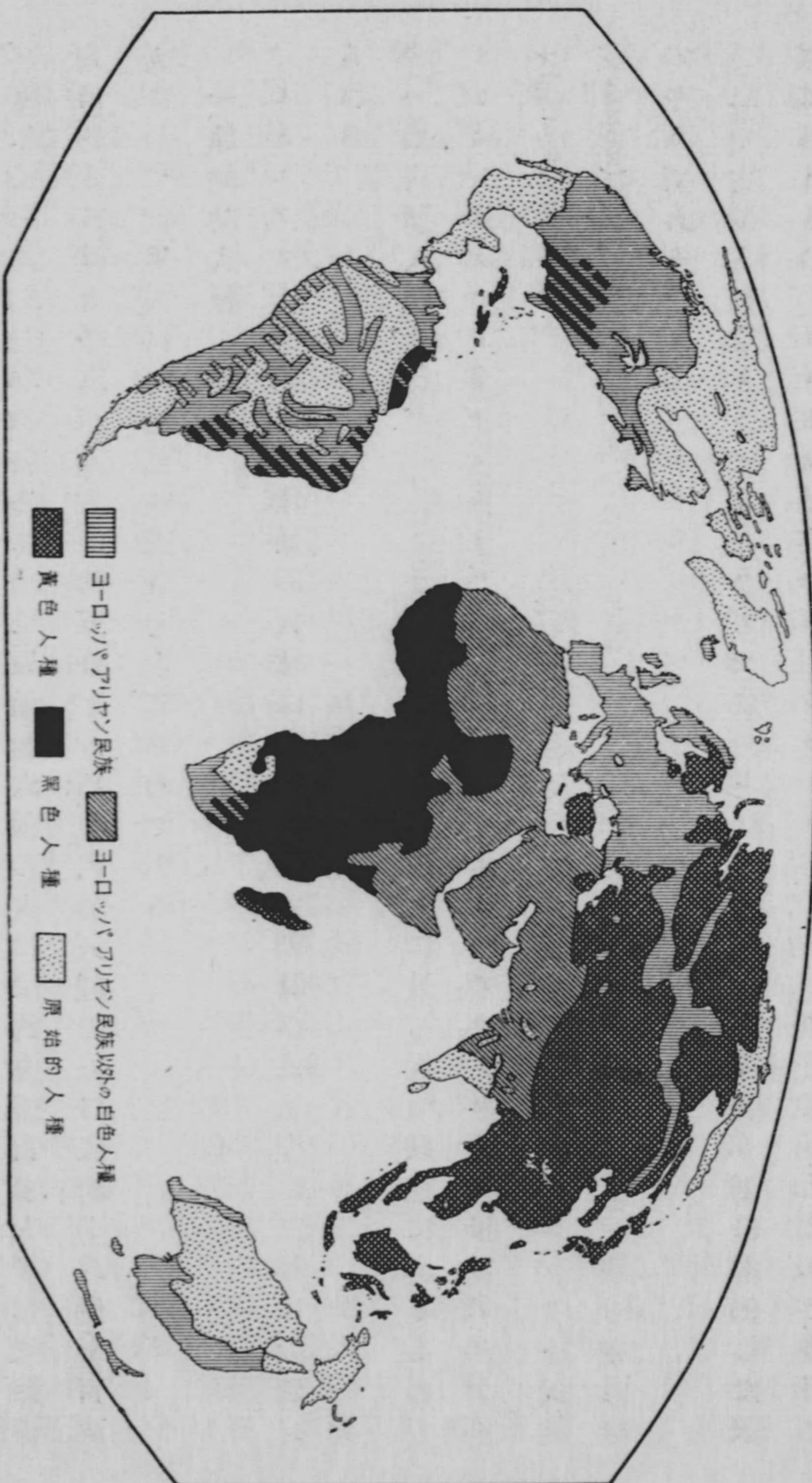
ガイヤ・メソポタミヤ・アルジェリヤ・ユーゴスラヴィヤ・ヨーロッパ・エジプト等の諸國民に分れるが如き、また舊ヨーロッパ(フィンランドを除く)國民が大ロシア民族・小ロシア民族・白ロシア民族・ポーランド民族・リトワニヤ民族・ドイツ民族・ルーマニヤ民族・アルメニヤ民族・ユダヤ民族・コーカシヤ民族・フィンウグリヤ民族・トルコ民族等の諸民族より成りしが如き是である。

而して國家は民族によつて國民の結合に影響を受け、更に其の勢力に至大の影響を受くるのである。

民族と國家との關係を觀察するに當り先づ民族及び其の本幹たる人種の分布に就いて略述しよう。

抑、世界の人類はストラツプシヤン・ウオイレ・ブリントン・キーン・リヒトホーフ(1)エン諸氏の研究により原始的人種(Protomorphy Rassen)及び現代的人種(Archimorpho Rassen)の二大群に分つことが出來ると考へられる。原始的人種とは有形性及び無形性に於て原始的狀態にあるものをいひ、現代的人種とは有形性及び無形性に於て現代的に進化せるものをいふのである。

第三十圖 世界に於ける種族の分布





而して一九二七年の初めに於て原始的人種の人口は約九千百萬人にして世界人口(約十八億九千八百萬人)の約五分を占め、現代的人種の人口は約十八億七百萬人にして世界人口の約九割五分を占めるのである。

#### 一、原始的人種

ストラッツ氏に従へば原始的人種は太古型、中古型及び近古型の三種に大別せられる。

(一)太古型人種(Aelteste protomorphen Rassen)とは原人に最も近い状態にあるもので、オーストラリア民族(Australians)、パプア民族(Papuan)、南アフリカ民族即ちブッシュメン(Bushmen)及びホッテントット(Hottentots)等が之に屬する。狭義のネグリト民族(Negritos)即ちアイタ民族(Aitha)、ミンコピトアラ民族(Mincopitolar)等も亦同様のやうである。

(二)中古型人種(Spättere protomorphen Rassen)とは太古型の人種より更に進化した状態にあるもので、アメリカ民族(Americans)、オーストラリア民族(Australians)等が之に屬する。オーストラリア民族とはカナカ民族(Kanakas)、マオリ民族(Maoris)

ダヤク民族(Dajak)、バタク民族(Batak)、トンガ民族(Tongans)等を含む。

(三)近古型人種(Jüngere protomorphen Rassen)とは現代的人種に最も近い状態にあるもので、アッカ民族(Akka)、エスキモー民族(Eskimos)、アイヌ民族(Ainu)、ウエダ民族(Weddas)、ドラーヴィダ民族(Dravidians)等が即ちそれである。アッカ民族以外の中央アフリカの侏儒及びアジアの主として北東隅に住する古アジア人即ちカムチアダル民族一名イテルメス民族(Kamchadals or Itelmes)、コリアーク民族(Koriaks)、チュクチ民族(Chukchis)、ユカギル民族(Yukaghirs)、ヒニセイオスチアク民族(Yenissei-Ostjaks)等も之に屬する様である。

#### 二、現代的人種

こゝで現代的人種といふのはストラッツ氏の現代的人種(Archimorphe Rassen)及び混和的人種(Metamorphen Rassen)を包括したものに該當し、これは更に黒色人種、黄色人種及び白色人種に大別するを得るのである。

#### (一)黒色人種

黒色人種と稱するはストラッツ氏の黒色人種(Schwarze Rasse)、ブリントンの南



部アフリカ人種(Austfrican race)に略ぼ該當するものである。

黒色人種の特徴に就いていへば、其の最も著しいのは皮膚の色が黒色を呈することである。黒色であるといふても一様でなく、帯褐色のものもあれば又暗黒色のものもある。頭髮の状は概ね旋曲状である。其の質は剛くして其の色は黒いが多い。體毛と鬚髯とは通常少い。頭形は概して長頭に屬する。身長は大なる方である(人類の平均身長一、六五米)。鼻幅は一般に廣い。

一九二七年の初めに於て黒色人種の人口は約一億一千万人にして、世界人口の五分強を占めるのである。

黒色人種は主としてサハラ沙漠以南のアフリカに住し、尙南北アメリカにも尠からず弘布して居る。而して通常スダン民族・バントツ民族・アメリカ及びリベリヤ黒人に大別せられる。

A、スダン民族(Sudan Negroes)は黒色人種の特徴を最もよく具へて居るので本來の黒色人種と稱せられてゐるが、サハラ沙漠の南方緯度五度乃至六度に亘つて西アフリカから東アフリカまで分布して居る。

B、バントツ民族(Bantu Negroes)はスダン民族の南方に於て即ち中部及び南東アフリカ一帯に弘布して居る。

C、アメリカ及びリベリヤ黒人はアメリカ合衆國・中部アメリカ及び南アメリカ諸國並にリベリヤに住する。

### (二)黄色人種

今黄色人種と呼ぶものはストラツツ氏の黄色人種(Yelbo Race)及び混和的人種のフィン・ウグリヤ人及びマライ人を包括したもの、又ブリンントン氏のアジア人種(Asian Race)及び島嶼沿海住民(Insular and Littoral Peoples)を包括したものに略ぼ該當するのである。

黄色人種の特徴に就いていへば、其の最も著しいのは皮膚の色が黄色を呈することである。然し皮膚の色が黄色であると云ふても眞黄色ではない。たゞ他の人種に比べて黄色に近いことを意味し、換言すれば黄色ポイと云ふに過ぎない。故に白色人種に似て、白色に近いものもあれば、又黒色人種に似て、黒色に近いものもある。頭髮の状は眞直である。其の色は黒く、其の量は多い。然し體毛と鬚髯



とは普通少い。頭形は概ね短頭である。身長は平均一、六米位である。顴骨は突出して居る方で、鼻幅は一般に中位である。それから黄色人種の主なる特徴の一は眼形である。凡そ人類の眼形には二種あつて、其の一は黄色人種通有の眼形で上眼瞼が下眼瞼の一部を隠蔽する程に垂れ被つて居るもので、之をモンゴル式眼形と稱す、他の一はヨーロッパ人種に見る様な眼形である。此の所謂モンゴル式眼形なるものは實に黄色人種の一特性である。

一九二七年の初めに於て黄色人種の人口は約七億萬人にして、世界人口の四割弱を占めるのである。

黄色人種は北東及び南東ヨーロッパにも住してゐるが、主としてアジアに住し、本洲の主要住民をなして居る。而して北方民族・南方民族・日鮮民族及びマライ民族に大別せられる。

A、北方民族とは所謂ウラルアイタイ民族 (Uraltaien) と稱せられるもので、ブリントン氏のシベリヤ派 (Siberic Branch) に略ぼ當るものである。此の北方民族は更にアルタイ民族とウラル民族とに分れる。

(1) アルタイ民族はアジアの中部地方を占有し、東は本大陸の北東から西はヨーロッパの南東に至つて居る。更に分れて狭義のモンゴル民族・トルコ民族及びツングース民族等となる。

I、狭義のモンゴル民族 (Mongols) は黄色人種の特徴を最もよく具備して居るものである。されば黄色人種のことをモンゴル人種とも稱する。彼等は大体西はバミール地方より、東は興安嶺に至り、北はバイカル湖より、南は北部チベットに達し、要するに内外蒙古一帯に及んで居る。而して此のモンゴル民族はまた東モンゴル民族・北モンゴル民族及び西モンゴル民族に分れる。

II、トルコ民族 (Turks) はレナ河地方からアドリヤ海附近まで分布して居る。ヴァンベリ (H. Vambery) 氏に従へば、トルコ民族はシベリヤ・トルコ民族・中アジア・トルコ民族・ヴォルガ・トルコ民族・黒海・トルコ民族・西トルコ民族・オスマン・トルコ民族等に分れる。

III、ツングース民族 (Tunguses) はエニセイ河の東方からレナ河上部に至り、更に此處から東方オホーツク海及び日本海に達する大地域に分布し、更に狭義のツング



イス民族・マンシウ民族(Manchus)及び其の他若干の民族に分れる。我が樺太に住するオロツケ民族(Oroks)及びギリアク民族(Giliaks)は何れもツングース民族に屬するものである。

(2)ウラル民族はウラル山脈の北部と其の中部との兩側一帯即ちエニセイ河より東海に至るまでの廣大な地域を占有して居る。分れてサモエード民族及びフィンウグリヤ民族となる。

I、サモエード民族(Samoyedes)はベチョラ河地方からエニセイ河地方までの沿海一帯に住して居る。

II、フィンウグリヤ民族(Finn-Ugrians)は主としてヨーロッパの北邊に住し、またフィン民族及びウグリヤ民族に分れる。

B、南方民族とは北方民族に對しての名稱で、主として東南アジアに分布し、ブリントン氏のシナ派(Sinitic Branch)に略ぼ當るものである。此の南方民族は更に支那民族とチベット民族及びインド支那民族とに分れる。

(1)支那民族は一に漢民族とも稱せられ、主として支那本部に住んで居る。

(2)チベット民族及びインド支那民族は主としてチベット及びインド支那に住して居る。而してインド支那民族は分れてタイ民族(Thai)即ち廣義のシャム民族・アンナン民族(Annamese)・カンボチャ民族(Cambodians)・ビルマ民族(Burmese)等となる。

C、日鮮民族の民族學的位置は今日猶不明であるが、體格上及び歴史上より考察すれば、既にリヒトホーフエン氏が云へる如く、其の骨子となるものは同一系統であり、而して朝鮮民族にはツングース民族系が混合し、日本民族にはアイヌ民族系が一部混合し又マライ民族系が一部混合してゐる様である。

D、マライ民族(Malays)はブルーマンバハ(Blumenbach, 一七五二——一八四〇年)氏以來通常一の特殊的人種を形成するものと考へられて居るが、最近の研究によれば廣義の黄色人種の一部と考へられるに至つた。然し彼等は大にインドオーストラリヤ民族の如き原始的人種と混和して居るところがある。故にストラッツ氏はマライ民族を混和的人種の一に數へて居る。

マライ民族は主としてインドネシヤ・ミクロネシヤ及びポリネシヤの諸島に分布してゐるが、更に狹義のマライ民族即ちインドネシヤ民族(Indonesians)・ミクロネ



シヤ民族 (Micronesians)、ポリネシヤ民族 (Polynesians)、メラネシヤ民族 (Melanesians) に分れる。

### (三) 白色人種

白色人種と稱するはストラッツ氏の白色人種 (Weisse Rasse) 及び混合的人種の一たるハム人種 (Hamiten) を包括し、又ブリントン氏のユーラフリカ人種 (Eurafrikaner) に略ぼ該當するものである。

白色人種の特徴に就いて述べると、其の最も著しい點は皮膚の色が白色を呈することである。然し皮膚の色が眞に白色を呈してゐるのは、主としてヨーロッパの北部地方に住するもので、其の他の地方に住するものは多少の帶色がある。即ちヨーロッパの南部のものには帶褐色のものがあつたり、又アフリカ北部、アジア西部及びインド地方のものには濃褐色を呈し或は帶黑色の甚だしいものがある。頭髮の狀は曲波狀のものが多い。尤も眞直のものもある。其の質は軟で、其の色は金色のものもあれば黑色のものもある。體毛と鬚髯とは普通に多い。頭形は概ね中頭に屬する。身長は區々であるけれども、一般に高い。顴骨は小さくして黄

色人種の様に出出して居ない。鼻幅は一般に狭い方である。

一九二七年の初めに於て白色人種の人口は約十億萬人にして、世界人口の五割三分強を占めるのである。

白色人種は今日は主としてヨーロッパの大部分、北部アフリカ西部、アジア及びインドなどに居住し、また新世界の各地に分布してゐるが、北方民族及び南方民族に分れる。

A. 北方民族とはブリントン氏の北地中海派 (North Mediterranean Branch) と稱するものにして、通常アリヤン民族 (Aryans) と呼ばれるもので、一名インド・ヨーロッパ民族又はインド・ゲルマン民族とも云はれてゐる。この北方民族は更にヨーロッパ・アリヤン民族とアジア・アリヤン民族とに分れる。

(1) ヨーロッパ・アリヤン民族は主としてヨーロッパに住し、ヨーロッパ住民の主要部分をなして居るが、また新世界の發見以後その中央式氣候帯にも廣く擴布した。普通白色人と稱するはこのヨーロッパ・アリヤン民族をいひ、現時世界の最優勝者の地位にあるのである。而して北ヨーロッパ民族と南ヨーロッパ民族とに